北埋調報141

上川町

日　東　遺　跡

一般国道450号上川町上川上越道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成11年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

上川町

日　東　遺　跡

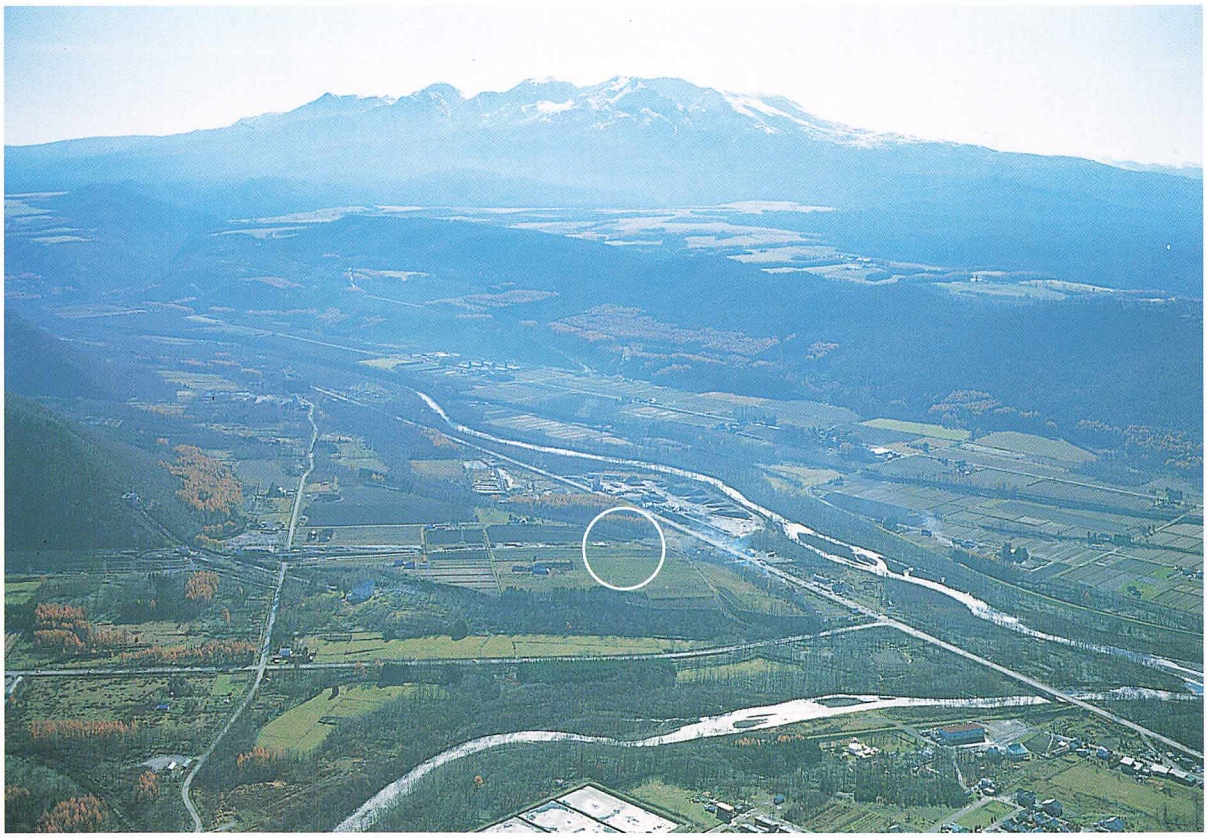
一般国道450号上川町上川上越道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成11年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

石器ブロック１出土の石器

口絵2



1　航空写真（北から）

2　調査状況（南から）

例　　言

1　この報告書は、一般国道450号上川町上川上越道路建設工事に伴って平成11年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した上川町日東（にっとう）遺跡の埋蔵文化財発掘調査に関するものである。

2　本書の作成は、第1調査部第3調査課で行ったが、編集は長沼孝・佐藤剛が行い、各章または節・項の執筆は以下のとおりである。

Ⅰ章5（2）、Ⅱ章3　越田雅司、Ⅱ章1、Ⅲ章4、Ⅴ章1　佐藤　剛、

Ⅲ章1～3　佐藤　剛・長沼　孝、

Ⅰ章1～4・5（1）・5（3）～（6）、Ⅱ章2、Ⅴ章2　長沼　孝

3　作業および年代測定・分析などは下記の機関または個人に依頼した。

現地測量およびデータ入力など：(株)シン技術コンサル

放射性炭素年代測定：(株)地球科学研究所（Ⅳ章1）

樹種同定：北海道開拓記念館　三野紀雄（Ⅳ章2）

再堆積軽石分析：北海道大学大学院地球環境科学研究科　中村有吾（Ⅳ章3）

4　現地の写真撮影は、長沼・越田・佐藤が行い、遺物の撮影は、越田が行った。

5　出土遺物は、上川町教育委員会が、写真・データなどの記録類は財団法人北海道埋蔵文化財センターが保管している。

6　調査にあたっては、下記の機関および人びとの指導ならびに協力を得た。(順不同、敬称略)

上川町教育委員会、白滝村教育委員会、北見市北網圏文化センター、端野町郷土資料館、北海道教育委員会、北海道開拓記念館

木村英明、斉藤　傑、高倉　純、中谷良弘、太田敏量、大橋秀規、三野紀雄、中村有吾

記号等の説明

1　遺物分布図の縮尺は、1/40ないし1/60としたが、任意の縮尺としたものもあるので、スケールを付けた。

2　遺物は、実測図、写真ともに2/3としたが、実測図に関してはすべてスケールを付けた。

3　調査区域図および遺物分布図などの方位記号は真北を、レベルは標高（単位m）を示す。

4　遺物分布図では以下の記号を使用した。

●：剥片　◆：石刃　★：縦長剥片　◆：削片　⋈：細石刃　⧗：細石刃核　⮝：尖頭器

♦：両面調整石器　▲：彫器　■：掻器　▼：削器　⮟：二次加工ある剥片

5　遺物実測図と同時に示した破片接合図の数字は、遺物番号、網部分はⅡ層出土であることを示している。また、母岩別資料の番号下の数字は、Ⅱ層出土遺物の遺物番号またはⅠ層出土の発掘区である。

6　掲載遺物一覧表の長さ、幅、厚さは、いずれも最大の計測値で、細石刃に関しては欠損している部位側に+を付けた。末端側が欠損しているものは計測値+、中間部は+計測値+、打点側が欠損しているものは+計測値である。また、重量についても欠損しているものは、( ) で表示した。

目　　次

口絵（カラー図版）
例言・記号等の説明
目次・挿図目次・表目次・図版目次
Ⅰ　調査の概要 ……1
　1　調査要項 ……1
　2　調査体制 ……1
　3　調査に至る経緯 ……1
　4　調査日誌抄 ……2
　5　調査概要 ……4
　　(1) 発掘区の設定 ……4
　　(2) 遺跡の土層 ……4
　　(3) 調査の方法 ……11
　　(4) 整理の方法 ……12
　　(5) 遺構・遺物の分類 ……12
　　(6) 調査結果の概要 ……14
Ⅱ　遺跡の位置と周辺の環境 ……15
　1　遺跡の位置と周辺の遺跡 ……15
　2　日東遺跡調査研究略史 ……20
　3　遺跡周辺の地形・地質 ……20
Ⅲ　遺構と遺物 ……21
　1　炭化木片ブロック ……21
　2　出土石器 ……21
　3　石器ブロック ……34
　4　母岩別資料 ……35
Ⅳ　自然科学的分析等 ……63
　1　放射性炭素年代測定結果　（㈱地球科学研究所） ……63
　2　上川町日東遺跡出土の炭化木材　（三野紀雄） ……65
　3　上川町日東遺跡における再堆積軽石の起源　（中村有吾） ……67
Ⅴ　まとめ ……71
　1　石器ブロック1出土の石器群について ……71
　2　石器ブロック1の性格と位置付け ……78
掲載遺物一覧表 ……83
写真図版（モノクロ）

挿　図　目　次

図Ⅰ－1　遺跡周辺の地形・調査区位置図……5
図Ⅰ－2　発掘区設定図……6
図Ⅰ－3　土層図(1)……7
図Ⅰ－4　土層図(2)……8
図Ⅰ－5　土層図(3)……9
図Ⅰ－6　表土上面・最終面地形図……10
図Ⅰ－7　調査方法……11
図Ⅰ－8　遺構・遺物分布図……13
図Ⅱ－1　上川町内遺跡分布図……16
図Ⅱ－2　日東遺跡の遺物(1)……18
図Ⅱ－3　日東遺跡の遺物(2)
・大函遺跡の遺物……19
図Ⅲ－1　炭化木片ブロック図……22
図Ⅲ－2　Ⅱ層出土の遺物(1)細石刃……24
図Ⅲ－3　Ⅱ層出土の遺物(2)細石刃……25
図Ⅲ－4　Ⅱ層出土の遺物(3)
細石刃核・彫器・削片……26
図Ⅲ－5　Ⅱ層出土の遺物(4)
掻器・二次加工ある剥片・石刃……27
図Ⅲ－6　Ⅰ層出土の遺物(1)細石刃……30
図Ⅲ－7　Ⅰ層出土の遺物(2)細石刃・細石刃核……31
図Ⅲ－8　Ⅰ層出土の遺物(3)尖頭器・彫器・掻器・
削器・二次加工ある剥片・削片……32
図Ⅲ－9　Ⅰ層出土の遺物(4)掻器・石刃・削片・
縦長剥片……33
図Ⅲ－10　遺物分布図……36
図Ⅲ－11　石器ブロック1分布図(1)全体……37
図Ⅲ－12　石器ブロック1分布図(2)……38
図Ⅲ－13　石器ブロック1分布図(3)……40
図Ⅲ－14　母岩別資料(1)母岩別資料1……41
図Ⅲ－15　母岩別資料(2)母岩別資料2・4……42
図Ⅲ－16　母岩別資料(3)母岩別資料5……44
図Ⅲ－17　母岩別資料(4)母岩別資料6……45
図Ⅲ－18　母岩別資料(5)母岩別資料6……46
図Ⅲ－19　母岩別資料(6)母岩別資料7……47
図Ⅲ－20　母岩別資料(7)母岩別資料7・8……49
図Ⅲ－21　母岩別資料(8)母岩別資料9……50
図Ⅲ－22　母岩別資料(9)母岩別資料10……52
図Ⅲ－23　母岩別資料(10)母岩別資料10……53
図Ⅲ－24　母岩別資料(11)母岩別資料10……54
図Ⅲ－25　母岩別資料(12)母岩別資料12……55
図Ⅲ－26　母岩別資料(13)母岩別資料13・21……56
図Ⅲ－27　母岩別資料(14)母岩別資料16・18・20……57
図Ⅲ－28　母岩別資料(15)母岩別資料22……58
図Ⅲ－29　母岩別資料(16)
Ⅱ層出土の母岩別資料……59
図Ⅲ－30　母岩別資料(17)
母岩別資料3・11・14・15・17・19……62
図Ⅳ－1　放射性炭素年代測定(C)・
樹種同定試料(W)試料出土位置図……64
図Ⅳ－2　炭化木材の組織顕微鏡写真……66
図Ⅳ－3　試料採取地点……68
図Ⅳ－4　試料採取地点の層序……68
図Ⅳ－5　試料1、2、3の岩石学的特徴……69
図Ⅳ－6　大雪御鉢平火砕流・降下軽石(模式試料)
の岩石学的特徴……69
図Ⅴ－1　細石刃核・彫器の角度の比較……73
図Ⅴ－2　石器ブロック1・Cb－2分布図……73
図Ⅴ－3　調査区・器種・層位別遺物分布図(1)……76
図Ⅴ－4　調査区・器種・層位別遺物分布図(2)……77
図Ⅴ－5　石器ブロック1の石器……79

表　目　次

表Ⅰ－1　出土石器一覧表……14
表Ⅱ－1　上川町内遺跡一覧表……17
表Ⅲ－1　石器ブロック出土石器一覧表……35
表Ⅲ－2　母岩別資料石器一覧表……39
表Ⅳ－1　炭化木材の樹種……66
表Ⅴ－1　石器ブロック1出土石器一覧表……71
表Ⅴ－2　細石刃の計測値……72
掲載遺物一覧表……83

図 版 目 次

口絵１　石器ブロック１出土の石器
口絵２－１　航空写真（北から）
口絵２－２　調査状況（南から）
図版１　航空写真
　１　遺跡と上川町市街（南から）
　２　遺跡全景（西から）
図版２　土層断面
　１　試掘トレンチ土層断面
　　（軽石サンプル採取地点3、東から）
　２　試掘トレンチ土層断面
　　（O－32～35南壁、北西から）
図版３　調査状況ほか
　１　昭和55・56年調査区域
　　（今年度調査地点・南西から）
　２　25%調査（北西から）
図版４　遺物出土状況（1）
　１　石器ブロック1（P－25区、南西から）
　２　石器ブロック1（P－25区、南西から）
図版５　遺物出土状況（2）
　１　石器ブロック1（Q－25区、南西から）
　２　石器ブロック1・細石刃
　３　石器ブロック1・細石刃
　４　石器ブロック1・掻器
　５　石器ブロック1・掻器
図版６　調査状況
　１　包含層調査（P－25付近、北から）
　２　包含層調査（北東から）
図版７　出土遺物（1）
　１　Ⅱ層出土の石器（2/3）
図版８　出土遺物（2）
　１　Ⅰ層出土の石器（1）（2/3）
図版９　出土遺物（3）
　１　Ⅰ層出土の石器（2）、母岩別資料（1）（2/3）
図版10　出土遺物（4）
　１　母岩別資料（2）（2/3）
図版11　中谷資料（1）
　１　細石刃（1）（2/3）
　２　細石刃（2）（2/3）
図版12　中谷資料（2）
　１　細石刃核・彫器・掻器ほか（2/3）
　２　削器・石刃（2/3）

Ⅰ　調　査　の　概　要

1　調　査　要　項

事　業　名　　一般国道450号上川町上川上越道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委　託　者　　北海道開発局旭川開発建設部
受　託　者　　財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺　跡　名　　日東遺跡（北海道教育委員会登載番号F－10－3）
所　在　地　　上川郡上川町日東78
調査面積　　1,126㎡
調査期間　　平成11年4月26日～平成1年3月24日（現地調査6月7日～7月28日）

2　調　査　体　制

財団法人北海道埋蔵文化財センター　理事長　大澤　満
専務理事　佐藤哲人（平成11年5月31日まで）
　　宮崎　勝（平成11年6月1日から）
常務理事　木村尚俊（平成11年8月16日から）
総務部長　中田　仁　　調査第1部長　畑　宏明（平成11年8月15日まで）
　　木村尚俊（兼務）（平成11年8月16日から）
調査第1部第3調査課課長　長沼　孝（発掘担当者）
同　主任　越田雅司（発掘担当者）
同　文化財保護主事　佐藤　剛（発掘担当者）
同　文化財保護主事　直江康雄

3　調査に至る経緯

昭和62年に建設大臣によって指定された全国の高規格幹線道路網14,000kmのうち、北海道の整備道路は、2,828kmである。このうち日本道路公団が国土開発幹線道路として北海道縦貫・横断自動車道としての整備予定が1,378km、北海道開発局が一般国道の自動車専用道路として整備予定の5路線（日高、深川・留萌、旭川・紋別、帯広・広尾、函館・江差）が450kmとなっている。

旭川・紋別自動車道は、始点が旭川市で、比布町、愛別町、上川町、白滝村、丸瀬布町、遠軽町、上湧別町、湧別町を経由して終点のオホーツク海に面した紋別市に至る延長130kmの路線である。この路線のうち上川町上越から北見峠を抜ける上北トンネルを通り白滝村へ至る上越白滝道路建設に関わる埋蔵文化財については、平成4年の埋蔵文化財保護のための事前協議書の提出以来、所在確認調査、範囲確認調査、路線変更に伴う現状保存などの経過を経て、平成7年から5年間で、11遺跡、90,840㎡の発掘調査が財団法人北海道埋蔵文化財センターと白滝村教育委員会によって行われている。また、現状保存された6遺跡については、旧路線および新路線との間の部分を加えた204,352.33㎡が平成9年に国指定史跡に追加され、すでに指定済の「白滝遺跡」（白滝第13地点遺跡）と合わせて

「白滝遺跡群」（面積226,250.33㎡）と名称変更された。

上川町市街から上北トンネル入口の上越に至る上川上越道路の延長18㎞については、平成３年より計画が具体化した。一方、計画路線のうち日東地区については、昭和30年頃より地元地主による遺物採集が行われ、周知の埋蔵文化財包蔵地「日東遺跡」として登載され、さらに昭和55・56年には町教委による発掘調査も行われていた。

そのような状況で、平成６年10月に埋蔵文化財保護のための事前協議書が旭川開発建設部長から北海道教育委員会（以下道教委）へ提出され、その後、道教委による所在確認調査が平成７年８月に、範囲確認調査が平成９年10月に行われた。その結果、日東遺跡においては、工事区域内に約920㎡の埋蔵文化財包蔵地が確認され、協議の結果、発掘調査による記録保存を行うこととなった。発掘調査については、旭川開発建設部、道教委、上川町、財団法人北海道埋蔵文化財センターなどの協議の結果、平成11年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した。

4　調査日誌抄

４月15日(木)　発掘調査作業員募集要項を上川町広報に掲載。

５月12日(水)　作業員募集などについて上川町教育委員会と打合わせ。

５月13日(木)　進入道路、現地事務所設置場所などについて上川道路建設事業所などと打合わせ。

５月24日(月)　作業員雇用説明、面接。

５月27日(木)　～６月４日(金)
現地事務所設置、借上げ備品類受け入れなど準備作業。

６月７日(月)　調査員現地入り、環境整備、基準点測量など。

６月８日(火)　現地事務所開所、調査開始、重機による表土上部除去、杭打ち。

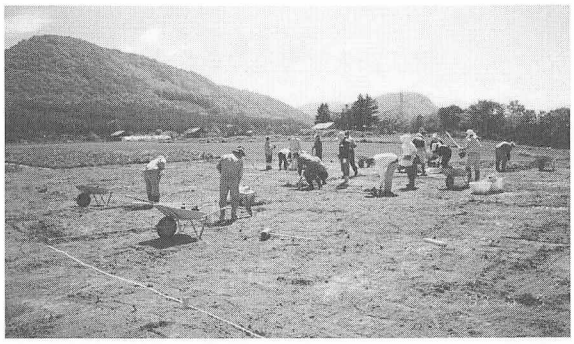
６月９日(水)　25%調査開始、杭打ち、地形測量。

６月10日(木)　Q－25表土より細石刃・細石刃核、Ⅱ層より掻器出土。
Q－25周辺に遺物包含層と考えられるⅡ層が残存していることが確認される。

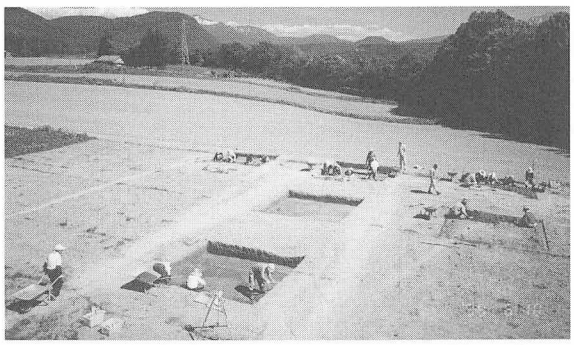
６月11日(金)　遺物出土位置計測開始。

６月16日(水)　土層観察ラインを南北はPライン、東西は26ラインとする。

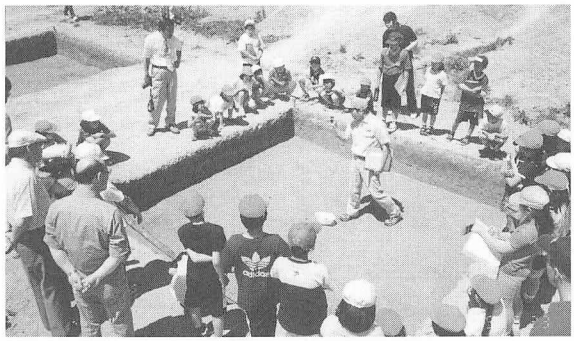
６月23日(水)　25%調査終了、包含層調査開始。
遺物包含層はQ－25周辺のみに残存、表土遺物もPラインより南側に多いことが確認され、包含層調査を南側のQラインの発掘区より展開する。
上川小学校3年生など42名調査状況見学。



６月９日　調査開始直後



６月10日　25%調査



６月23日　上川小学校３年生遺跡見学

6月28日(月)　上川町教育委員会・広報課など調査状況見学。
上川小学校6年生など32名調査状況見学。

6月29日(火)　Q－25に隣接するP－25もⅡ層が残存し、細石刃・砕片などが出土。
北海道新聞社取材。

6月30日(水)　P－25Ⅱ層で、石器類の分布に重複して炭化木片が確認される。
上川小学校5年生など37名調査状況見学。
開発局工事状況記録映画撮影の一環として遺跡発掘調査状況を撮影（HBC映画社）。

7月2日(金)　Q－22表土より楔形細石刃核出土。
土層観察のためP－32～35、K－42に重機にてトレンチ掘開。
札幌大学木村英明、北海道開拓記念館中田幹雄、札幌大学博物館実習学生など50名見学。

7月6日(火)　土層観察トレンチの壁清掃中にP－33表土より白滝型細石刃核出土、他に遺物は全くなく、調査区域の拡張などは行わず。
旭川開発建設部関係者など調査状況見学。

7月8日(木)　P－25Ⅱ層より細石刃・砕片、炭化木片良好な状態で出土が続く、出土位置計測遺物976点、出土位置計測炭化木片232点。

7月15日(木)　北海道大学地球環境科学研究科大学院生中村有吾テフラ調査など。

7月21日(水)　O－21表土より尖頭器出土。

7月22日(木)　P－25の調査終了、出土位置計測遺物1,203点となる。

7月23日(金)　人力による包含層調査終了（49発掘区・784㎡）
遺物水洗終了。

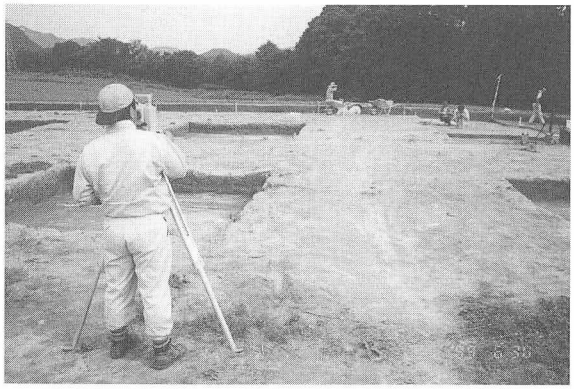
7月24日(土)　上川町教育委員会主催「ふるさと探訪－遺跡見学会」15名、遺跡・遺物など見学。

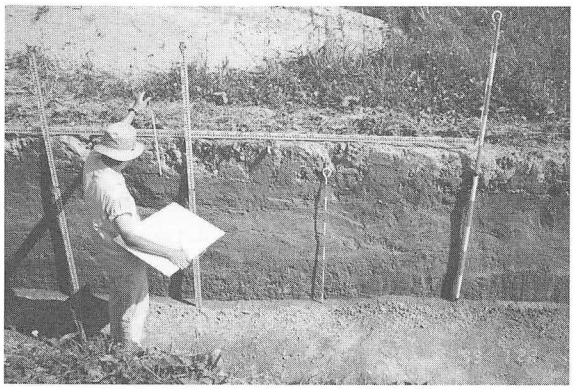
7月26日(月)　重機調査、トレンチなど埋め戻し、発掘機材水洗・梱包など。

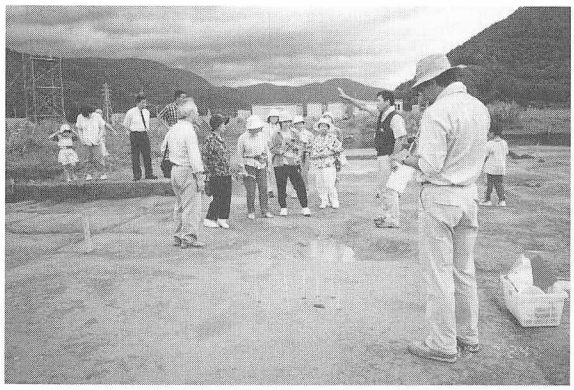
7月27日(火)　調査終了、発掘機材運搬、環境整備など。

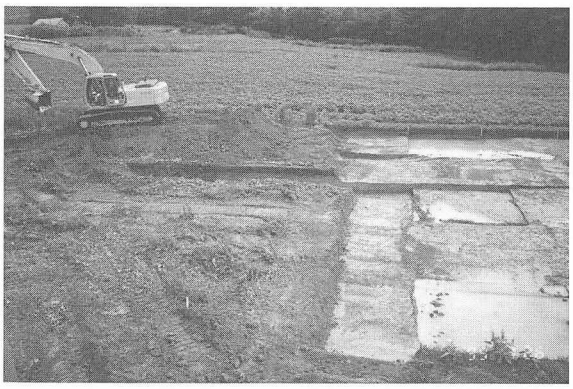
7月28日(水)　借上げ備品など撤収、調査員引き上げなど。

7月30日(金)　現地事務所解体、撤収。


6月30日　遺物取り上げ状況


7月22日　トレンチ土層断面実測


7月24日　上川町主催遺跡見学会


7月26日　重機調査

5　調査概要

(1) 発掘区の設定

発掘区は、アルファベットの大文字と数字の組合わせで表示し、規格は4×4mとした。設定の基準は、工事測点のS.P.29200mを起点とし、S.P.29100mと結んだ線を南北方向の基線、東西方向は南北の基線に直交し、用地の境界杭R8を通る線を基線とした。調査区域は、北側はSPライン、南側は用地境界、西側はS.P.29133mと境界杭R7を結んだ線、東側は西側はS.P.29190mと境界杭R9を結んだ線までの範囲である。ただし、境界杭R9付近は発掘区の区切りのよいところまでとした。

ラインの設定は、南北方向をアルファベットの大文字とし、SPラインをMに設定後、南側を4m間隔で、順次N、O、P、Q、R・・・、北側は逆にL、K、J、I、H・・・とした。東西方向は、数字で、境界杭R8を25とし、東側に26、27、28、29・・・と進行し、西側は逆に24、23、22、21・・・とした。各ポイントの測量成果は下記のとおりである。

S.P.29190m	X=－18022.203	Y=43753.395
S.P.29133m	X=－18053.277	Y=43705.609
境界杭R7	X=－18069.205	Y=43715.967
境界杭R8	X=－18055.325	Y=43739.147
境界杭R9	X=－18040.648	Y=43765.386

（平面直角座標系　第XⅡ系）

発掘区の呼称は、4m四方の区画の北西隅のラインの交点で表示した。例えばPラインと25ラインの交点の南東側がP－25区ということになる。

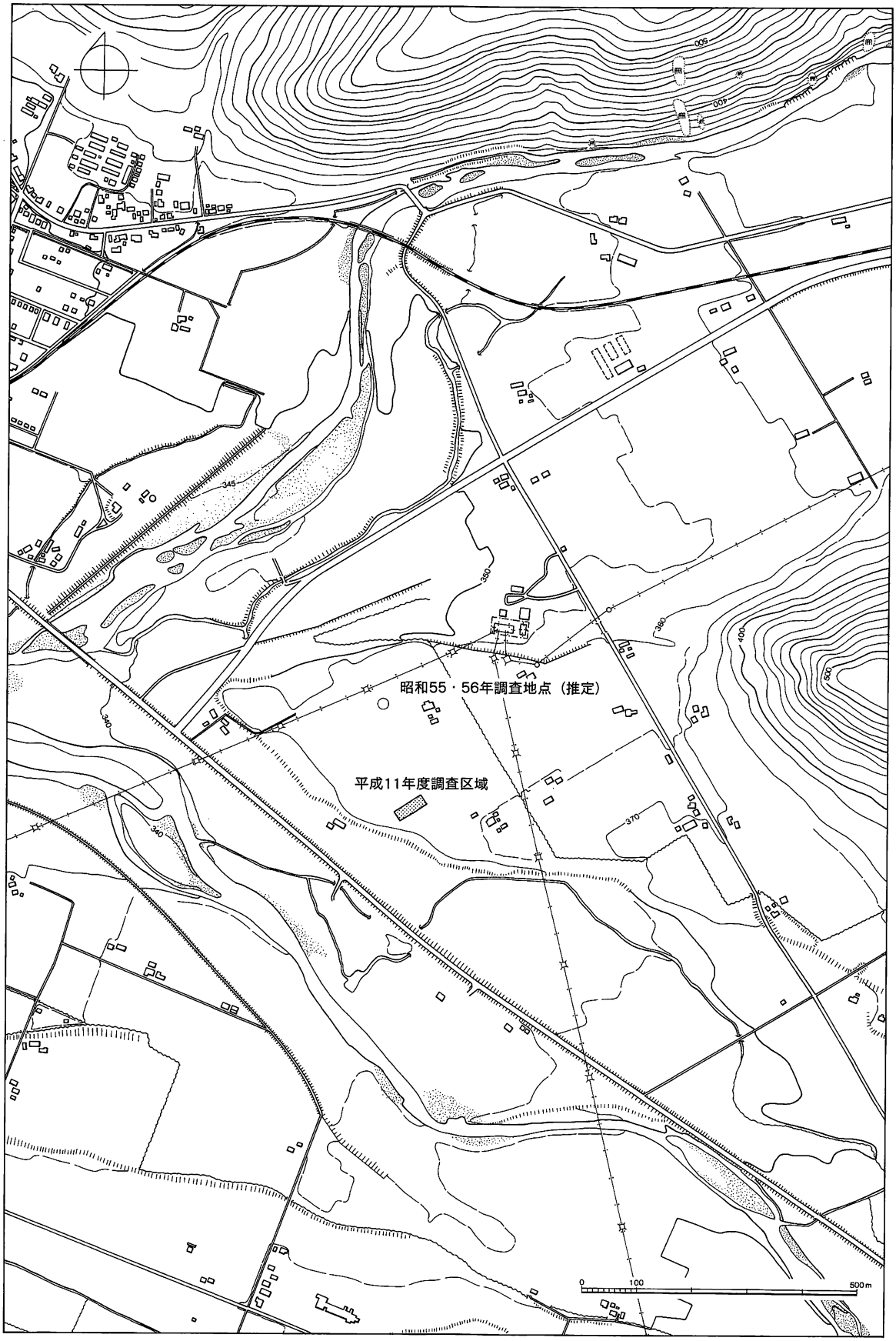
発掘区の方向は、真北に対して326°57′27″ずれている。したがって、図面の作成にあたっての方位は、東西方向のライン（アルファベットのライン）と方位記号の角度を53°にした。標高の測定にあたっては、調査区域の東400mに工事用に設置された3級基準点H6－310・BMNO.61（H=365.693m）を利用した。

(2) 遺跡の土層

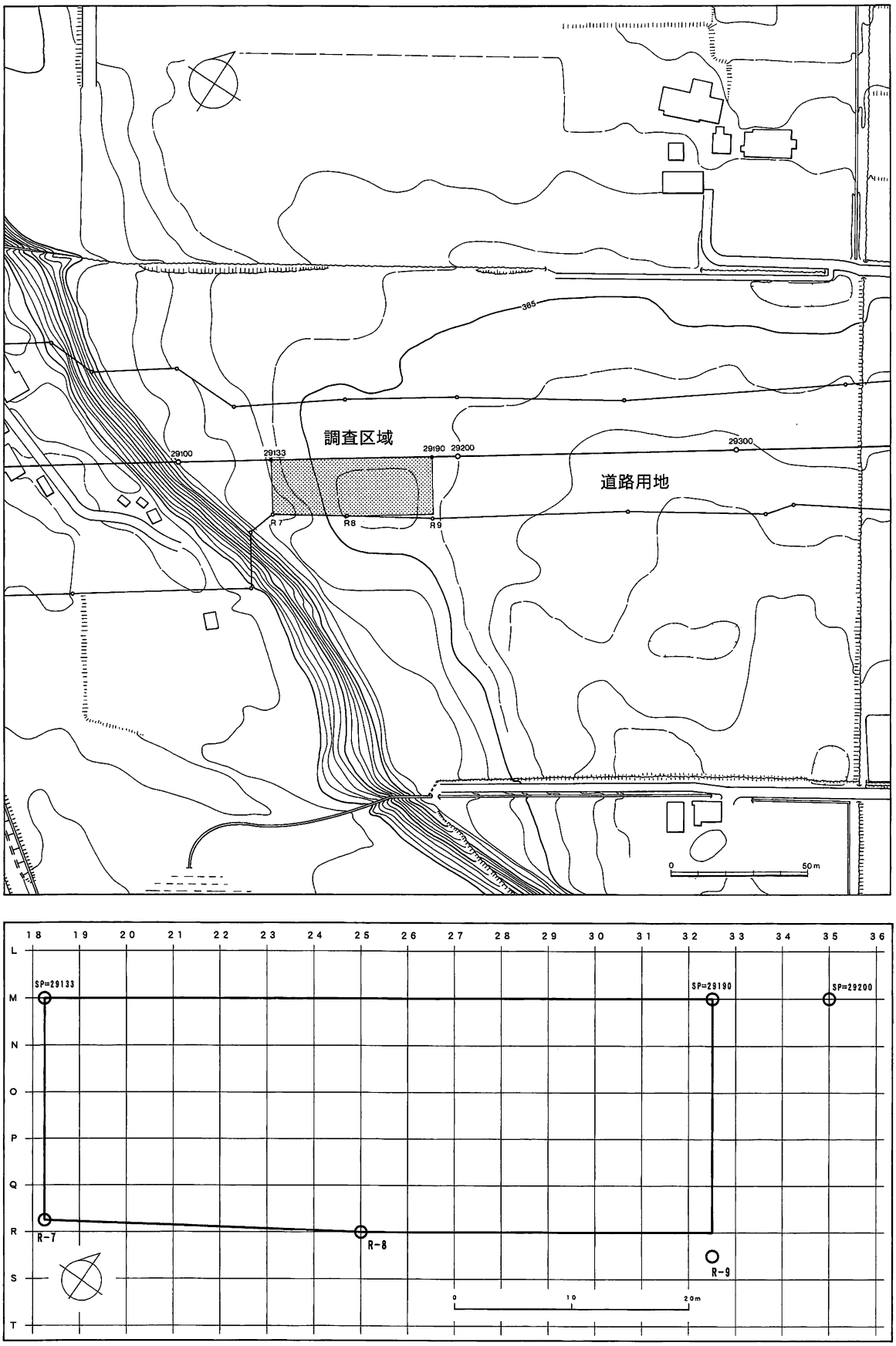
調査区域の土層は、おおむねつぎの土層に分けることができた。Ⅰ層は耕作土。Ⅱ層は黄褐色～明褐色を呈し、スコリアを含む遺物包含層。スコリアを極少量含む部分（a）と色調がやや明るくスコリアを多量に含む部分（b）に分けた。Ⅲ層は明褐色から鈍い赤褐色を呈し、堅くしまり、スコリア及び軽石を多く含む。

調査区は畑地で、全体に耕作の影響を受けている。土層は東西方向でみると、28ラインより西側では旧河道による影響がある。流れの規模は小さいと考えられるが、旧河道の部分には粘土ブロックや砂礫層がみられ、包含層も影響を受けている。Pラインより東側は、地形が石狩川に面する段丘崖に向けて緩やかに傾斜し、包含層は調査区中央部では20～30cmと一番厚く、東に向かっては薄くなり、18ラインでは5cm程度である。南北方向ではNラインより北側は、耕作土の下に砂層があり、包含層は薄いが、南側では20cmほどの厚さでみられる。包含層の下のⅢ層は堅くしまり、スコリアや軽石を含む粒子の大きい土壌である。この軽石は、大雪山御鉢平火砕流堆積物（Ds－Oh）の再堆積軽石であることが確認された。（Ⅳ章3参照）。

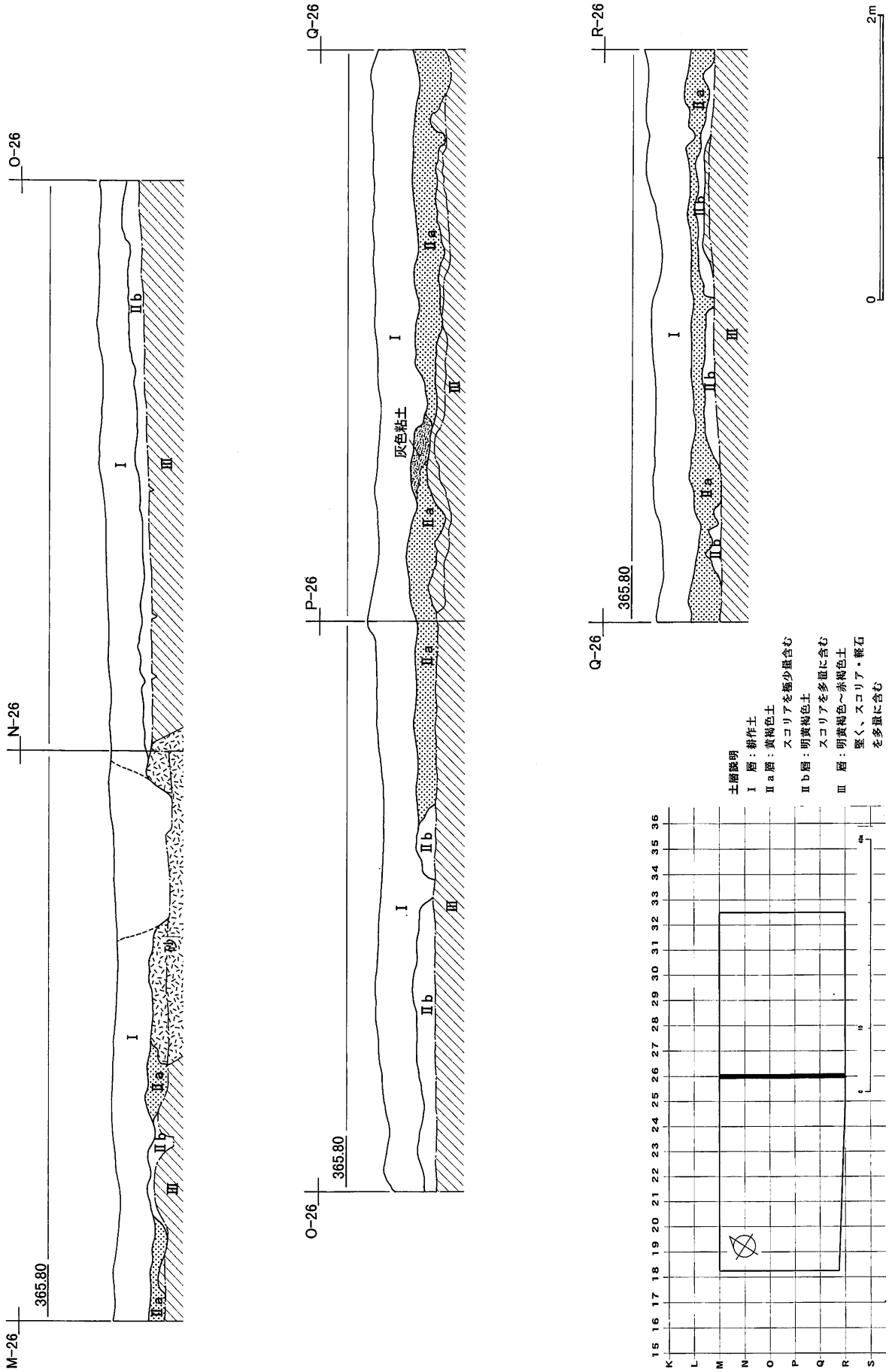
Ⅲ層の上面は、旧河道のほか凍結・融解などの影響によって、凹凸が著しく、場所によってはⅡa・Ⅱb層がピット状ないしⅢ状に堆積している状態が見られた。良好にⅡ層の遺物が確認された



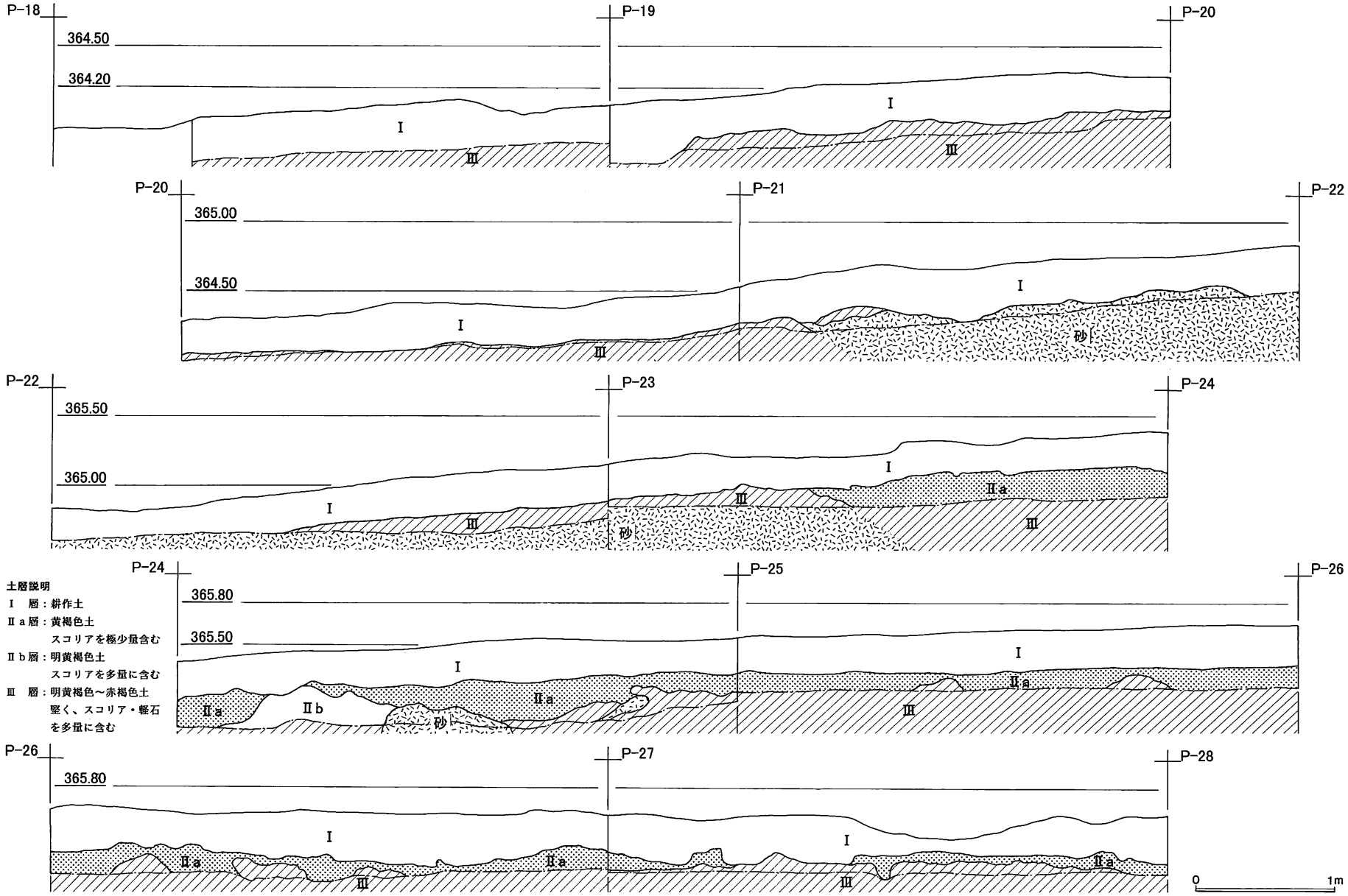
図Ⅰ－1　遺跡周辺の地形・調査区位置図


調査区域
道路用地
29100
29133
29190
29200
29300
R7
R8
R9
365
0
50m
18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
SP=29133
SP=29190
SP=29200
R-7
R-8
R-9
0
10
20m

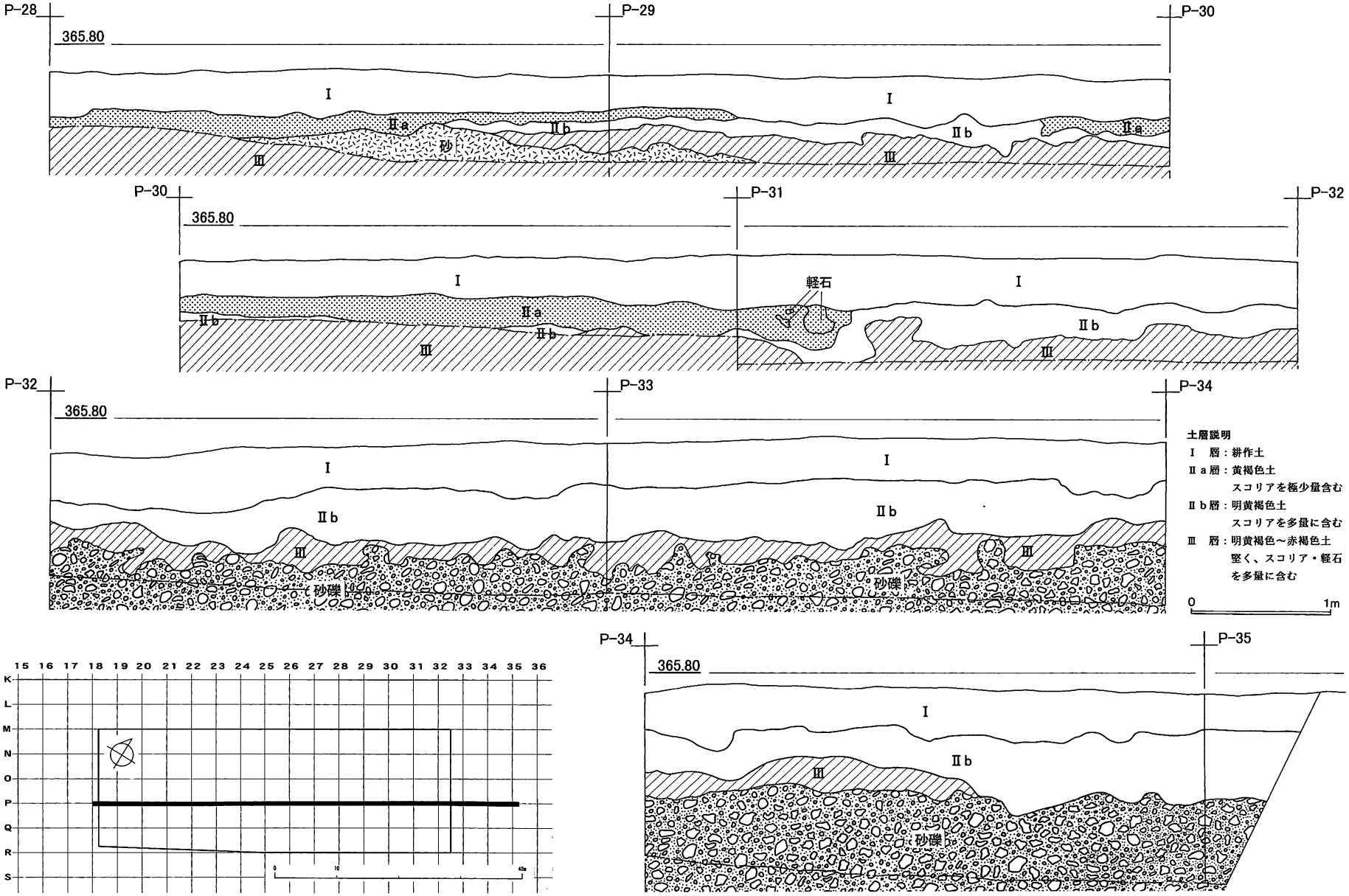
図Ⅰ－2　発掘区設定図


O-26
N-26
M-26
365.80
Ⅰ
Ⅱa
Ⅱb
Ⅲ
砂
Q-26
P-26
灰色粘土
R-26
0
2m
土層説明
Ⅰ　層：耕作土
Ⅱa層：黄褐色土
スコリアを極少量含む
Ⅱb層：明黄褐色土
スコリアを多量に含む
Ⅲ　層：明黄褐色～赤褐色土
堅く、スコリア・礫石
を多量に含む

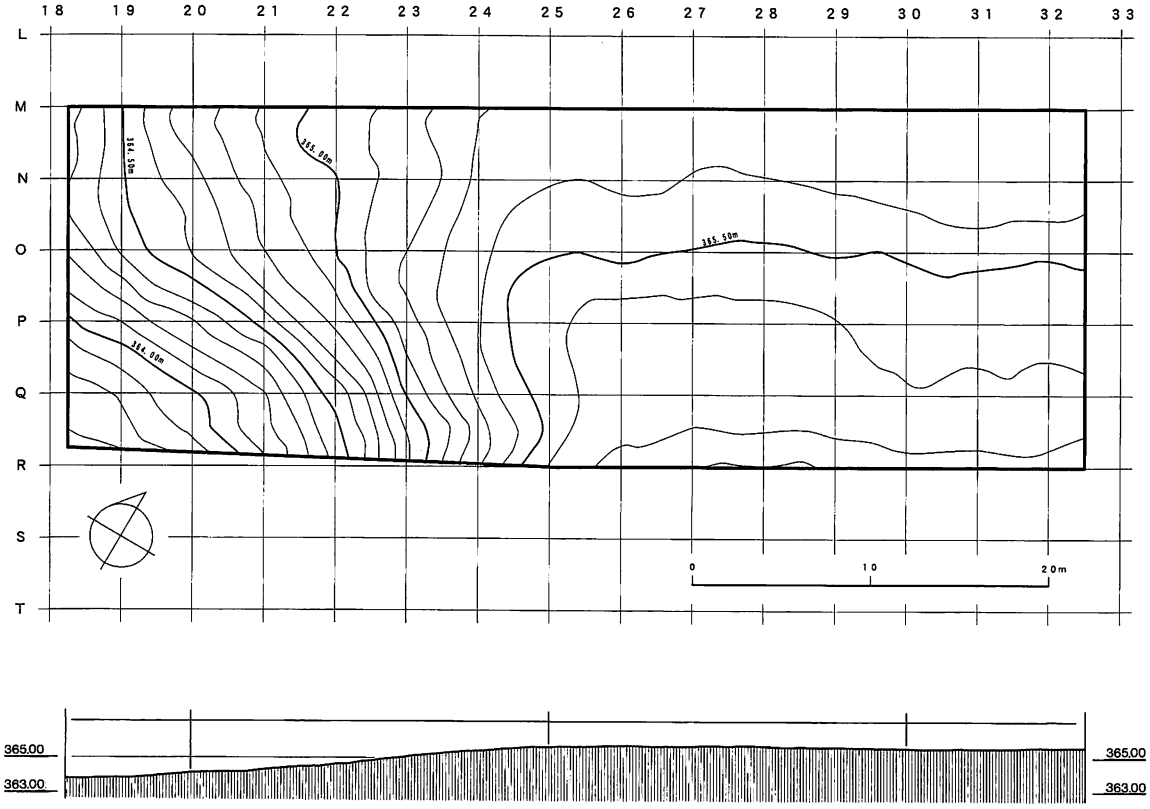
図Ⅰ－3　土層図(1)


P-18
P-19
P-20
364.50
364.20
I
III
P-20
P-21
P-22
365.00
364.50
砂
P-22
P-23
P-24
365.50
365.00
IIa
P-24
P-25
P-26
365.80
365.50
IIb
P-26
P-27
P-28
0
1m
土層説明
I 層：耕作土
IIa層：黄褐色土
スコリアを極少量含む
IIb層：明黄褐色土
スコリアを多量に含む
III 層：明黄褐色～赤褐色土
堅く、スコリア・軽石
を多量に含む

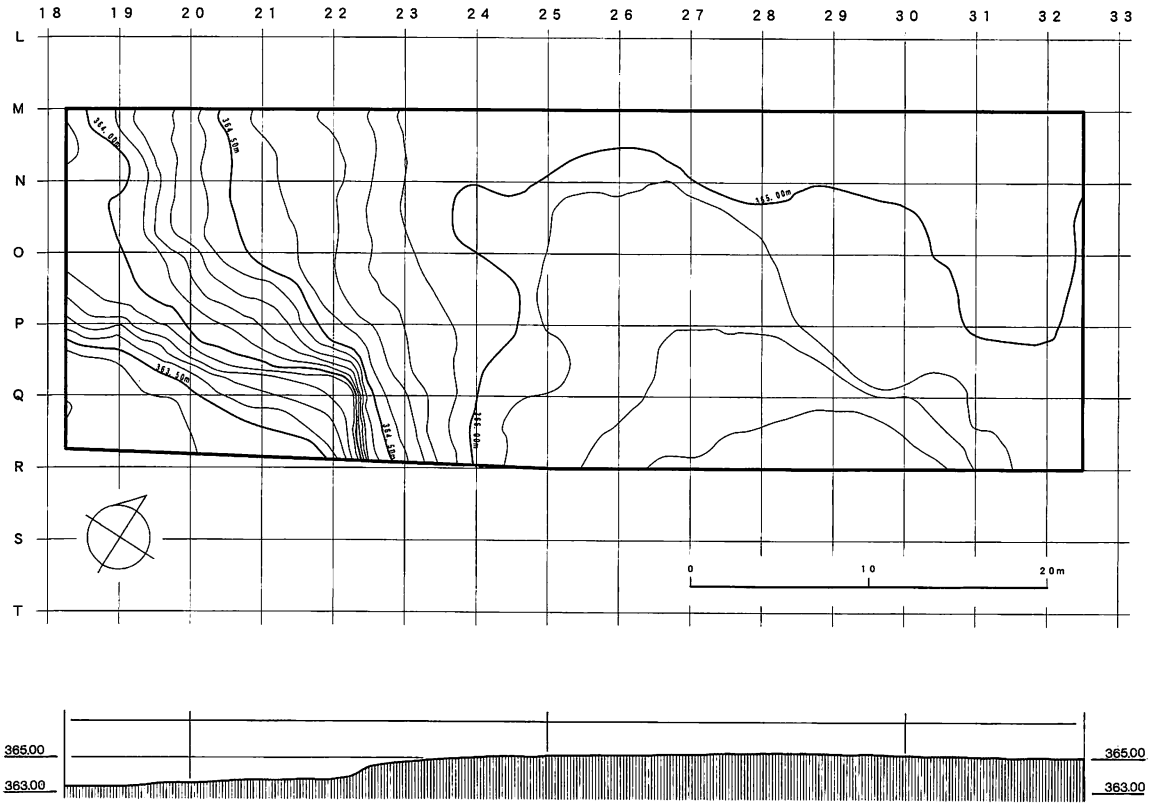
図Ⅰ－4　土層図(2)


P-28
P-29
P-30
365.80
Ⅰ
Ⅱa
Ⅱb
砂
Ⅲ
P-31
P-32
P-33
P-34
P-35
軽石
砂礫
土層説明
Ⅰ 層：耕作土
Ⅱa層：黄褐色土
スコリアを極少量含む
Ⅱb層：明黄褐色土
スコリアを多量に含む
Ⅲ 層：明黄褐色～赤褐色土
堅く、スコリア・軽石
を多量に含む
0
1m
15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36
K
L
M
N
O
P
Q
R
S

図Ⅰ－5　土層図(3)

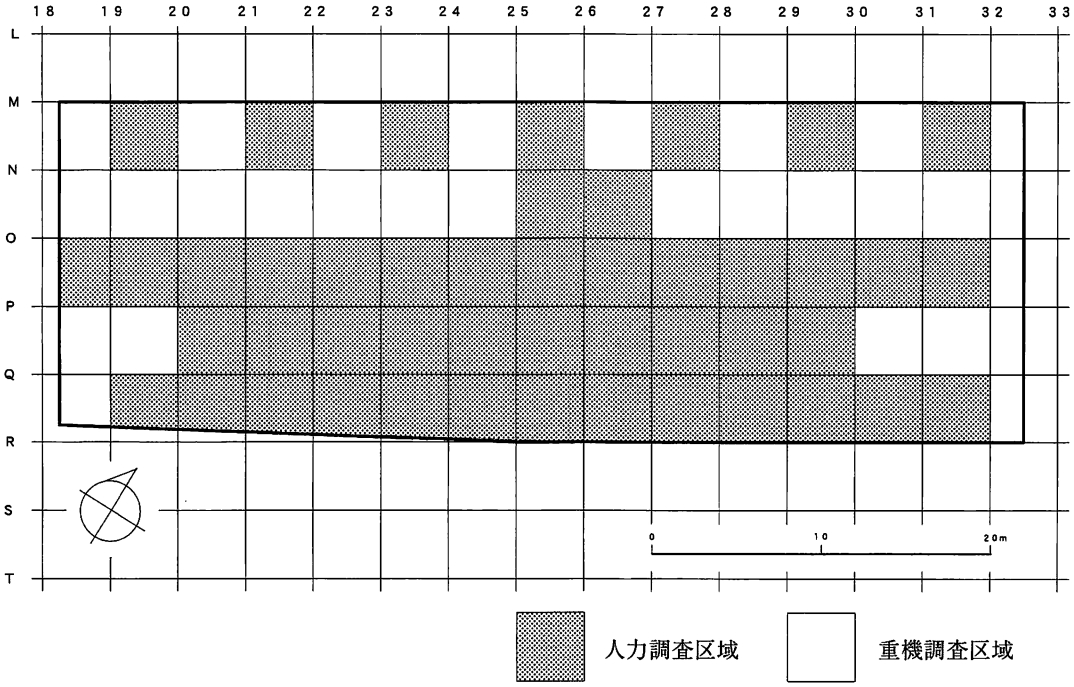


表土上面地形図



最終面地形図

図Ⅰ－6　表土上面・最終面地形図



図Ⅰ－7　調査方法

P・Q－25区の石器ブロック1の周辺は、Ⅱa・Ⅱb層が皿状に落ち込んだ部分で、耕作による削平をまぬがれたと考えられる。

(3) 調査の方法

調査区域は、長年畑地として利用されていたが、ここ数年は休耕していたため一面に雑草が生い茂っている状況であった。調査は、重機（バックホー）で耕作土（Ⅰ層）の上部（雑草の根の部分）を除去した後に杭打ちをして発掘区の設定を行った。

調査は、発掘区単位で進めることを基本とし、最初に全体の25%の発掘区を掘開することから始めた。Ⅰ層（耕作土）の遺物は、4×4mの発掘区単位で一括して取り上げたが、細石刃など細かな石器類の出土が予想されたので、スコップなどで起こした土を移植ゴテや手グワなどで細かく砕いて処理した。その結果、Ⅰ層からも188点の細石刃が発見できた。Ⅱ層出土の遺物については、可能な限り位置を記録するようにした。位置の記録はトータルステーションを利用し、そのデータを遺跡管理システム（シン技術コンサル）で処理し、取り上げた日ごとに分布図と一覧表の打ち出すと同時にデータの蓄積を行った。遺物番号は、発掘区単位で1から順に番号を付け、1点ずつビニール袋に収納した。現場で出土位置を記録した遺物のデータは、1,197件である。

25%調査の結果、遺物包含層と考えられるⅡ層からの遺物出土は、Q－25区のみで、Ⅰ層（耕作土）出土の遺物もQ－25区が最も多く、次にQ－19・21・23区などが多く、北側ないし東側にいくにしたがって少なくなる状況であった。また、O－27区より北東側では、Ⅱ層がみられるものの遺物は全く出土しなかった。以上の状況から、包含層調査は、南側のP・Q列の発掘区から進めることとした。結果的に、図Ⅰ－7に示したように、およそ46発掘区、734㎡を人力によって調査し、遺物のほとんど出土しない392㎡については、重機（バックホー）によって調査をした。また、土層の確認のために調査区域外のP－32～34、K－42付近にトレンチを掘開した。

Ⅰ層出土の遺物が最も多かったP－25区では、細石刃や砕片とともに炭化木片が確認できたので、

石器類同様に、出土位置を記録して、1点ごと取り上げた。出土位置を記録した炭化木片のデータは、408件である。また、炭化木片のうち残存状況が良好なものを抽出して放射性炭素年代測定（3点）と樹種同定（9点）を行った（Ⅳ章1・2参照）。

(4) 整理の方法

遺物の水洗は、現地で行い、その後の作業は札幌の整理事務所で行った。注記作業は、可能な大きさの遺物すべてについて行った。注記内容は、遺跡名略称、発掘区、層位、遺物番号である。例えば、P－25区、Ⅱ層、遺物番号125の場合は、日P25・Ⅱ・125である。

石器類の属性観察は、注記時点に1点ずつ行った。観察内容は、重量、石材、残存状況、打点・原石面残存・被熱の有無などである。重量計測は、少数点一桁までで、0.1g未満は行っていない。石材の大部分を占める黒曜石に関しては、絶対的ではないが、肉眼的な特徴から分類した。この分類作業は、白滝遺跡群の整理作業で実施しているもので、その後の接合・母岩分類作業には極めて有効である。分類は、黒色（1）、梨肌（2）、黒色に茶色の混じったもの（黒>茶）（3）、茶色に黒色の混じったもの（茶>黒）（4）、黒色に紫がかった茶色の混じったもの（黒>紫・茶）（5）の5種類である。本遺跡では、1・3～5の4種類の黒曜石はみられたが、2はなかった。石器器種や石材の分類後、接合作業を行い、さらに特徴的なものについて母岩分類を行い、それぞれ、番号を付けて、データ入力を行った。接合資料は、折れ面接合を含む剥離面接合について1～34、折れ面接合のみについて50001～50034、母岩別資料については、1～22の番号を付けた。

以上の作業、データ処理を行い、その成果を可能な限り本報告書に掲載した。

(5) 遺構・遺物の分類

確認できた遺構は、炭化木片ブロックと呼称した径2～15㎜程度の大きさの炭化木片が平面的にまとまってみられたものだけで、2か所確認でき、Cb－1、Cb－2の略号を付けた。

Ⅱ層で確認できた石器については、P－23区とP・Q－25区の2か所で平面的なまとまりがみられたが、ある程度の大きさで有意と考えられるP・Q－25区のものを石器ブロック1とした。

出土した遺物は、石器のみで、細石刃、細石刃核、尖頭器、彫器、掻器、削器、二次加工ある剥片、石刃、削片、剥片など、研究史的にある程度定着している器種による分類にとどめている。

剥片　石核・石器類から剥離されたもので、縦長剥片・石刃・細石刃・削片以外のもの。

石刃　石核類から剥離された幅が1㎝を越え、長さが幅の2倍以上で、側縁および稜がほぼ平行であるもの。

縦長剥片　剥離方向に長い剥片で、石刃に含まれないもの。

削片　細石刃核の打面の形成・再生、彫器の彫刀面の作出などによって生じる縦長の剥片。

細石刃　幅が1㎝以下、長さが幅の2倍以上の縦長剥片で、側縁および稜がほぼ平行なもの。

細石刃核　細石刃を連続的に剥離した面がみられるもの。

尖頭器　両側縁からの調整で先端部を尖頭形に整形したもの。

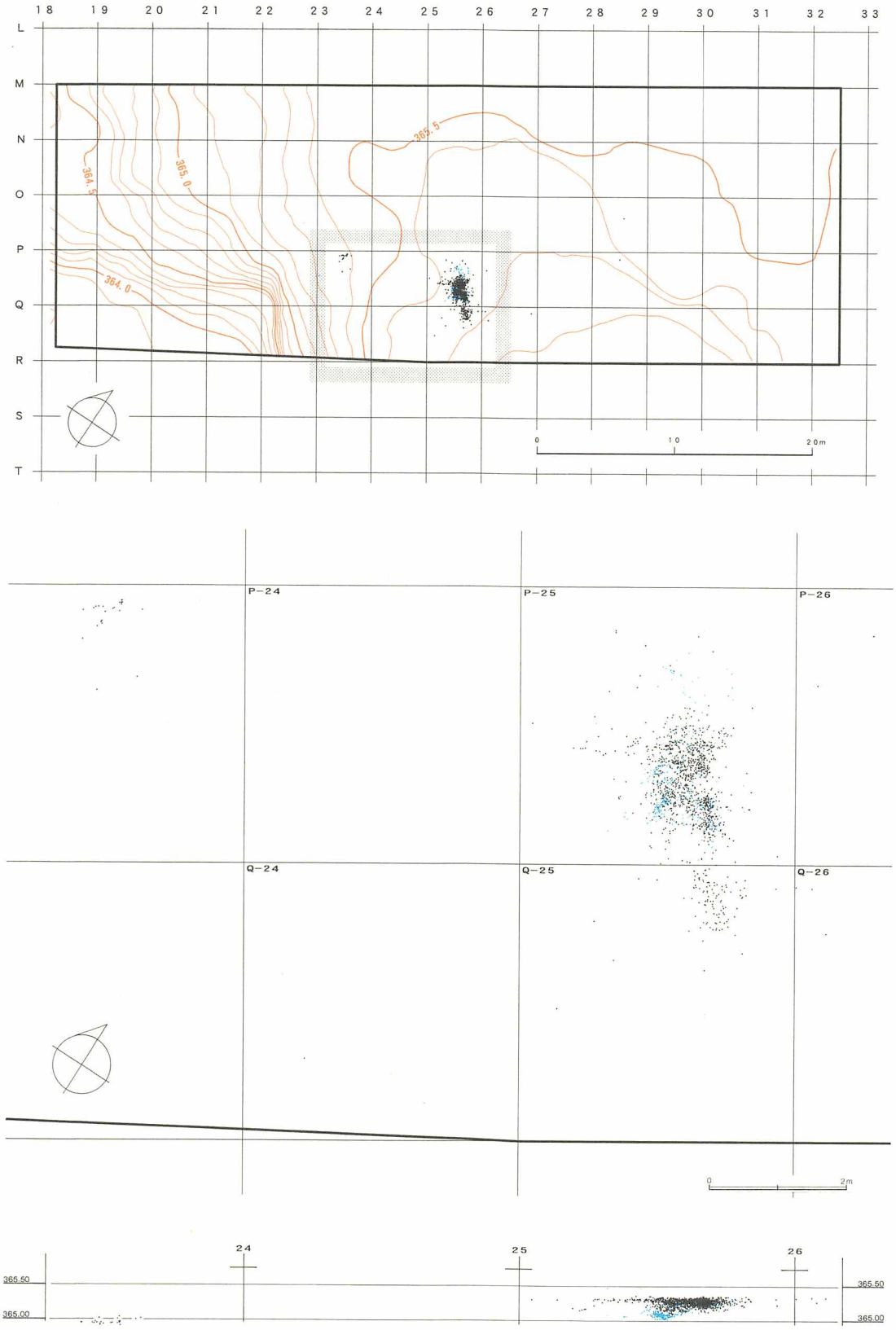
彫器　樋状の剥離によって彫刀面が作出されたもの。

掻器　石器の長軸上の端部に急角度の刃部を作出したもの。

削器　剥片の側縁に連続的な調整によって刃部を作出したもの。

二次加工ある剥片　剥片に二次加工を施したもの。

石核　素材剥片を剥離した残核。今回は出土していない。


18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33
L M N O P Q R S T
364.5
365.0
365.5
364.0
0 10 20m
P-24
P-25
P-26
Q-24
Q-25
Q-26
0 2m
24 25 26
365.50
365.00

図Ⅰ－8　遺構・遺物分布図

表Ⅰ－1　出土石器一覧表

層位	細石刃		細石刃核		尖頭器		彫器		掻器		削器		二次加工ある剥片		石刃		縦長剥片		削片		剥片		礫		合計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
Ⅰ	188	31.4	7	187.7	2	64.8	3	33.8	6	67.2	3	21.4	1	1.1	22	83.7	6	50.2	2	1.6	1144	908.0	3	345.1	1387	1796.0
Ⅱ	131	14.4	1	14.1					7	67.7			1	6.3	4	8.6	1	0.7	4	0.8	1048	171.0			1197	283.6
表採	1	0.2																			42	144.9			43	145.1
排土																	1	1.0			7	5.8			8	6.8
B調	16	2.8	1	12.4									1	8.3	1	6.0					54	95.0			73	124.5
合計	336	48.8	9	214.2	2	64.8	3	33.8	13	134.9	3	21.4	3	15.7	27	98.3	8	51.9	6	2.4	2295	1324.7	3	345.1	2708	2356.0

石刃核　連続して石刃を剥離した面がみられる石核。今回は出土していない。

以上のほかナイフ形石器、舟底形石器、錐形石器、斧形石器、敲石・磨石・砥石・台石・石皿などの礫石器などがあるが、本遺跡では出土していないので、省略する。

(6) 調査結果の概要

確認できた遺構は、炭化木片ブロック２か所である。そのうちの１か所（Cb－２）は、旧石器時代と考えられる細石刃を伴う石器群とともに発見されている。Cb－２出土の炭化木片の放射性炭素年代測定値（AMS法）は、16,940±80y.B.P.(Beta－136453)、16,570±120y.B.P.(Beta－136455）である。

遺物はすべて石器類で、総数2,708点（重量2,356.0ｇ）、詳細は表Ⅰ－１に示した。Ⅱ層において平面的なまとまりとして確認できた石器ブロック１は、Ⅰ層出土石器との接合関係なども加味すると、細石刃・細石刃核・彫器・掻器・二次加工ある剥片・石刃・縦長剥片・削片・剥片などで組成される石器群と考えられる。石器群の中で点数的に最も多いのは細石刃で、細石刃核は、厚手の石刃を素材とした射的山型または広郷型といわれているものである。また、３個体の掻器が破損または欠損した状態でみられ、石器ブロック１では、細石刃剥離と掻器の使用が行われていたことが分かる。また、石器ブロック１から離れた発掘区のⅠ層から打面に擦痕のみられる白滝型の細石刃核、半両面加工の細石刃核、尖頭器など出土しているが、共伴関係は不明である。

Ⅱ　遺跡の位置と周辺の環境

1　遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡の所在する上川町は、北海道の中央部やや東寄り、上川支庁管内のほぼ中央、東経142度41分06秒～143度11分00秒、北緯43度31分22秒～43度57分03秒に位置する。町域は12市町村に接し、東西36km、南北45km、周囲は190km、総面積は1,049.24㎢である。全国市町村の中では8番目、上川支庁管内では最も広い面積である。気候は内陸性で、大雪山山麓に位置するため、昼夜の気温差、夏と冬の寒暖の差が大きいことが特徴である。町域の南には大雪山を擁する大雪山国立公園がある。また、柱状節理の発達した溶結凝灰岩の露頭が、層雲峡渓谷を中心とした石狩川両岸にみられ、雄大な景観を形成している。主要道である旭川と網走を結ぶ国道39号線は、石狩川に沿って町内を縦貫し、それに上川と遠軽を結ぶ国道450号線、紋別と帯広を結ぶ国道273号線が接続している。国道450号線を北上して北見峠を越えると、黒曜石の原産地として世界的に知られる白滝村である。白滝村にある黒曜石の原石山である赤石山山頂と遺跡との距離は、直線で約29kmである。

日東遺跡は、JR上川駅の南東約2㎞、層雲峡に向かう国道39号線と白滝村に向かう国道450号線の分岐する地点のやや北東、石狩川と留辺志部川に挟まれた舌状の河岸段丘上に位置する。地形は平坦で、標高365m前後、石狩川との比高は約15mである。遺跡は東西に延びる舌状の段丘上の西端から石狩川に面した南側の縁、約1kmの広い範囲と考えられる。今回の調査区域は、そのほぼ中央、段丘西端から約250mの地点である。

図Ⅱ－1は、北海道教育委員会の2万5千分の1埋蔵文化財包蔵地分布図を基にして作成した上川町内の遺跡分布図である。

上川町内の遺跡は現在まで23か所が確認されている（表Ⅱ－1）。

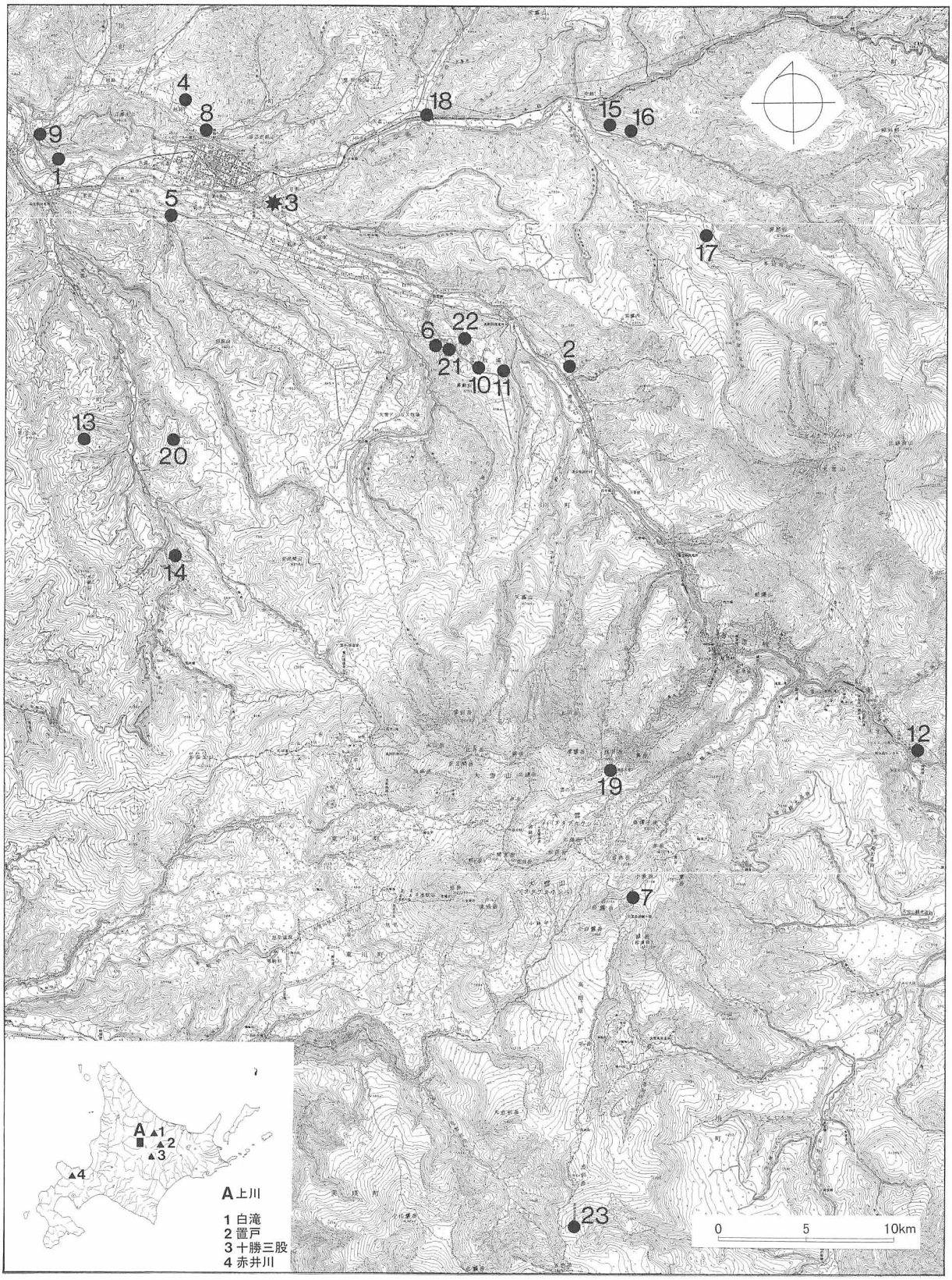
各遺跡の概略および研究史は、『上川町史』（都竹　1966）、『上川町史　第2巻』（都竹　1984）、「石狩川上流域、上川町の先史時代遺跡」（『上川町の自然』第3集）（中谷　1978）に詳しい。町史の年表などによれば、上川町内の考古学的な記載は、明治45年に上川中学校の教諭であった塩田弓吉が、人類学雑誌に愛別村越路（現在の上川町越路）から出土した遺物について紹介しているものが最初である（塩田　1912）。日東遺跡についての文献は、『上川町史』（都竹　1966）に遺跡の概略が記載されているものが初出である。中谷は第四紀の地形・地質を検討すると同時に、各遺跡の表面採集を行ない、代表的なものを図化している。日東遺跡については、昭和30年頃から加藤征治が表面採集した資料なども含めて、細石刃、細石刃核、尖頭器、彫器、掻器、削器、石刃などを記載報告している。

町内の遺跡のうち発掘調査が行われているのは、江差牛遺跡（9）、越路34線遺跡（8）、越路（藤田）遺跡（4）、日東遺跡（3）の4か所である。

江差牛遺跡は、1959年に河野広通を中心として安足間文化協会により調査が行なわれ、石刃、掻器、削器、尖頭器などの旧石器時代の遺物が出土している（安足間文化協会　1960）。

越路34線遺跡は、1977年に上川町教育委員会および上川町埋蔵文化財調査会により調査が行なわれ、縄文時代晩期の深鉢形、舟形、浅鉢形などの土器、石器が出土している（上川町教育委員会　1978）。

越路（藤田）遺跡は、1978年に上川町教育委員会および上川町埋蔵文化財調査会により調査が行なわれた。1959、60年頃、耕作時に黒曜石の原石が数十個体集積して発見されていた。しかし、発掘調査により得られた遺物は少数の剥片のみで、黒曜石原石の集積地点を見つけることは出来なかった



図Ⅱ－1　上川町内遺跡分布図

表Ⅱ－1　上川町内遺跡一覧表

No	遺跡名	種別	時期	発掘調査歴	文献及び記載	備考
1	江差牛	遺物包含地	旧石器、縄文	1959 安足間文化協会	1960 安足間文化協会、1966 都竹、1978 中谷	
2	メノコ沢	〃	縄文		1978 中谷	
3	日東	〃	旧石器	1981、1982 木村ほか	1966 都竹、1978 中谷、1983・1985 木村、1984 都竹	
4	越路(藤田)	〃	旧石器	1978 上川町教委ほか	1966 都竹、1978 中谷、1984 都竹	
5	菊水	〃	旧石器		1978 中谷	表採、石器
6	白川	〃	旧石器		1978 中谷	表採、石器
7	白雲岳小泉岳	〃	縄文		1926 小泉、1926 河野、1931 河野、1966 都竹、1978 中谷	石鏃採集
8	越路34線	〃	縄文晩期	1977 上川町教委ほか	1978 上川町教委、1978中谷、1984都竹	
9	江差牛2	〃	旧石器		1984 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
10	白川2	〃	旧石器		1984 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
11	白川3	〃	不明		1984 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
12	大函	〃	旧石器		1978 中谷	表採、石器
13	カドヤの沢	〃	不明		1984 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
14	ナラの沢対岸	〃	不明		1985 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
15	中越	〃	不明		1986 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
16	トイマルクシュベツ	〃	不明		1987 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
17	チカルベツ	〃	不明		1988 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
18	天幕	〃	擦文		1989 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査、土器
19	黒岳石室	〃	縄文		1981 吉田	表採
20	松の沢	〃	不明		1989 道教委遺跡包蔵地カード	分布調査
21	白川4	〃	不明		1978 中谷	表採、石器
22	白川5	〃	不明		1978 中谷	表採、石器
23	忠別岳石室	〃	縄文		1981 吉田	表採

(都竹　1984)。

日東遺跡は、1980年、1981年に木村英明、上川町埋蔵文化財発掘調査会を中心として調査が行なわれ、細石刃、細石刃核、彫器、掻器、削器、石刃などの旧石器時代の遺物が出土している。細石刃を中心とした石器は、7～8mの範囲でまとまって発見され、その中心付近では炉跡が確認された（図Ⅱ－3)。また、炭、焼土と共にシカの骨とみられるものが発見されたという（木村　1983・1985)。

23か所の遺跡の時代別の内訳は、旧石器時代－8遺跡、縄文時代－6遺跡、擦文時代－1遺跡、縄文時代以降－8遺跡である。各時代を通してみると、遺跡は主に石狩川もしくはその支流の河岸段丘上にみられる。

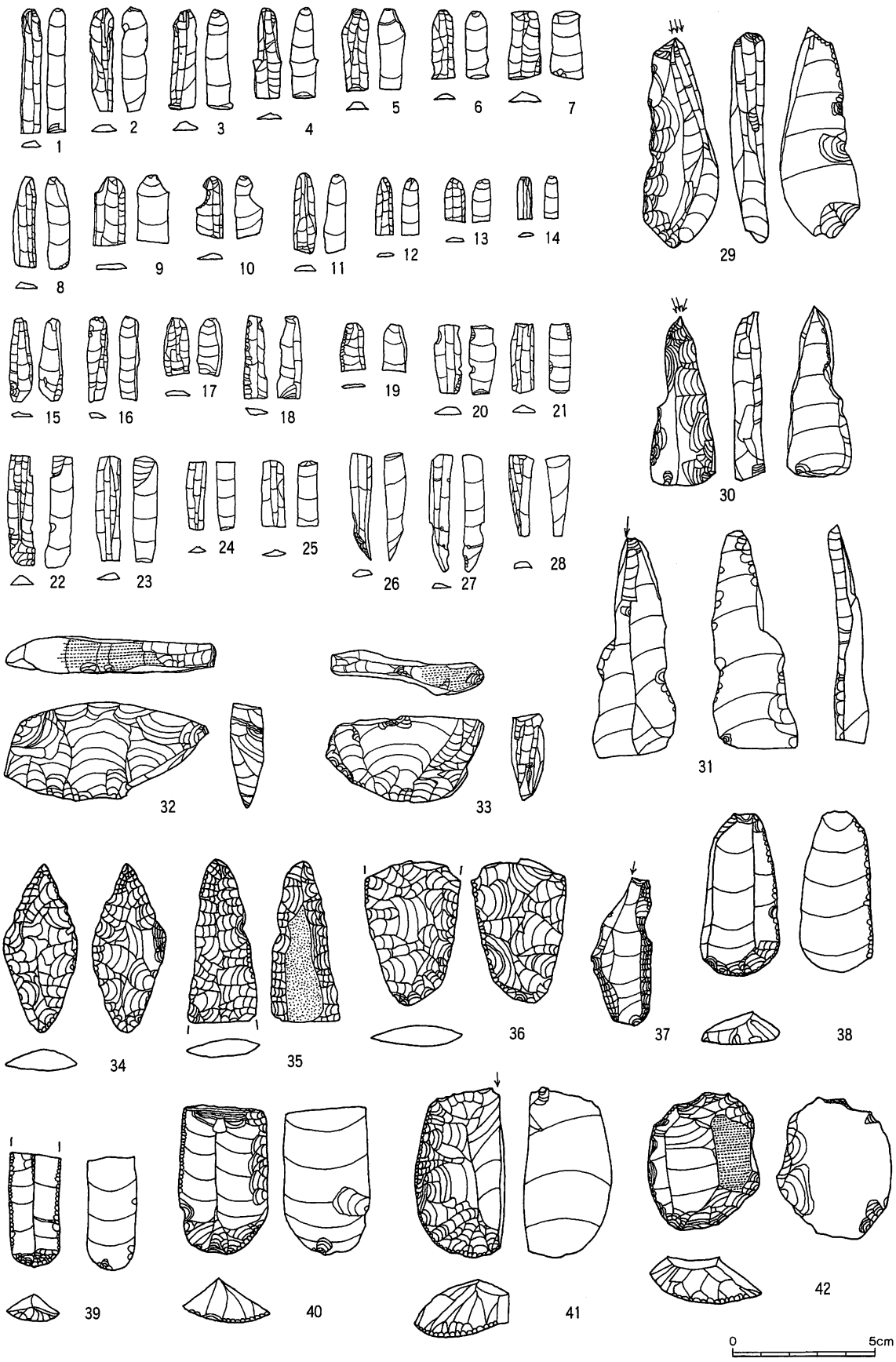
旧石器時代の8遺跡（1、3、4～6、9、10、12）は、石狩川もしくはその支流の河岸段丘上にみられる。江差牛遺跡、日東遺跡以外の他の6遺跡では発掘調査が行なわれておらず、表採品がいくつかあるのみである。細石刃核の出土は、日東遺跡以外では知られていない。また彫器の出土も現在のところ日東遺跡のみである。日東遺跡以外で細石刃が採集されている遺跡は、大函遺跡（12）である（中谷　1978)。その細石刃は1点の打点部の残存する資料で、大きさは長さ3.4cm、幅0.9cm、厚さ0.2cmである。今回の調査における石器ブロック1出土の細石刃と比べ、幅に対して厚さが薄いという違いがみられる。

縄文時代と考えられる6遺跡（1、2、7、8、19、23）は石狩川もしくはその支流の河岸段丘上にみられるほか、学史的にも著名な標高2,030mの白雲岳の登山道にある白雲岳小泉岳遺跡（7）（小泉1926、河野常吉　1926、河野広道　1931)、黒岳石室遺跡（19）（吉田　1981)、忠別岳石室遺跡（23）（吉田　1981）のように、大雪山系の山岳・高地に位置する例が知られる。

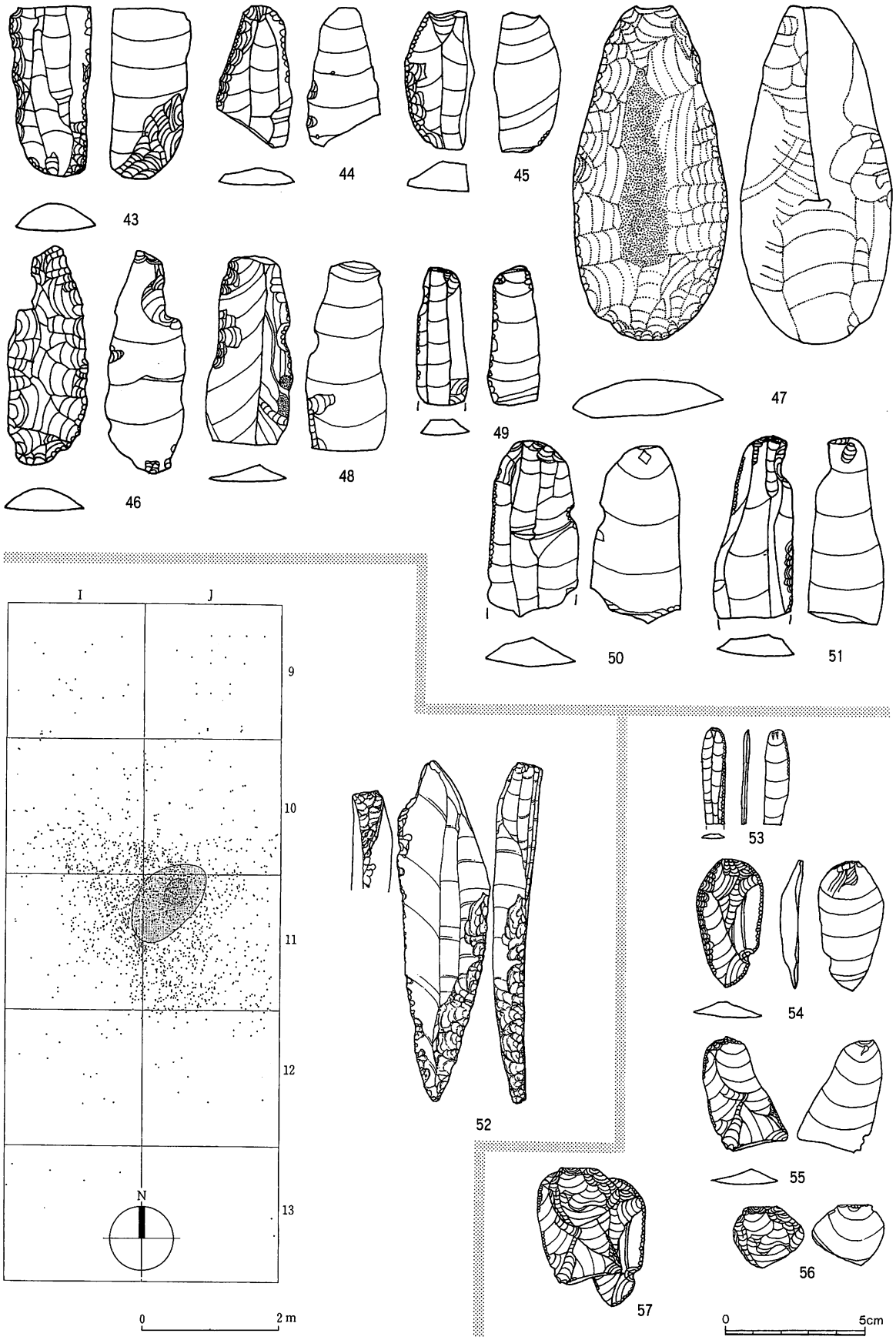
続縄文時代の遺跡は確認されていない。

擦文時代の天幕遺跡は、1984年の道教委の分布調査で石狩川の河岸段丘上からみつかっているが、詳細は不明である。

上川町内における考古資料は極めて断片的で、不明な点が多い。しかし、日東遺跡においては今回の調査も含め、部分的に発掘調査が行なわれ、細石刃、細石刃核などの特徴的な石器類が確認されている。その石器類は、白滝や置戸などの黒曜石の原産地と旭川以南の石狩川中下流域の遺跡をつなぐ資料として重要である。



図Ⅱ－2　日東遺跡の遺物(1)



図Ⅱ－3　日東遺跡の遺物(2)・大函遺跡の遺物

2　日東遺跡調査研究略史

遺跡は、昭和30年頃から地主の加藤征治・銀一氏によって遺物の採集が行われ、その存在が知られていたが、発掘調査が行われたのは昭和55・56年である。加藤氏による遺物の採集は、加藤氏住宅の周辺であり、木村英明氏によれば、発掘調査が行われた地点は高圧鉄塔に近いところということで、今回の調査区域の北方150mほどの地点と考えられる（図Ⅰ－1）。

加藤銀一氏所蔵の資料については、中谷1978で示されている（図Ⅱ－2・3）。細石刃（1～28）、射的山型細石刃核（29）、彫器（30・31・37）、白滝型細石刃核（32・33）、尖頭器（34～36）、掻器（38～42）、削器（43～48）、石刃（49～51）などがみられる。47の掻器は頁岩、他はすべて黒曜石である。

昭和55・56年の調査についての詳細は不明であるが、木村1985によれば、30～50cmの深さの粘土層から細石刃、細石刃核（（図Ⅱ－3－52）、彫器、掻器、削器、石刃、砥石など2,000点が発見された、という。細石刃が特に多く、7～8mの範囲からまとまってみられ、さらにその中心付近から炉跡が確認された。直径40cmの範囲が特に焼けてその周りに炭や焼土がみられ（図Ⅱ－3）、さらに炉の中からシカの骨の可能性のある骨片もみつかっている。昭和55年の出土遺物については、都竹1984によれば、細石刃258、細石刃核1、彫器1、掻・削器5、石刃10、削片20、剥片437、合計732点の石器が出土している、という。

図版11・12には、中谷良弘氏が加藤氏の所有地を中心に表面採集した資料を示した。総数は475点、内訳は、細石刃194点、細石刃核1点、尖頭器1点、彫器3点、掻器1点、削器4点、錐形石器1点、二次加工ある剥片1点、石刃・縦長剥片11点、削片6点、剥片251点、礫石器1点で、他の石器に比べて細石刃の多さが目立つ。

3　遺跡周辺の地形・地質

日東遺跡周辺は山地に囲まれ、南東に大雪山火山体とニセイカウシュペ火山体があり、大雪山を源流とする石狩川が南東から北西に両火山体の間を流れている。東はチトカニウシ山北方に源がある留部志部川が西方向へ流れ下り、遺跡付近で石狩川と合流する。留部志部川をさかのぼり北見峠を越えると黒曜石の原産地である白滝村へ至る。南東方向、石狩川上流には溶結凝灰岩の露頭で有名な層雲峡がある。周辺の地形は山地と石狩川とその支流によって形成された河岸段丘や沖積地などで成され、平坦部は少ない。現在、段丘上や沖積地に耕地や市街地が形成されている。

遺跡は上川町市街より南東に約2km、石狩川右岸の河成段丘上に位置している。東には750mの山地があり、東南は1000～1800mの山々がそびえニセイカシュウペ火山体に連なる。この段丘は、両河川の合流地点に張り出した状態で、石狩川に面した段丘崖に向かって緩やかに傾斜する。石狩川との比高は約15mである。石狩川を挟んだ左岸は川沿いに細長い段丘面が3～4段発達し、600mほどの山地を挟んで、高位の段丘が続き、大雪山火山体に至る。

周辺の地質は、先白亜紀の日高累層群（粘板岩、凝灰岩など）を基盤とし、より新しい堆積岩層や火山噴出物で覆われている。遺跡背後のニセイカウシュペ火山体は、前期洪積世時代に活動していたと推定され、遺跡の北東には愛山渓溶結凝灰岩（上部洪積世、大雪山成立前）が、対岸には層雲峡溶結凝灰岩（上部洪積世、大雪山成立後）が広く分布し、段丘崖に露頭としてみられる。遺跡より上流部の石狩川では両岸に層雲峡溶結凝灰岩の露頭が見られ、雄大な景観を形成している。遺跡の位置する河成段丘は、沖積世に形成されており、安山岩・粘板岩に代表される砂礫層、火山灰質土、腐植土から構成されている。遺物包含層直下の層に含まれる軽石が、上流の大雪山御鉢平火砕流堆積物（約3万年前）の再堆積軽石で構成されている事が今回の調査で明らかになった。

Ⅲ　遺　構　と　遺　物

1　炭化木片ブロック

調査区域内の中央南側P－25区で、炭化木片ブロックを2か所確認した。P－25区は、Ⅰ層中の石器・炭化木片なども多く、さらに遺物包含層であるⅡ層も残存していたことから慎重に調査を進めた。その結果、石器類の集中する部分に重複して直径数㎜の炭化木片を確認することがで、可能な限り出土位置を記録した。

出土位置を計測した408点の炭化木片は、P－25区内の東側に3.4×1.5mの広い範囲に分布する。さらに、まとまりと垂直分布などを細かくみると北側の1.3×1.2mのブロックと南側の2.0×2.0mのブロックに分けることができ、北側をCb－1、南側をCb－2とした（図Ⅲ－1）。

Cb－1　1.3×1.2mの範囲に29点の炭化木片が分布する。西側がやや多いが、散発的で、垂直分布はⅡ層の上面から10㎝程度の深さまでである。石器ブロック1とは重複するが、石器分布の極めて薄い部分である。炭化木片の大きさは、2㎜程度と小さいものが多いが、やや大きめのもについて放射性炭素年代測定を1点、樹種同定を2点行った（Ⅳ章1・2参照）。年代測定では、980±40y.B.P.（Beta－136454、NIT－2、No.93）、樹種同定では、2点（No.117・118）ともコナラ属という結果が得られた。

Cb－2　2.0×2.0mの範囲に379点の炭化木片が分布しているが、濃密にみられるのは1.6×1.0mの範囲である。垂直分布はⅡ層の上面から30㎝の深さまでみられ、全体的に皿状である。また、石器ブロック1の石器分布の最も濃密な部分と重複している。炭化木片の大きさは、直径2～15㎜の大きさで、状態の良好なものを抽出し、放射性炭素年代測定を2点、樹種同定を7点行った（Ⅳ章1・2参照）。年代測定では、16,940±80y.B.P.（Beta－136453、NIT－1、No.55）、16,570±120y.B.P.（Beta－136455、NIT－3、No.180）、樹種同定では、トウヒ属が4点（No.49・129・153・207）、モミ属が1点（No.53）、カバノキ属が1点（No.141）、樹種不明の広葉樹散孔材が1点（No.51）という結果が得られた。

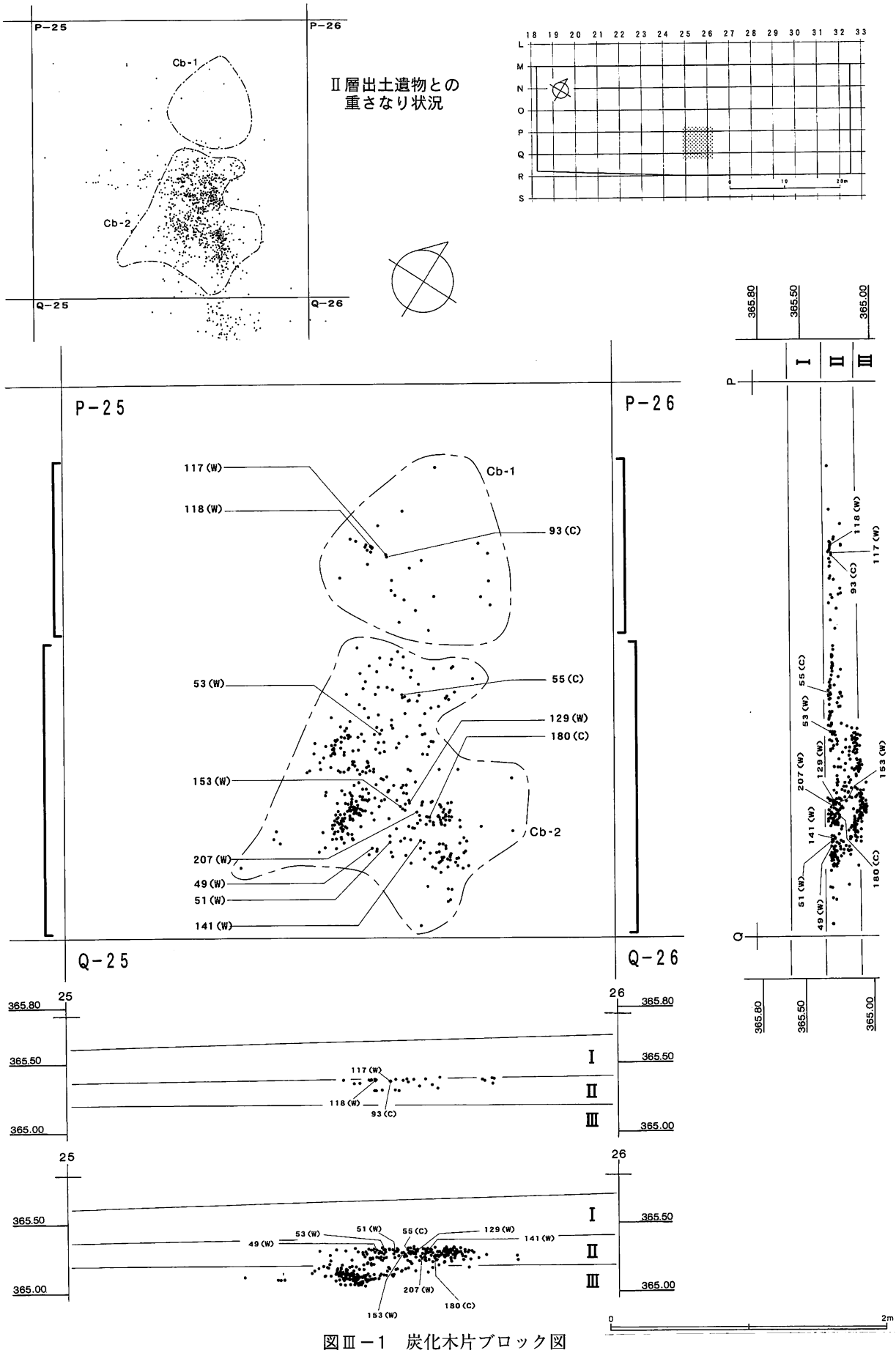
樹種同定を行った三野紀雄氏によれば、Cb－1のコナラ属は、比較的柔らかい状態であったのに対し、Cb－2のトウヒ属などの7点は、組織が堅くてカミソリの刃のよるカットも容易でなかった、という。組織の硬化の原因は、明確でないが、土中の鉄分などが水の影響で、炭化木片に沈着した可能性が考えられる。同じ条件下でのCb－1とCb－2の同定炭化木片の相違は、時間の長さが反映したものと考えると、年代測定の結果とも整合するのではないだろうか。

Cb－2は、平面的にも垂直的にも石器ブロック1の石器分布の濃密部分と重複していることと　放射性炭素年代測定・樹種同定の結果などから判断して、石器ブロック1を形成した人々が焚き火などを行った痕跡と考えられる。

2　出　土　石　器

出土した遺物はすべて石器類で、総数は2,708点である。そのうち遺物包含層であるⅡ層からは1,197点（44%）、耕作土であるⅠ層からは1,511点（56%）が出土している。重量をみると、総重量2,356.0ｇに対して、Ⅱ層は283.6ｇ（12%）、Ⅰ層は2,072.4ｇ（88%）となり、Ⅱ層の石器類が、細石刃や小型の剥片ないし砕片であることが反映している。詳細は表Ⅰ－1を参照願いたい。

石器は、層位別にⅡ層、Ⅰ層の順で挿図で示したが、Ⅰ層でもⅡ層のものと接合した石器について



図Ⅲ－1　炭化木片ブロック図

は、Ⅱ層の挿図で示した。石材は、図Ⅲ－9－239～245以外のものはすべて黒曜石である。

(1) Ⅱ層出土の石器（図Ⅲ－2～5、図版7）

出土石器は、細石刃131点、細石刃核1点、掻器7点、二次加工のある剥片1点、石刃1点、縦長剥片1点、削片4点、剥片1,048点、総数1,197点であるが、ここで図示したものは、細石刃104個体、細石刃核3個体、彫器1個体、掻器3個体、二次加工ある剥片1点、石刃3点、削片3点である。

細石刃（図Ⅲ－2－1～51、図Ⅲ－3－52～104）

出土した131点のうち128点、104個体を図示した。図示していない3点は、微細なものである。折れ面接合は19個体あり、そのうち16個体が剥離面接合に含まれ、細石刃核との接合、細石刃同士の接合資料が20個体ある。

黒曜石の細分では1（黒）と4（茶>黒）となり、さらに9個体の母岩別資料に分類できる。両側縁については、10倍程度のルーペで観察したが、剥離・使用痕などと考えられる微細剥離はみられなかった。

被熱がみられるものは、104点中39点で、4割近い高い比率である。

1～7は、完形ないし完形に近いものである。1は、細石刃のうち最大のもので、長さ74㎜、幅10㎜、厚さ8㎜、側面観は湾曲し、末端部にいくにしたがってねじれている。幅の大きさをみると、2は9㎜、3は8㎜、4～6は7㎜、7は6㎜である。石刃素材の細石刃核の腹面が、側面または背面に取り込まれているものが4点（2・3・5・7）ある。また残っている打面の形状を観察すると、1・3は三角形、2・4～7は菱形に近い。

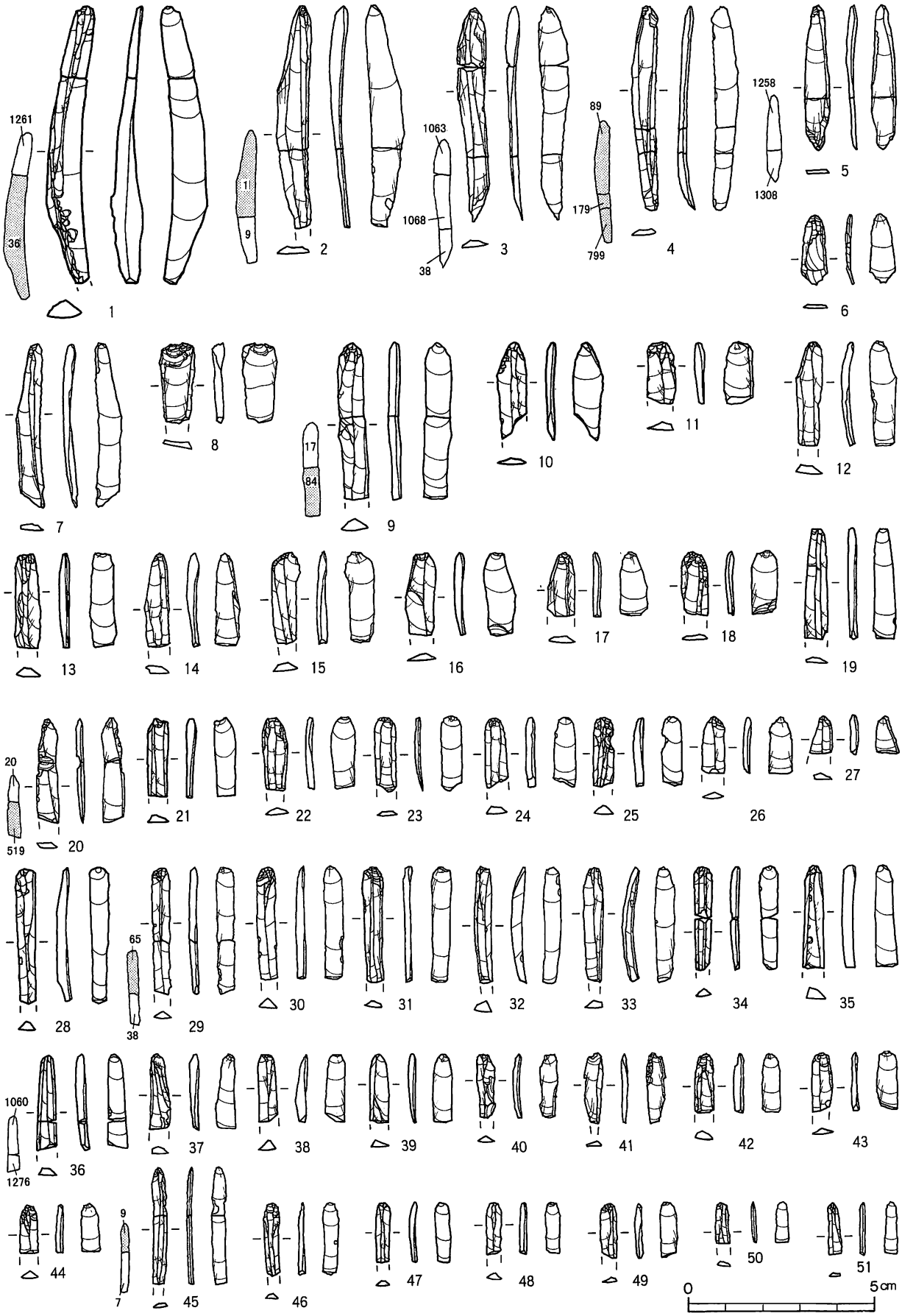
8～51は、打点側で、幅は8が9㎜、9～11が8㎜、12～18が7㎜、19～27が6㎜、28～44が5㎜、45～50が4㎜、51が3㎜である。幅が5㎜前後のものが多く、それらは、両側縁が比較的平行である。また、厚さは1㎜のものも若干あるが、大部分は2～3㎜である。背面の稜線は2ないし3本のものが6割程度を占め、1本は3割程度である。したがって、横断面は台形に近いものが多い。側面観はわずかに湾曲するものもあるが、大部分が直線的である。石刃素材の細石刃核の腹面が、取り込まれているものが16点（8・9・12・14・16・17・19・20・22・24・27・32・35～37・39）みられる。打面の形状が観察できるものをみると、三角形に近いものが10点（20・28・30・35・37・38・46・47・48・50）、菱形に近いものが17点（9・15・16・22・23・25・26・29・31・33・34・36・39・42～44・49）、台形に近いもの8点（10～12・14・17・18・24・32）である。

52～86は、中間部で、幅は52・53が8㎜、54～56が7㎜、57～61が6㎜、62～72が5㎜、73～83が4㎜、84～86が3㎜である。5㎜と4㎜のものが多く、全体的に両側縁は平行である。厚さは4㎜、3㎜、1㎜のものが若干あるが、大部分は2㎜である。側面観は直線的で、横断面は台形に近いものが、三角形のものに比べてやや多い。75・81は側面に石刃素材の細石刃核の腹面がみられると同時に細かな調整が観察できる。

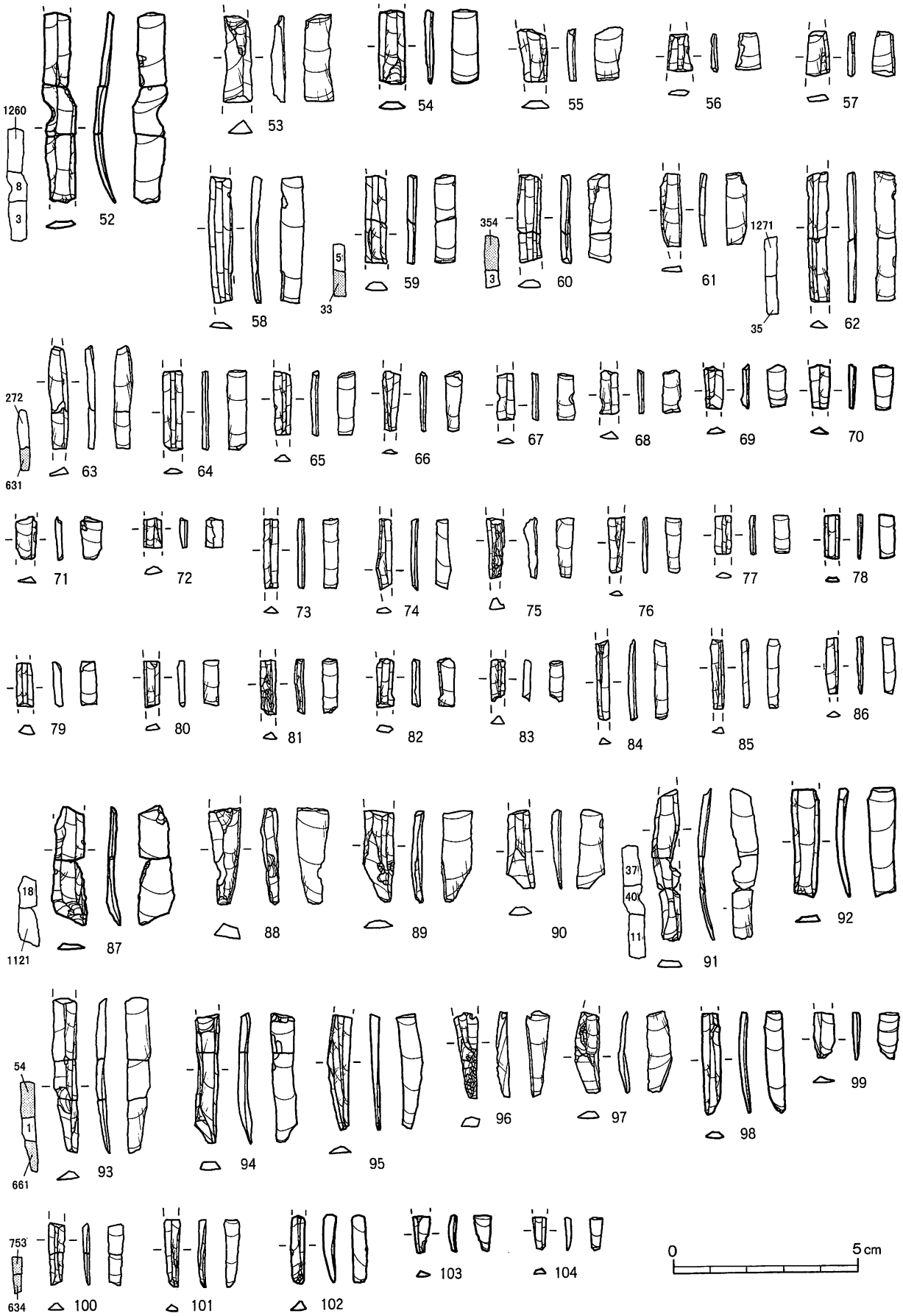
87～104は、末端部で、幅の大きさは87・88が9㎜、90が8㎜、91・92が7㎜、93～97が6㎜、98・99が5㎜、100～103が4㎜、104が3㎜である。側面観は湾曲しているものやねじれているものが多く、横断面は台形のものが多い。96も中間部の75・81同様に細石刃核の腹面が取り込まれ、さらに細かな調整がみられる。

細石刃核（図Ⅲ－4－105～107）

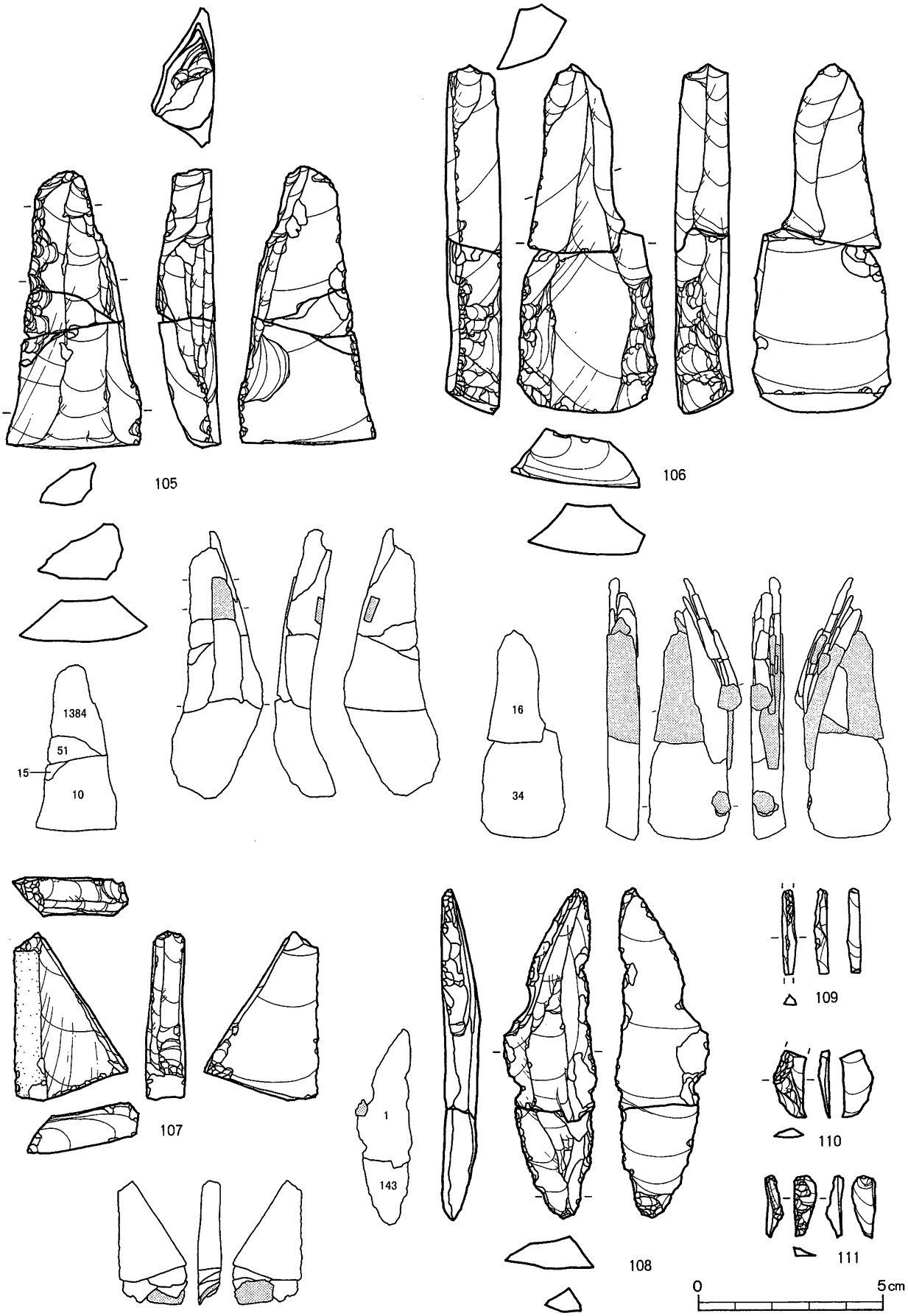
Ⅱ層からの出土は、1点であるが、Ⅰ層出土の細石刃・剥片などとの接合状況から7点、3個体を図示した。



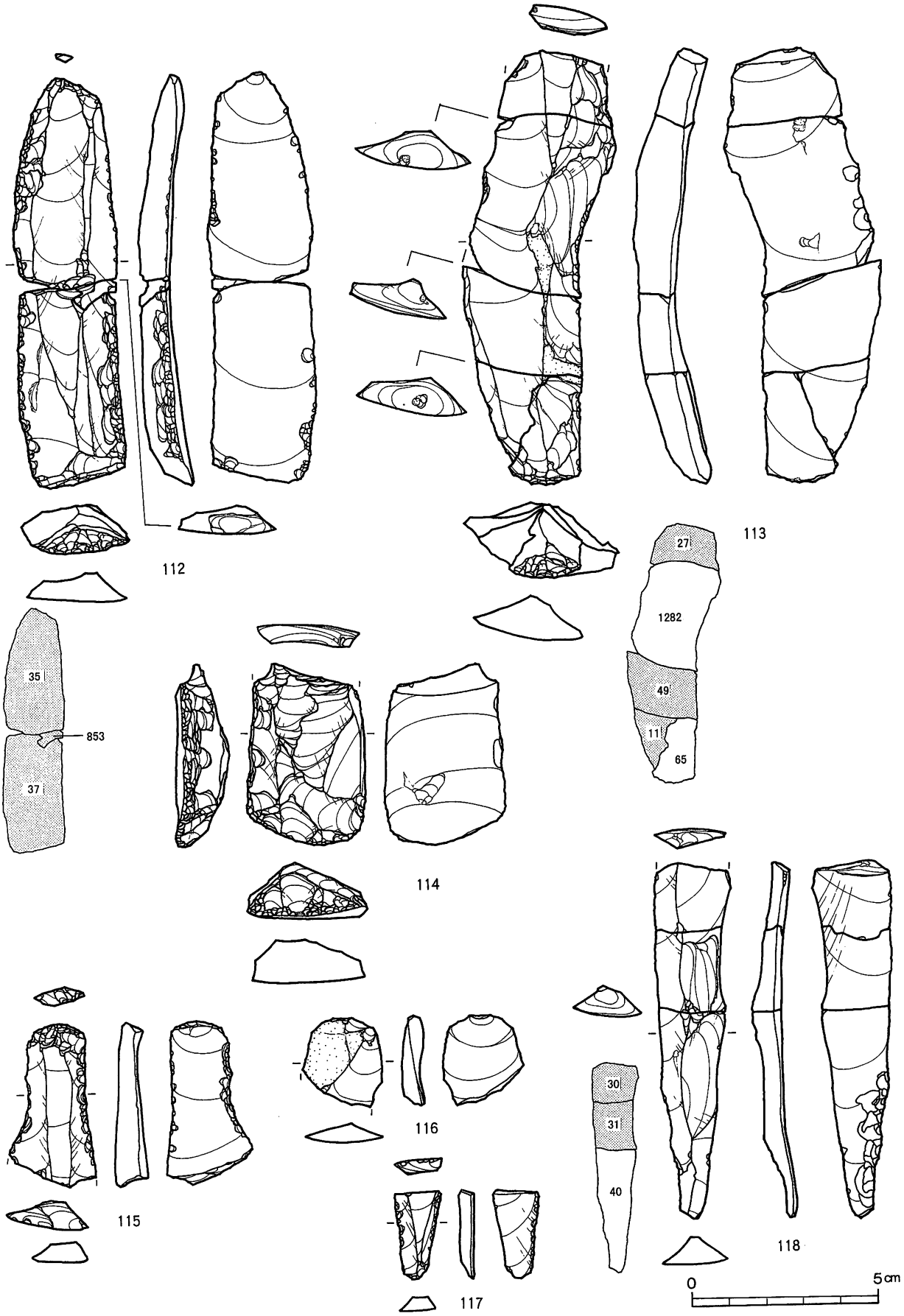
図Ⅲ－2　Ⅱ層出土の遺物(1) 細石刃



図Ⅲ－3　Ⅱ層出土の遺物(2) 細石刃



図Ⅲ－4　Ⅱ層出土の遺物(3) 細石刃核・彫器・削片



図Ⅲ－5　Ⅱ層出土の遺物(4) 掻器・二次加工ある剥片・石刃

105の破損は、耕作などのダメージによるものであるが、Ⅰ層の細石刃核にⅡ層の細石刃と剥片が接合している。厚手の石刃を素材とし、打点側の右側縁で細石刃剥離が行われ、ヒンジフラクチャーをおこしている。作業面からの打面再生の後、縦方向の剥離が腹面に抜け、遺棄されたようである。106は上半部がⅡ層出土で、細石刃・調整剥片などが接合している。厚手の石刃を素材とし、作業面を大きく後退させてヒンジフラクチャーをおこした剥離が原因で二つの折れている。107は切断された細石刃核で、反対側は掻器として加工されたとみられ、その刃部加工の剥片が接合し、そのうちの1点がⅡ層出土である。105は母岩別資料22、106は母岩別資料10、107は母岩別資料12で、接合・剥離状況については、母岩別資料の項目で詳しく説明する。

彫器（図Ⅲ－4－108）

108はⅠ層出土であるが、Ⅱ層の削片の末端部が接合している（母岩別資料13）。石刃を素材とし、両側縁は耕作などのダメージが著しいが、舌状の基部が作出されている。腹面側の基部加工は平坦剥離によってリングのうねりを除去している。

削片（図Ⅲ－4－109～111）

109は直接接合しないが、Ⅰ層出土の彫器218の彫刀面作出の際の削片である（母岩別資料21）。110・111はいずれも左側縁に細かな剥離がみられる。石材は3点とも黒曜石1（黒）で、110は被熱している。

掻器（図Ⅲ－5－112～114）

9点あるが、接合して3個体になっている。112は石刃素材で、比較的平行な両側縁に加工がみられ、末端側に刃部を作出している。刃部は直線的で、角度は70°前後である。器体のほぼ中央から二つに折れ、両側が三角形にはじけている。折れ面の割れは腹面の中央から広がり、使用中に破損したものと考えられる。113は石核の稜整形の剥離痕がみられる。打点側が欠損した石刃を素材としたもので、5点が接合している。黒曜石1（黒）であるが、全体に被熱が著しく光沢を失っている。刃部は末端側に作出され、幅は狭く直線的で、角度は70°前後である。器体の横方向の3か所の折れはいずれも石材に含まれる斑晶鉱物部分からで、同時に起きている可能性がある。使用または被熱よる折れと考えられる。刃部のある破片の縦方向の割れは被熱によるものである。114は石刃素材とみられ、刃部は打点側に作出されている。刃部は丸みがあり、角度は60°前後である。刃部再生の剥片などが接合し、母岩別資料5で詳しく説明する。3点とも刃潰し加工か、使用によるためか不明であるが、刃部を中心に細かな剥離が観察できる。

二次加工ある剥片（図Ⅲ－5－115）

115は石刃の両側縁にやや不連続な加工がみられる。加工は右側縁は背面側に直線的に、左側縁は腹面側にノッチ状に行われている。

石刃（図Ⅲ－5－116～118）

5点あるが、接合して3個体になっている。116は打点側で、被熱のため全体が光沢を失い、ザラついている。117は末端側で、両側縁に微細な剥離がみられる。118は石核の稜整形の剥離痕がみられる断面三角形のものである。

(2) Ⅰ層出土の石器（図Ⅲ－6～9、図版8・9）

出土石器は、細石刃188点、細石刃核7点、尖頭器2点、彫器2点、掻器6点、削器3点、二次加工ある剥片1点、石刃22点、縦長剥片6点、削片2点、剥片1,144点、総数1,387点であが、ここで図示したものは、細石刃95個体、細石刃核2点、彫器1点、掻器4点、削器3点、二次加工ある剥片1個体、石刃15

点、削片2点である。黒曜石製の石器の後にその他の石材の石器を一括して図示した（図Ⅲ－9－239～245）。

細石刃（図Ⅲ－6－119～178、図Ⅲ－7－179～213）

出土点数は188点、0.1ｇ未満のものが49点あり、ここでは98点、95個体を図示した。119は幅が9㎜、完形である。

120～162は打点側で、幅は120は10㎜、121～125が8㎜、126～133が7㎜、134～143が6㎜、144～155が5㎜、156～162が4㎜である。また、厚さは1㎜、3㎜のものもあるが、2㎜が多い。両側縁は平行なものが多く、大部分の側面観は直線的である。背面の稜線は2ないし3本のものが多く、1本のものは少ない。したがって、横断面は台形に近いものが多い。打面の形状が観察できるものをみると、三角形に近いものが4点（134・151・154・156）、菱形に近いものが28点（121～124・126～130・135～143・145～150・153・155・161・162）、台形に近いもの1点（144）である。また、石刃素材の細石刃核の腹面が、取り込まれているものが13点（122・123・126・127・134・135・138・149・151・154～156・161）みられる。

163～207は中間部で、幅は163～166が9㎜、167～169が8㎜、170～172が7㎜、173～178が6㎜、179～191が5㎜、192～203が4㎜、204～207が3㎜である。また、厚さは1㎜、4㎜のものが若干あるが、2・3㎜が多い。いずれも両側縁は比較的平行で、側面観も直線的である。背面の稜線は2ないし3本のものが多く、横断面も台形に近いものが大部分である。また、石刃素材の細石刃核の腹面が取り込まれているものが9点（166・168・170・172・181・182・192・196・204）みられる。

208～213は末端側で、幅は、208が9㎜、209・210が6㎜、211～213が5㎜である。また、厚さは2～4㎜で、いずれも側面観はわずかに湾曲している。石刃素材の細石刃核の腹面が取り込まれているものが4点（208・209・211・212）ある。

細石刃核（図Ⅲ－7－214・215）

214の素材は不明であるが、両面加工の楔形の細石刃核である。打面は下縁まで抜ける削片剥離によって作出され、平坦部分のほぼ全面に擦痕が観察できる。擦痕は基本的に打面の長軸方向であるが、両側縁部分は側縁に直行する短い単位でみられる。作業面は削片剥離の打点側に設定され、8本の細石刃剥離痕がみられ、打面との角度は90°に近い状態になっている。215は厚手の剥片を素材とした半両面加工の断面がD字形に近い細石刃核である。加工は、素材腹面のリングの大きなうねりの除去、背面の周縁からの剥離、削片剥離による打面の作出、打面からの背面側への側面調整剥離、打面両側縁への細かな調整剥離の順で行われている。作業面は削片剥離の打点側に設定されているが、2本の細石刃様剥片の剥離痕がみられるだけである。打面には擦痕は観察できない。

尖頭器（図Ⅲ－8－216・217）

216は先端部と考えられるもので、加工は比較的ていねいで、断面は凸レンズ状である。217は先端部が欠損しているが、厚手の横長の剥片を素材とした木葉形に近いものである。裏面にわずかに素材面を残し、ほぼ両面に加工が施されているが、全体に粗い作りである。

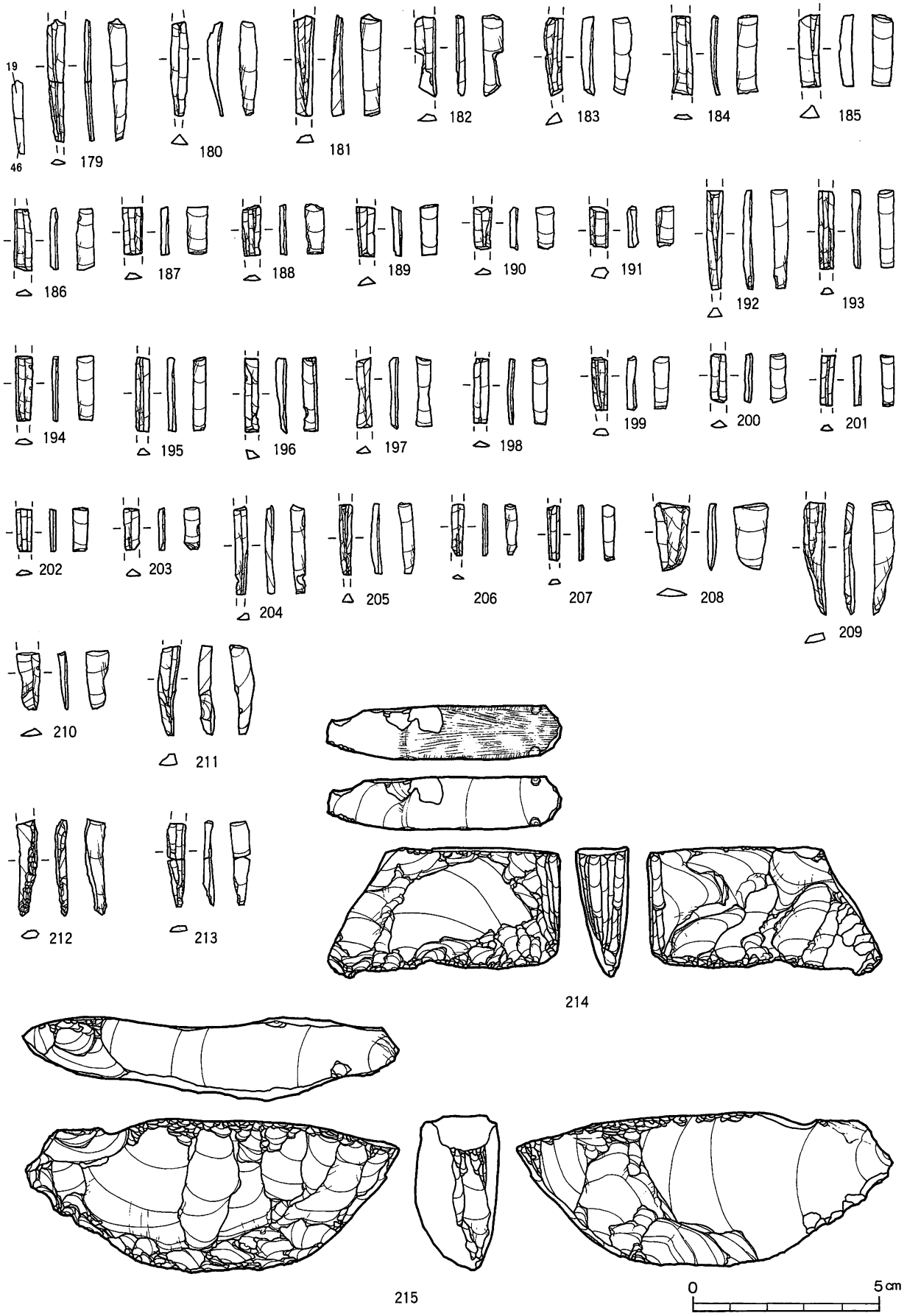
彫器（図Ⅲ－8－218）

石刃素材で、末端側に彫刀面がみられる。基部および側縁に加工はみられず、端部に彫刀面打撃のための打面が腹面からのノッチ状の加工で作出されている。接合はしないが、同一母岩とみられるⅡ層出土の彫刀面作出時の削片があり、母岩別資料21とした。

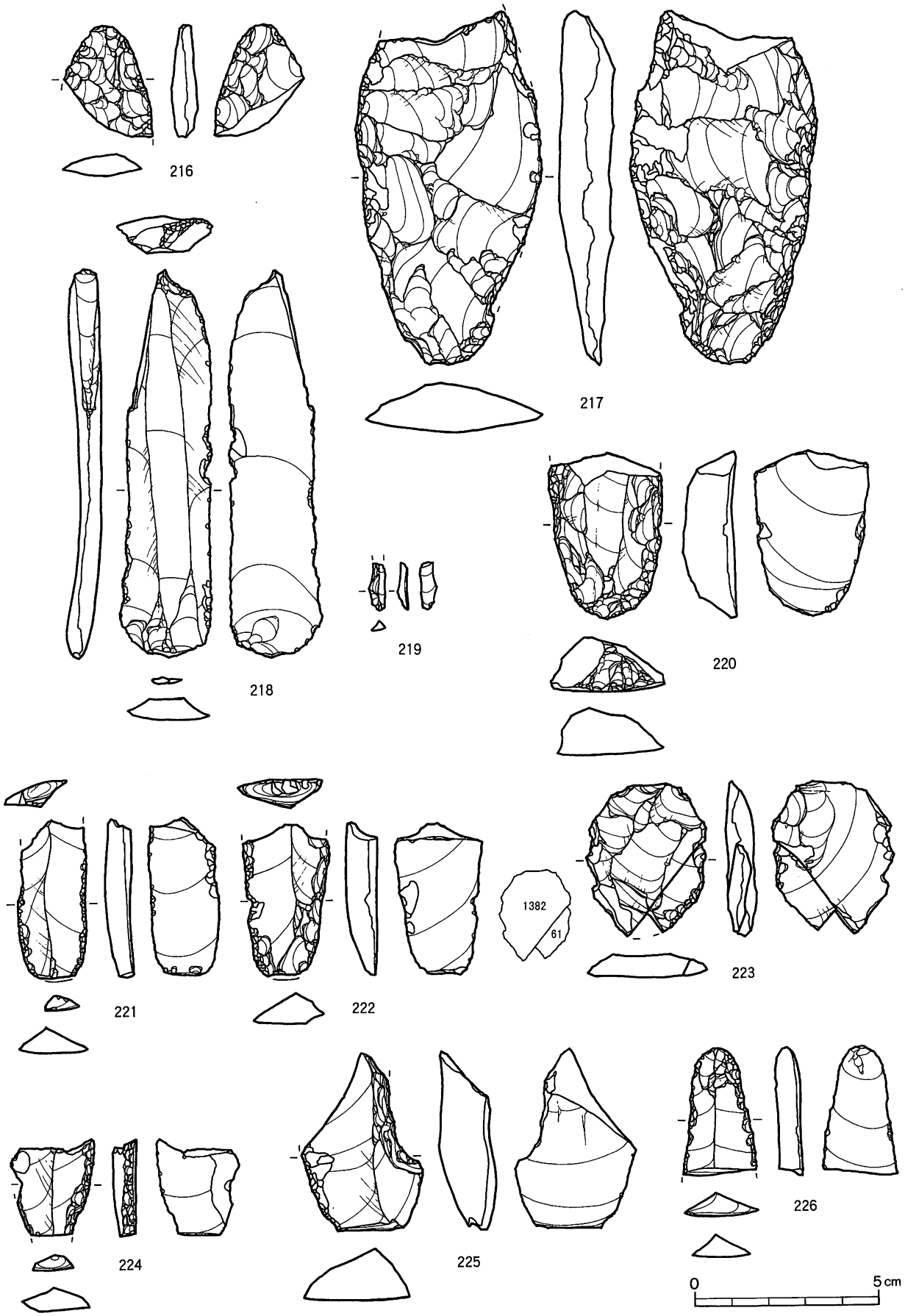
削片（図Ⅲ－8－219）

細かな側縁への加工がみられる断面三角形のものである。

図Ⅲ－6　Ⅰ層出土の遺物(1) 細石刃



図Ⅲ－7　Ⅰ層出土の遺物(2) 細石刃・細石刃核



図Ⅲ－8　Ⅰ層出土の遺物(3) 尖頭器・彫器・掻器・削器・二次加工ある剥片・削片

図Ⅲ－9　Ⅰ層出土の遺物(4) 掻器・石刃・削片・縦長剥片

掻器（図Ⅲ－8－220～222）

220は厚手の石刃素材で、末端側に刃部を作出している。刃部は丸みがあり角度は60°前後である。221・222は横断面が三角形の石刃を素材としたもので、末端側に刃部を作出しているが、いずれもわずかに欠損している。両側縁の加工と残存部分から判断すると、刃部は浅い加工とみられる。また、2点とも器体の折れの原因の割れは腹面側から広がっている。

二次加工ある剥片（図Ⅲ－8－223）

やや横長の剥片を素材とし、背面の末端側に浅い加工が施されている。

削器（図Ⅲ－8－224～226）

3点とも石刃素材で、側縁に加工がみられる。224は連続的な加工で、彫器などの基部の可能性がある。225の右側縁はノッチ状、226は浅く不連続な加工である。

石刃（図Ⅲ－9－227～238）

出土した17点、12個体を図示した。いずれも耕作などによるダメージが著しく、破損または欠損し、側縁にも新しい剥離がみられる。227・228は残りの良い大型のもので、長さが94㎜、84㎜である。いずれも被熱し、光沢を失っている。

黒曜石以外の石材の石器（図Ⅲ－9－239～245）

239は珪岩製の掻器である。稜付きの縦長剥片を素材にし、末端側に幅の狭い刃部を作出している。刃部は直線的で、角度は75°前後である。240はめのう製のスキー状の削片である。打点側の端部に3本程度の細石刃を剥離した痕跡がみられるが、明確ではない。241～245は石刃ないし縦長剥片である。241・244はめのう、242は珪岩、243・245は頁岩である。

3　石器ブロック

Ⅱ層で出土位置を記録した遺物は、1,197点である。その分布状況（図Ⅲ－10）をみると、P・Q－25区とP・Q－26区西端の6.0×5.3mの範囲とP－23区北西側の直径1.5mの範囲に平面的なまとまりが確認できる。その他は、Q－24区、Q－26区北西隅、O－28区、P－28区に各1点ずつ分布するだけである。

P－23区のまとまりでは、25点の黒曜石製の剥片がみられたのみである。いずれも薄手の調整剥片で、うち19点は、0.1g以下の砕片である。Q－24区の1点は、黒曜石製の細石刃（図Ⅲ－2－49、母岩別資料2）、Q－26区北西隅の1点も黒曜石製の細石刃（図Ⅲ－3－90、母岩別資料4）、O－28区の1点は、重さ0.7gの黒曜石製剥片、P－28区の1点は、灰黄色の頁岩製の剥片である。

P－25区を中心とするまとまりについては、石器ブロック1として、以下に詳しく説明する。

石器ブロック1（図Ⅲ－11～13、表Ⅲ－1）

6.0×5.3mの範囲に遺物が分布するが、比較的まとまっているのは、P－25区とQ－25区にまたがる3.5×2.0mの範囲である。また、最も濃密に分布するP－25区の2.0×1.4mの範囲は、Cb－2と平面的にも垂直的にも重なっている。

ブロック内の位置を記録したⅡ層の遺物は、細石刃129点、細石刃核1点、掻器7点、二次加工ある剥片1点、石刃4点、縦長剥片1点、削片4点、剥片1,021点、合計1,168点、重量224.6gである。しかし、Ⅰ層と接合したものもこのブロックに伴うと考えると、細石刃183点（162個体）、細石刃核7点（3個体）、彫器3点（2個体）、掻器9点（3個体）、二次加工ある剥片1点、石刃5点（3個体）、縦長剥片6点（4個体）、削片4点、剥片1,039点（1,030個体）、合計1,257点（1,212個体）、重量474.4gとなる。

表Ⅲ－1　石器ブロック出土石器一覧表

ブロック			細石刃		細石刃核		彫器		掻器		二次加工ある剥片		石刃		縦長剥片		削片		剥片		合計	
ブロック1		個体数	162		3		1		3		1		3		4		4		1030		1211	
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
		Ⅱ層	129	14.2	1	14.1			7	67.7	1	6.3	4	8.6	1	0.7	4	0.8	1021	112.2	1168	224.6
		Ⅰ層	50	12.0	5	67.5	2	15.3	2	22.7			1	5.3	4	42.1			18	51.4	82	216.3
		B調	4	1.5	1	12.4															5	13.9
		排土													1	1.0					1	1.0
		合計	183	27.7	7	94.0	2	15.3	9	90.4	1	6.3	5	13.9	6	43.8	4	0.8	1039	163.6	1256	455.8
ブロック外	O28	Ⅱ層																	1	0.7	1	0.7
	P23	Ⅱ層																	25	1.9	25	1.9
	P28	Ⅱ層																	1	56.2	1	56.2
	Q24	Ⅱ層	1																		1	
	Q26	個体数	4																		4	
		Ⅱ層	1	0.3																	1	0.3
		Ⅰ層	3	1.0																	3	1.0
		合計	4	1.3																	4	1.3
	合　計		5	1.3															27	58.8	32	60.1

点数でみると、剥片は85%、細石刃は13%で、他の石器類が2%である。しかし、重量をみると、剥片は34%、細石刃は6%で、他の石器類が40%となる。石器類の中で、細石刃の占め割合が極めて高いことと、剥片類が小片であることが分かる。また、集計表には出てこないが、0.1ｇ未満の細石刃片が78点、砕片が828点ある。

細石刃・掻器などの石器類と剥片類の分布状況（図Ⅲ－11）をみると、重複するが、Q－25区の部分は、石器類の比率が高い。掻器は3個体あるが、いずれもQ－25区にあり、1点のみ112が折れた時にはじけた剥片が、2m離れたP－25区に分布する。石器類の91%を占める細石刃の大部分は剥片の集中部分と重なるが、周辺部にも分布している。

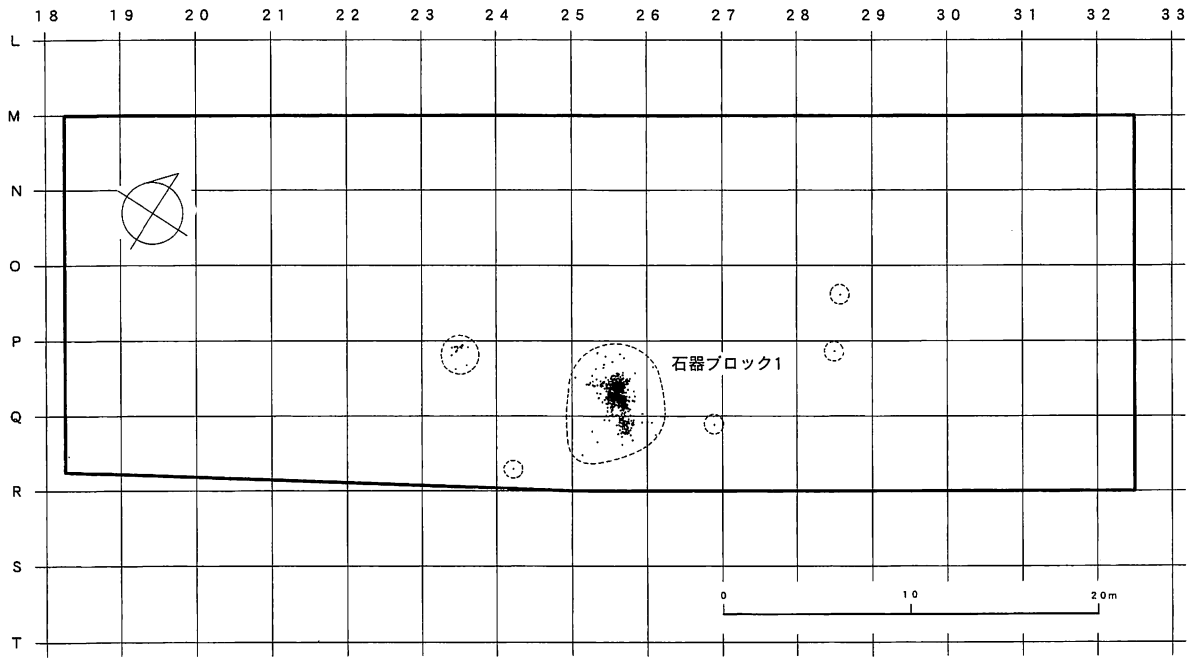
肉眼的に被熱が確認できたものは、全体の12%、150点であるが、Ⅱ層の細石刃では、44%となり、Cb－2との同時性の可能性を示唆するものと考えられる。

石材のほとんどは黒曜石であるが、頁岩製の剥片が7点ある。長さが1cm前後のものが2点あるだけで他は砕片である。

出土資料から判断する限り、石器ブロック1では、石核などからの石刃・剥片剥離など作業は行われておらず、持ち込まれた細石刃核からの細石刃剥離やそれに伴う石核調整、掻器の使用と刃部再生などの作業が行われ、不要な細石刃や破損した細石刃核・掻器などの石器類が廃棄された、と考えられる。また、少量ながら頁岩製の剥片・砕片もあることから頁岩製の石器も持ち込まれて使用・調整剥離などが行われていた可能性がある。

4　母岩別資料

母岩別分類は、主にⅡ層出土の黒曜石製の石器類に対して、石材の色調、模様、粒子の粗密、礫面の特徴から行なった（表Ⅲ－2）。Ⅰ層については、Ⅱ層で抽出された母岩に相当するもののほか、特徴的なものについても分類を試みた。母岩の抽出は基本的に2点もしくは2個体以上のものとしたが、特徴的なものは1点もしくは1個体だけでも母岩として扱った（母岩別資料11・14・15・16・17）。したがって、母岩別資料には、接合資料と非接合資料が含まれ、ものによっては単体の非接合資料のみ



図Ⅲ－10　遺物分布図

の場合もある。他の石材については、資料数が少ないこと、細片が多いことから、細かい母岩分類は行なっておらず、必要に応じて記載している。

Ⅱ層出土の遺物のうち、剥片以外で母岩別資料に分類できなかったものが7個体（110～111、113、115～118）ある。これらは、被熱が著しいもの（113）、母岩別資料5と非常に類似するが識別できなかったもの（110、111）、母岩別資料21と類似するが識別できなかったもの（115）、小片のもの（116～118）である。すべて黒曜石1（黒）である。

上記の分類による結果、黒曜石について22の母岩別資料（母岩別資料1～22）が抽出できた。母岩別資料別に点数・個体数・総重量〈点数・重量〉、石材の色・模様などの特徴〈特徴〉、Ⅱ層・Ⅰ層の分布状況〈分布〉、器種や剥離過程の内容〈内容〉の順で説明する。また、各母岩別資料にⅡ層の分布図とその位置、Ⅰ層の発掘区単位での分布図を示した。Ⅰ層については0.1ｇ以下の資料は含めていない。

母岩別資料1（接合8・9）（図Ⅲ－14、図版9）

点数・重量　点数16点、細石刃15個体、重量3.9ｇ。

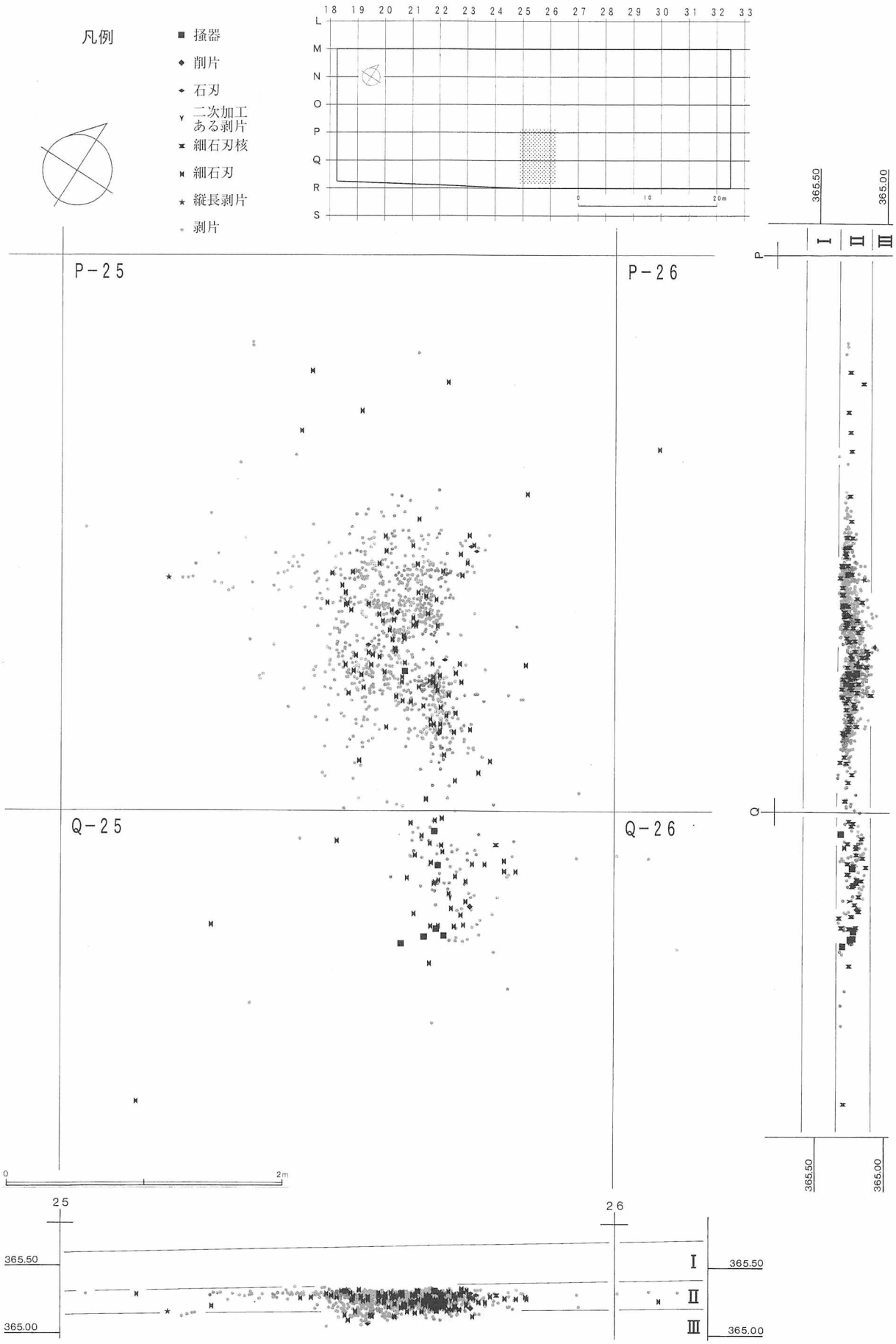
特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みがやや薄く、灰色がかっている。

分布　Ⅱ層の資料はP・Q－25区にある。Ⅱ層の資料はP－25区を中心に、広い範囲に分布する。

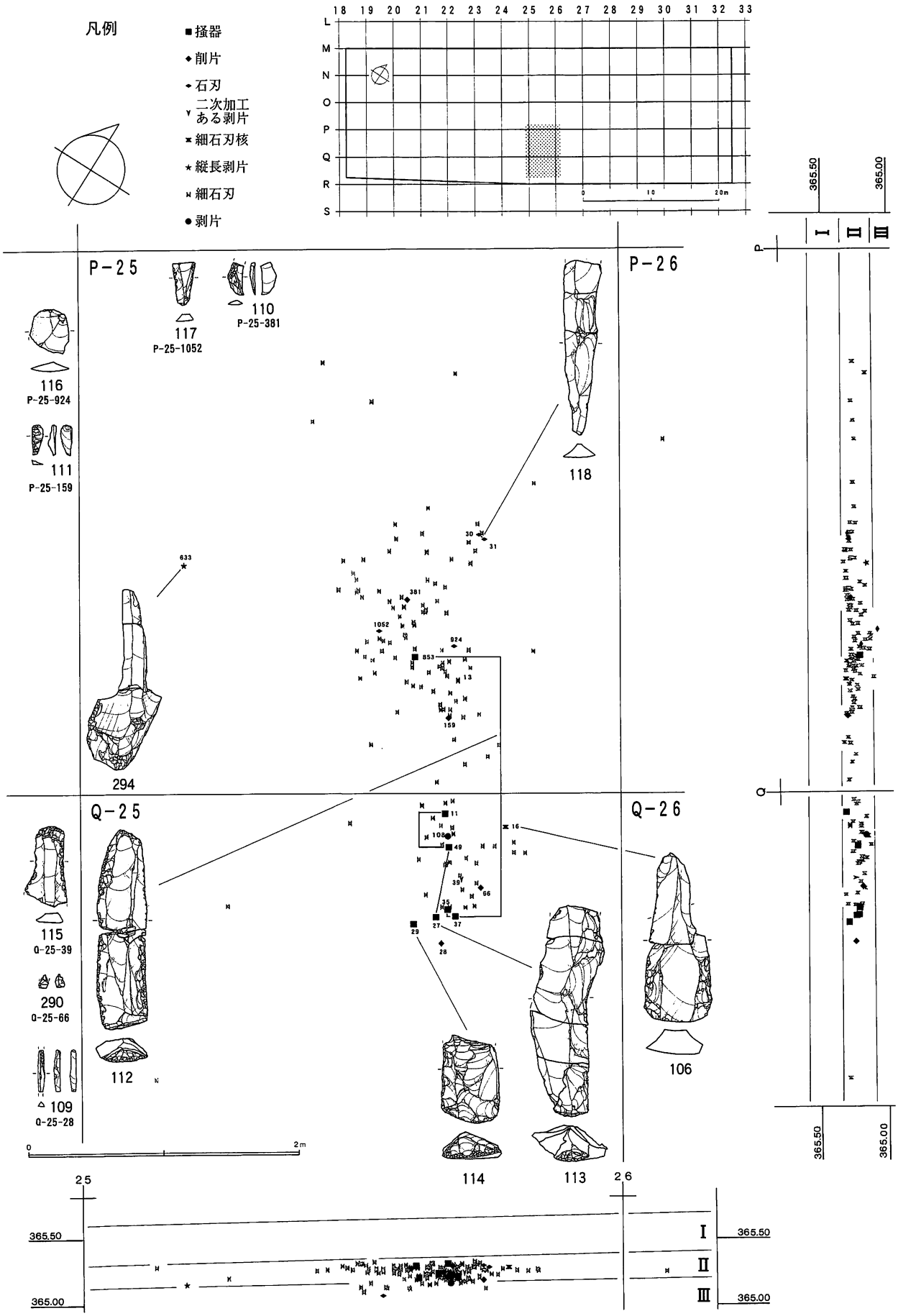
内容　細石刃の接合資料が2個体（246－接合9、247－接合8）あり、非接合の細石刃が10個体ある。接合資料から細石刃剥離が観察できる。

246は3個体、247は2個体の細石刃が接合している。いずれも石器ブロック1の資料が接合し、連続的な細石刃剥離がみられる。

細石刃全体でみると残存部位は、打点側9個体、中間部4個体、末端側2個体である。



図Ⅲ－11　石器ブロック1分布図(1)



図Ⅲ－12　石器ブロック１分布図(2)

母岩別資料2（図Ⅲ－15、図版9）

点数・重量　点数16点、細石刃16個体、重量3.9ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みがやや薄く、灰色がかっている。また白色と灰色の細かい縞がみられ、白色の混じりが多い。

分布　Ⅱ層の資料はQ－25区を中心にP－25区、Q－24区にみられ、P・Q－25区では2mほどの範囲に分布する。Ⅰ層の資料はP・Q－25区のほかに、離れたO－19区、Q－21区にもみられる。

内容　接合資料はなく、非接合の細石刃が16個体あり、石器ブロック1の資料を含む。

細石刃の残存部位は、打点側9個体、中間部6個体、末端側1個体である。

母岩別資料4（接合番号27）（図Ⅲ－15、図版9）

点数・重量　点数7点、細石刃7個体、重量2ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、灰色の縞がみられる。

分布　Ⅱ層の資料はQ－26区にある。Ⅰ層の資料はP－25区を中心にP－24～28区に直線的に分布するが、離れたO－18区にもみられる。

内容　細石刃の接合資料が1個体（248－接合27）あり、非接合の細石刃が3個体ある。接合資料から細石刃剥離が観察できる。

248には4個体が接合している。石器ブロック1よりやや離れたQ－26区の細石刃にⅠ層のものが接合し、連続的な細石刃剥離がみられる。

細石刃全体でみると残存部位は、打点側4個体、中間部3個体である。

母岩別資料5（接合24～26）（図Ⅲ－16、図版9）

点数・重量　点数10点、掻器1個体（114）、剥片7個体の8個体、重量25.6ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みが薄く、灰色がかっている。母岩別資料12、20と類似する。

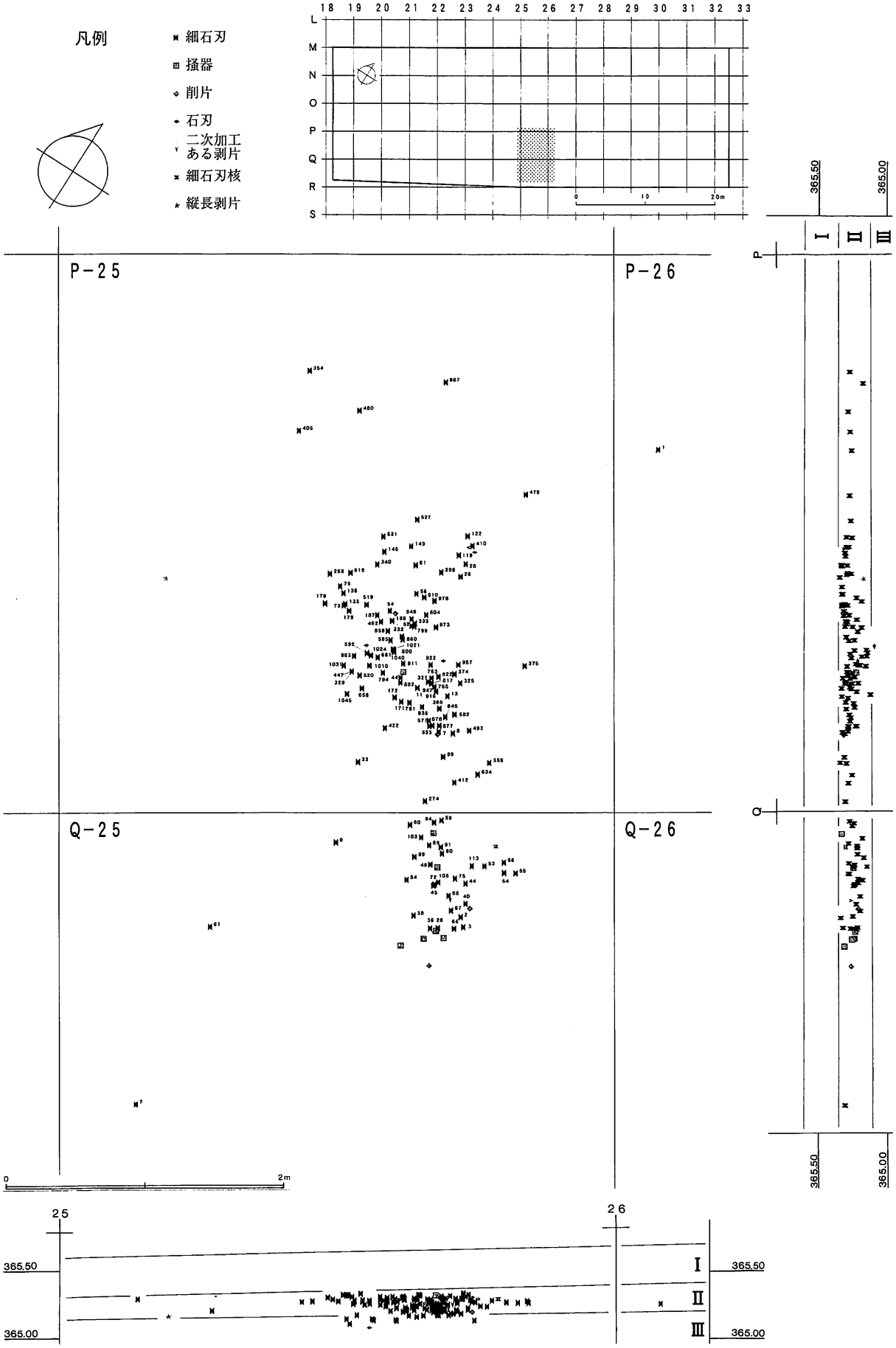
分布　Ⅱ層の資料はP・Q－25区の2mほどの範囲にみられる。Ⅰ層の資料はP－25区を中心にまとまっている。

内容　掻器の接合資料が1個体（249－接合24・25・26）ある。石器ブロック1の資料が接合し、刃部

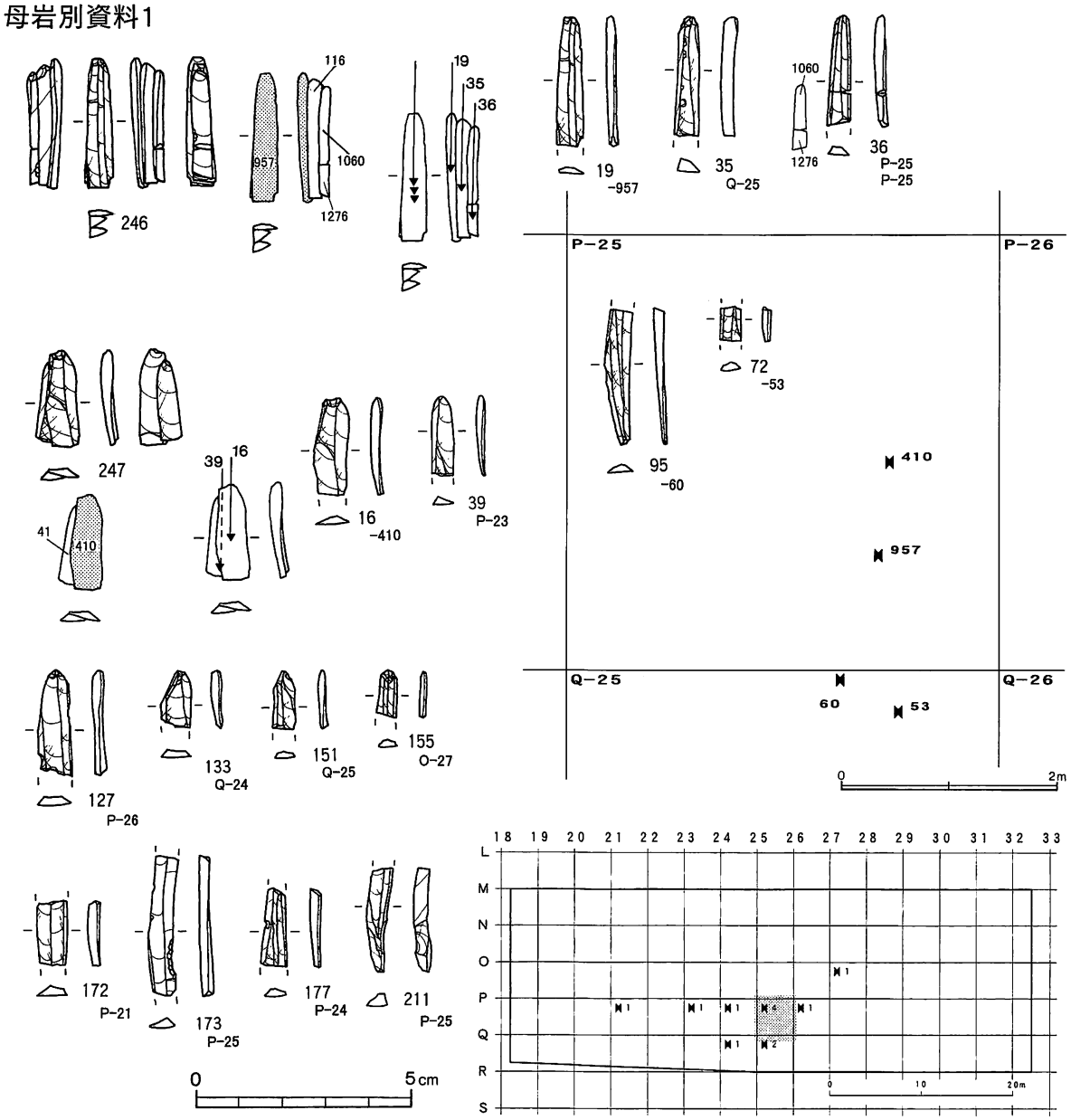
表Ⅲ－2　母岩別資料石器一覧表

母岩番号	細石刃			細石刃核			尖頭器			彫器			掻器			二次加工ある剥片			石刃			縦長剥片			削片			剥片			合計		
	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量
1	15	16	3.9																												15	16	3.9
2	16	16	2.7																												16	16	2.7
3	5	5	1.6																												5	5	1.6
4	7	7	2.0																												7	7	2.0
5													1	1	21.0													32	34	12.3	33	35	33.3
6	52	64	11.6																												52	64	11.6
7	38	44	9.9																			1	1	1.0							39	45	10.9
8	15	16	2.6																												15	16	2.6
9	17	18	3.3																												17	18	3.3
10	45	51	11.4	1	2	48.5																1	1	7.3				6	7	3.4	53	61	70.6
11																			1	1	2.2										1	1	2.2
12				1	1	13.2																						4	4	2.0	5	5	15.2
13										1	2	15.3													1	1					2	3	15.3
14				1	1	87.2																									1	1	87.2
15				1	1	33.0																									1	1	33.0
16													1	3	30.2																1	3	30.2
17							1	1	61.5																						1	1	61.5
18																1	2	9.4										11	27	238.7	12	29	248.1
19																												8	14	44.9	8	14	44.9
20																												2	8	46.1	2	8	46.1
21										1	1	18.6													1	1	0.3				2	2	18.9
22	1	1		1	4	32.5																2	4	35.5							4	9	68.0
合計	211	238	49.0	5	9	214.4	1	1	61.5	2	3	33.9	2	4	51.2	1	2	9.4	1	1	2.2	4	6	43.8	2	2	0.3	63	94	347.4	292	360	813.1

※母岩番号5→報告書に掲載しない接合・非接合の剝片を含む　※母岩番号18→報告書に掲載しない接合の剝片を含む(掲載は二次加工ある剝片のみ)　※母岩番号19・20→報告書に掲載しない接合の剝片のみ



図Ⅲ−13　石器ブロック1分布図(3)

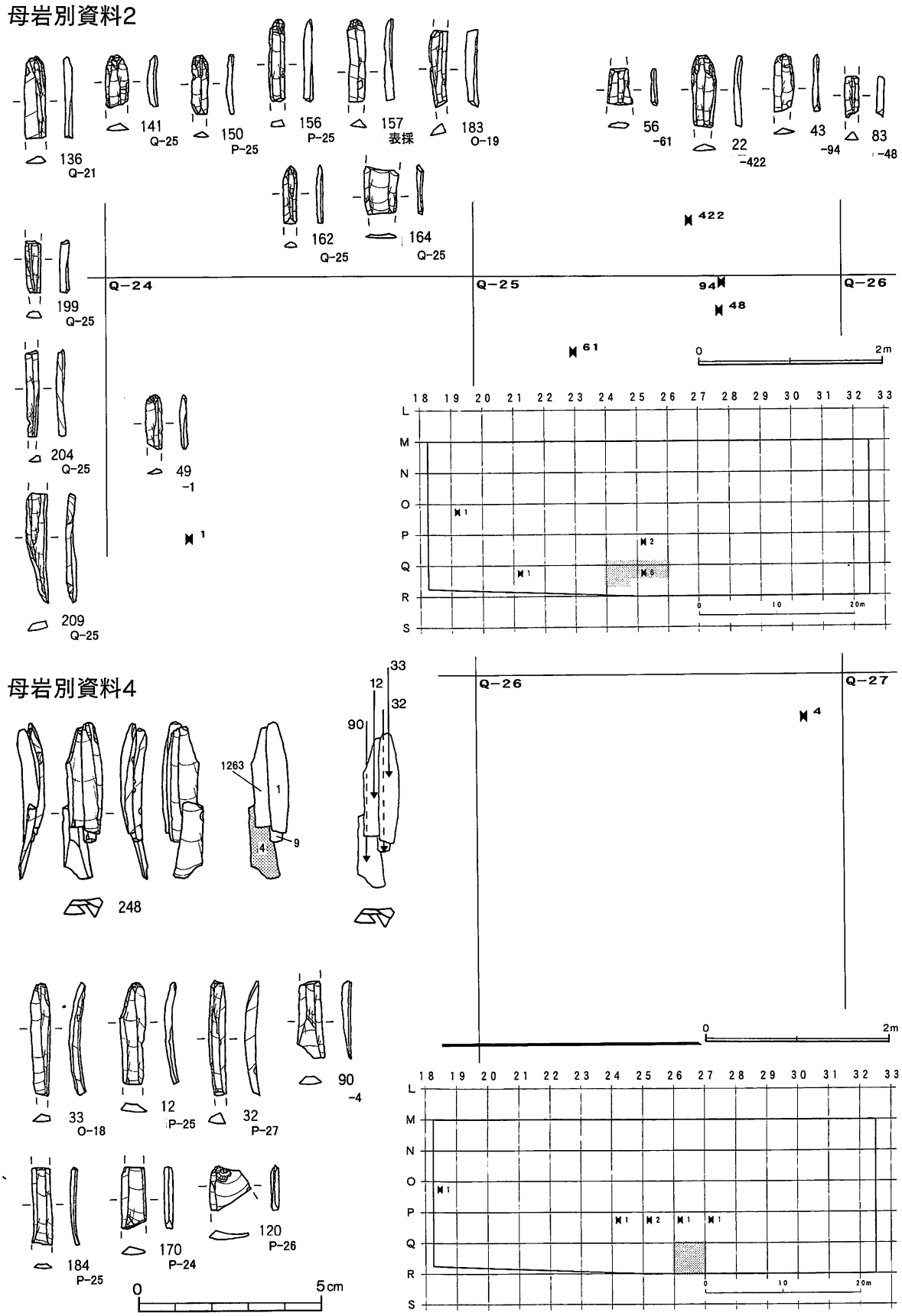


図Ⅲ－14　母岩別資料(1) 母岩別資料1

の再生と器体調整が観察できる。

掻器の接合資料は3個体の接合資料（接合24・25・26）から構成されるが、剥離面の比較などから、249の状態に復元できる。接合24は掻器本体（114）と縦長剥片2個体（250の下半2点と251の下半1点）、刃部再生剥片1点（256）、接合25は縦長剥片2個体（250・251の上半各1点）、接合26は刃部再生剥片4点（252～255各1点）である。250の上半と下半はつくかつかないかの微妙なところで、刃部再生剥片256と接合26とは、直接は接合しない。

249は、掻器本体（114）と、器体調整とみられる剥片（250～251）、刃部再生に関わる剥片（252～256）から構成される。250と256に関わる剥離面の切り合いから、一連の刃部再生（252→253→254→255）が行なわれた後に器体調整が行なわれている。最終的には250、251の後に同じような剥離が行なわれ、ヒンジフラクチャーをおこし、割れが腹面側に広がり折れたようである。114は残っていた



図Ⅲ－15　母岩別資料(2)　母岩別資料2・4

が、折れた上半は確認できなかった。

母岩別資料6（接合10～16、33）（図Ⅲ－17・18、図版9）

点数・重量　点数64点、細石刃52個体、重量11.6ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、灰色の細かい縞がみられ、部分的に網状に混じる部分がある。

分布　Ⅱ層の資料はP－25区の2mほどの範囲にみられる。Ⅰ層の資料はP－25区を中心に、比較的広い範囲に分布する。

内容　細石刃の接合資料が8個体（257－接合11、258－接合15、259－接合10、260－接合13、261－接合14、262－接合12、263－接合16、264－接合33）、非接合の細石刃が26個体あり、接合資料から細石刃剥離が観察できる。

257～262、264には、いずれも石器ブロック1の資料が接合し、連続的な細石刃剥離がみられる。257は4個体、258は3個体、259は2個体、260は2個体、261は4個体、262は3個体、263は2個体、264は2個体が接合している。261の剥離順は91→58→74→7である。

細石刃全体でみると完形は5個体、残存部位は、打点側25個体、中間部19個体、末端側3個体である。

母岩別資料7（接合17～21）（図Ⅲ－19・20、図版9）

点数・重量　点数45点、細石刃39個体、重量10.9ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、灰色の細かい縞がみられる。

分布　Ⅱ層の資料はP・Q－25区のほか、P－26区に1点ある。P－25区では1.5m、P－25区では1mほどの近接した範囲に分布する。Ⅰ層の資料はP－20～26区、Q－24～26区の広い範囲にみられるが、P・Q－25区が多い。

内容　細石刃の接合資料が5個体（265－接合21、267－接合18、268－接合17、269－接合20、270－接合19）、非接合の細石刃が28個体あり、接合資料から細石刃剥離が観察できる。

265、267～269には、いずれも石器ブロック1の資料が接合し、連続的な細石刃剥離がみられる。265は3個体、267は2個体、268は2個体、269は2個体、270は2個体が接合している。

細石刃全体でみると完形は1個体、残存部位は、打点側16個体、中間部15個体、末端側7個体である。

母岩別資料8（図Ⅲ－20、図版9）

点数・重量　点数16点、細石刃15個体、重量2.6ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みが薄く、灰色がかり、白色と灰色の細かい縞がみられる。

分布　Ⅱ層の資料はP－25区を中心に、P－26区にもみられる。P－25区では1.5mの近接した範囲に分布する。Ⅰ層の資料はP－25区を中心に、6か所の発掘区にみられる。

内容　接合資料はなく、非接合の細石刃が15個体あり、石器ブロック1内の資料を含む。

細石刃全体でみると残存部位は、打点側8個体、中間部7個体である。

母岩別資料9（接合23）（図Ⅲ－21、図版9）

点数・重量　点数18点、細石刃17個体、重量3.3ｇ。

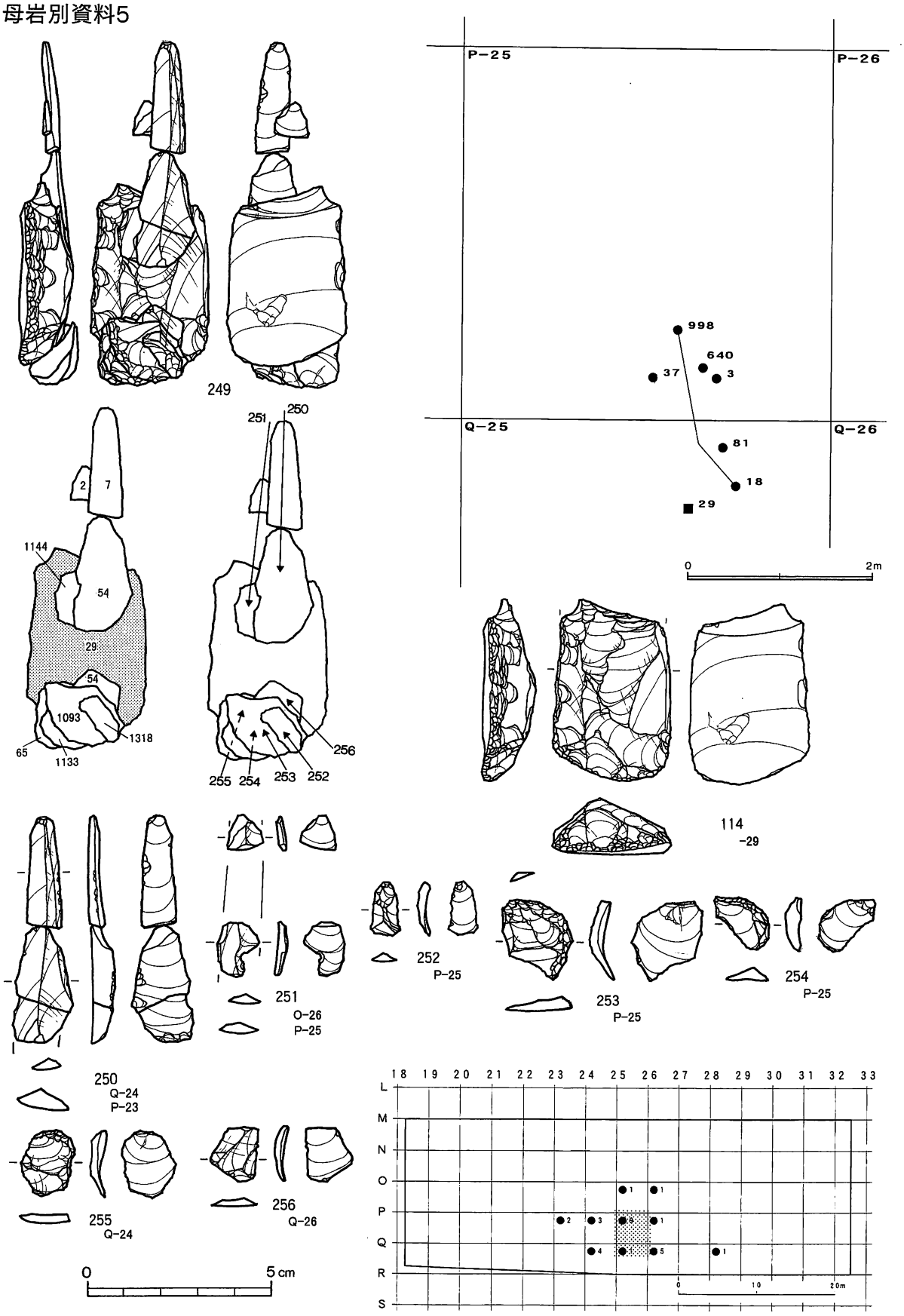
特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みが薄く、灰色がかっている。透かしてみると線が太い黒色の縞がみられる。母岩別資料22に類似する。

分布　Ⅱ層の資料はP・Q－25区の2mほどに直線的に分布する。Ⅰ層の資料はP－24・25区を中心に、P－24区、Q－26区に分布するほか、離れたP－22区、Q－19・22区にみられる。

内容　細石刃の接合資料が1個体（271－接合23）、非接合の細石刃が15個体あり、細石刃剥離が観察できる。

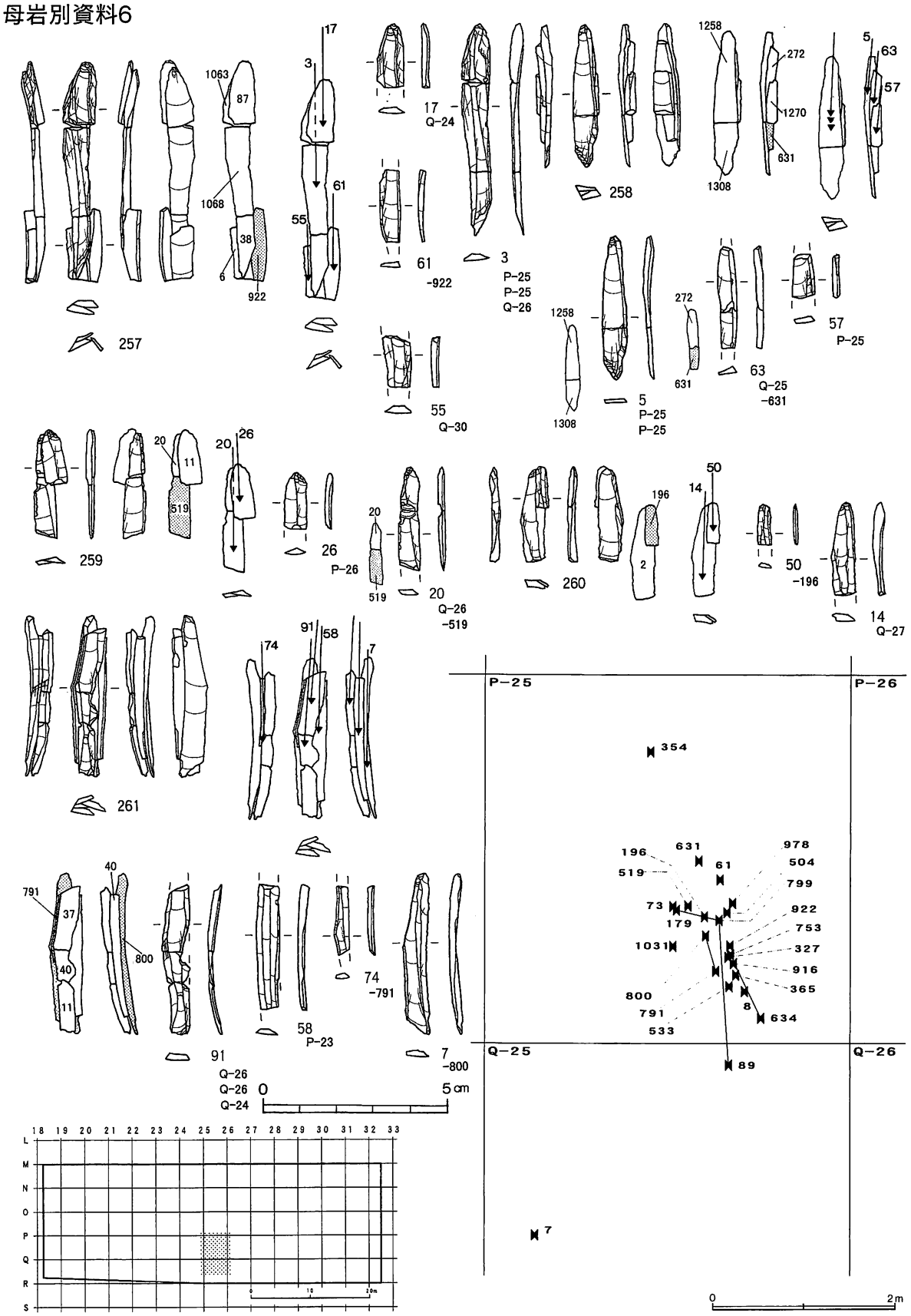
271には2個体が接合している。石器ブロック1の資料が接合し、連続的な細石刃剥離がみられる。

母岩別資料5

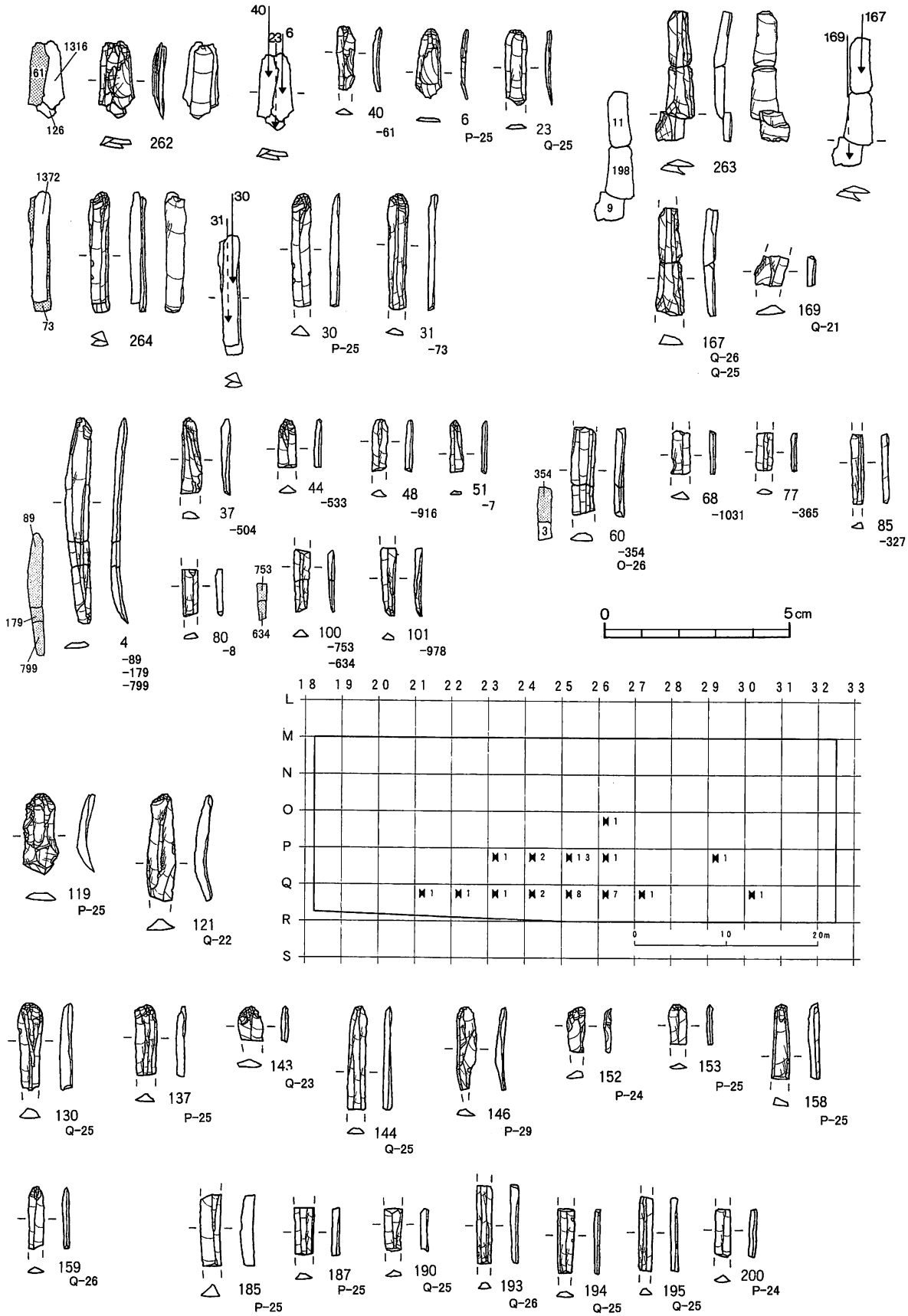


図Ⅲ－16　母岩別資料(3)　母岩別資料5

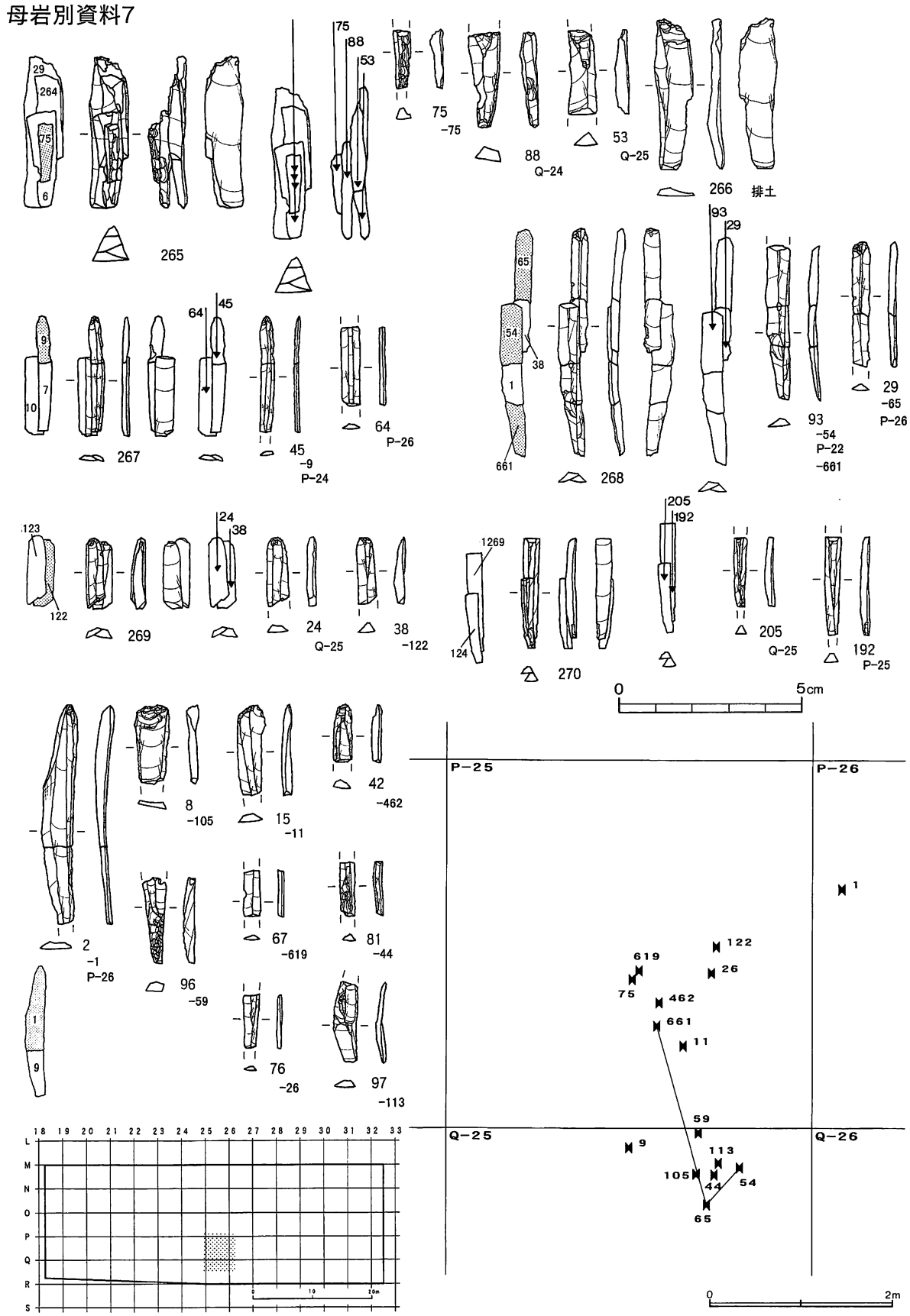
母岩別資料6



図Ⅲ－17　母岩別資料(4) 母岩別資料6



図Ⅲ－18　母岩別資料(5)　母岩別資料6



図Ⅲ－19　母岩別資料(6) 母岩別資料7

細石刃全体でみると残存部位は、打点側7個体、中間部10個体である。

母岩別資料10（接合1～5）（図Ⅲ－22～24、図版9）

点数・重量　点数47点、、細石刃核1個体（106）、細石刃32個体、縦長剥片1個体（277）、剥片5個体（273～276、278）の39個体、重量70.6ｇ。

特徴　黒曜石4（茶>黒）で、黒色の混じりは少ない。

分布　Ⅱ層の細石刃、細石刃核、剥片はP－25区、Q－25区にまたがる2.8×1.5mの範囲に分布する。Ⅰ層出土の資料はP・Q－25区を中心に、その周辺以外にも離れたO－22区、P－27区、Q－30区に細石刃が1点ずつみられる。

内容　細石刃核の接合資料が1個体（272－接合1）、細石刃の接合資料が4個体（279－接合2、280－接合3、281－接合5、282－接合4）、非接合の細石刃が8個体ある。接合資料から細石刃核からの細石刃剥離と細石刃核廃棄の状況が観察できる。

272には、細石刃核が1個体（106）、細石刃が12個体、縦長剥片が1個体（277）、剥片が5個体（273～276、278）の19個体が接合している。石器ブロック1の資料が接合し、細石刃核からの連続的な細石刃剥離と細石刃核廃棄の状況みられる。

272から、細石刃剥離、細石刃核廃棄の状況はA～Eの段階に整理できる。

A　細石刃剥離　作業面に残された細石刃剥離痕から、少なくとも7本以上が剥離されている。279～282は接合していないが、272の接合状態から、A以前の細石刃剥離と考えられる。

B　側縁調整　273～275などの一連の剥離により細石刃剥離作業面のある右側縁を連続的に調整する。剥離は腹面側から急斜度に行なわれ、細石刃剥離が抜けやすくするためのものと考えられる。

C　細石刃剥離　87から細石刃剥離が再び再開され、1まで行なわれる。細石刃剥離は基本的に背面側から腹面側に進み、腹面側まで剥離が進むとまた背面側から行なわれる。276の縦長剥片の剥離で作業面の状態が悪くなる。87～277は連続した一連の剥離とみられるが、277の剥離方向は器体の腹面側から斜めに背面側に向かっており、次のDの剥離の打面を準備するための剥離とも考えられる。1、10、25、276、277は、頭部調整がみられる。92以前の細石刃剥離の途中でも、腹面側からの細かい側縁調整が行なわれている。

D　打面再生　277の後に矢印の背面側の剥離で打面の再生を行なっている。

E　剥片剥離→残核　278の剥離により、階段状になると同時に二つに破損したと考えられる。

279～282は細石刃の接合資料で、279は4個体、280は4個体、281は2個体、282は2個体が接合している。いずれも石器ブロック1の資料が接合し、連続的な細石刃剥離がみられる。

細石刃全体でみると完形は1個体、残存部位は、打点側9個体、中間部5個体、末端側9個体である。

母岩別資料12（接合7）（図Ⅱ－25、図版10）

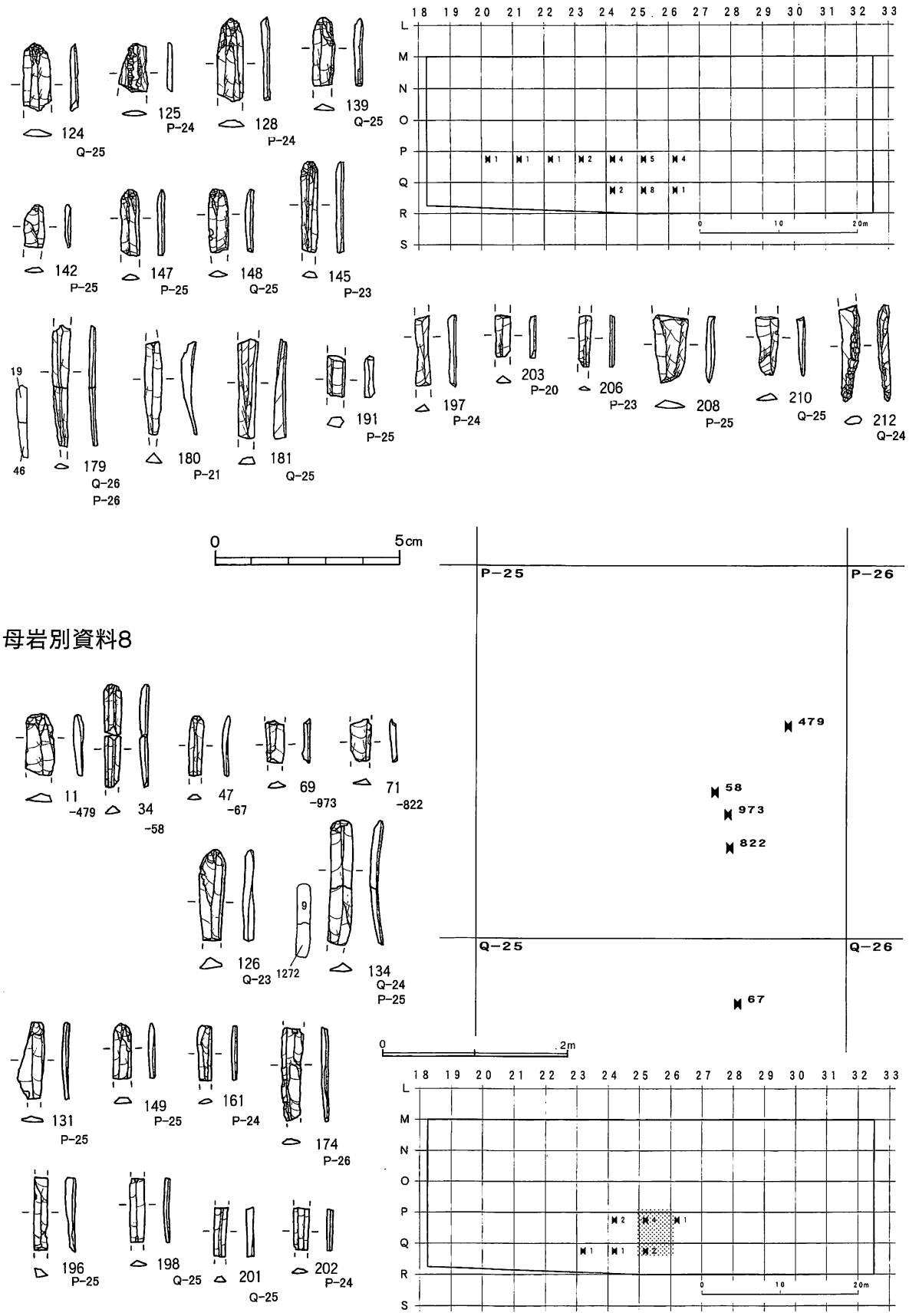
点数・重量　点数5点、細石刃核1個体（107）、剥片4個体（285～288）の5個体、重量15.2ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みが薄く、灰色がかり、平坦な礫面がみられる。母岩別資料5に類似するがやや黒みが強く、母岩別資料20にも類似する。

分布　Ⅱ層の資料はQ－25区にある。剥片288は、P－26区のⅠ層出土の細石刃核107に接合している。Ⅰ層の資料は細石刃核がP－26区、剥片がP－25区に2点、Q－21区に1点ある。

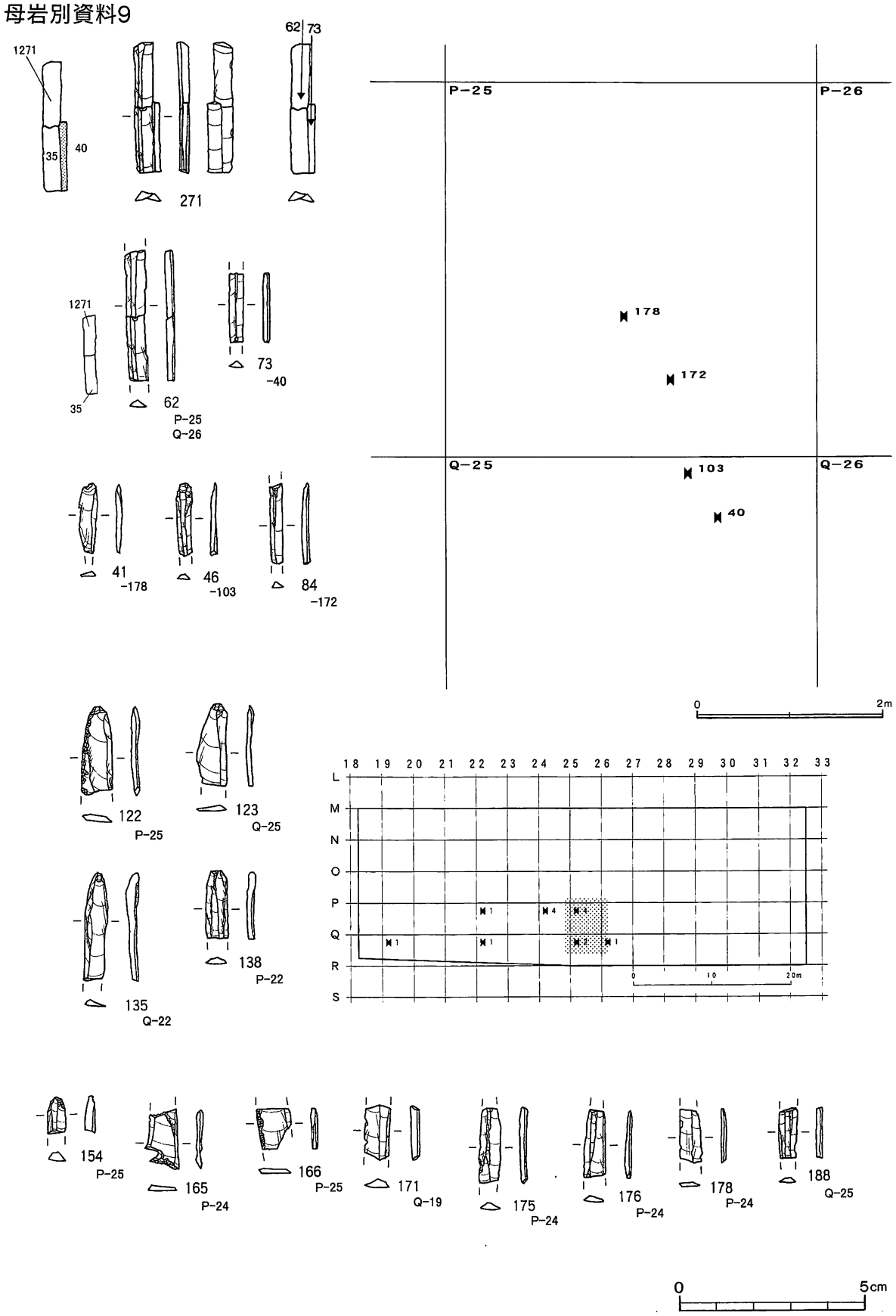
内容　細石刃核の接合資料が1個体（283－接合7）あり、接合資料から細石刃核の廃棄と掻器素材としての再利用が観察できる。

283には、細石刃核1個体（107）、剥片が4個体（285～288）あり、5個体が接合している。石器ブロック1の資料が接合し、連続的な細石刃剥離と細石刃核の廃棄、掻器素材としての再利用がみられる。



図Ⅲ－20　母岩別資料(7)　母岩別資料7・8

母岩別資料9



図Ⅲ－21　母岩別資料(8) 母岩別資料9

作業面の観察から少なくとも3本の細石刃剥離が行なわれ、その後、細石刃剥離をやめ、細石刃剥離作業面の末端から意図的に折り、細石刃核部分を廃棄している。

284は、283を折り取った後に残った素材から剥離された剥片の接合資料である。285～288の剥片は、打点側に厚みがあり、末端側が薄く湾曲が著しい。同様な特徴の剥片は掻器249に接合しているものなど、母岩別資料5の剥片に多くみられる。こういった剥片の特徴から、残りの素材では掻器が製作され、ここでは刃部を作出していると考えられる。285～288の剥離順は（素材）→285→286→287→288である。製作された掻器は確認できなかった。

母岩別資料13（接合34）（図Ⅲ－26、図版10）

点数・重量　点数3点、彫器1個体（108）、削片1個体（290）の2個体、重量15.4ｇ。

特徴　黒曜石5（黒>茶）で、茶色は細かい網状に混じる。

分布　Ⅱ層の削片はQ－25区にある。彫器はP－24区、Q－25区のⅠ層からの出土である。

内容　彫器の接合資料が1個体（289－接合34）あり、接合資料から彫器の刃部削出が観察できる。

289には、2個体が接合し、石器ブロック1の資料が接合している。

母岩別資料16（図Ⅲ－27、図版7）

点数・重量　点数3点、掻器1個体（112）。重量30.2ｇ。

特徴　黒曜石5（黒>茶）で、茶色はやや赤みが強く、網状に混じる。

分布　Ⅱ層のP・Q－25区にみられるが、P－25区出土資料は折れた後の破片のみで本体はQ－25区にある。

内容　掻器が1個体（112）、石器ブロック1から出土している。

母岩別資料18（図Ⅲ－27、図版8）

点数・重量　点数29点、二次加工ある剥片1個体（223）、剥片11個体の12個体、重量248.1ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、表面はいわゆる「梨肌」まではいかないが少しざらつき、粒子は粗い。白色の細かい縞があり、さらに細かな斑晶鉱物が全体にみられる。

分布　Ⅱ層の資料は剥片がQ－25区にある。Ⅰ層の資料は二次加工ある剥片がP－25区、Q－24区出土のものが接合している。その他の剥片はP、Q－25区を中心に西側にみられるが、離れたN－25、Q－22、27区にもある。

内容　二次加工ある剥片（223）が1個体と剥片が11個体である。

223は右側縁下部に二次加工がみられる。

剥片は図示していないが、石器ブロック1内から出土している鱗状の剥片と縦長の剥片がある。鱗状の剥片は尖頭器などの製作剥片と考えられる。

母岩別資料20

点数・重量　点数8点、剥片2個体、重量46.1ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みが薄く、やや灰色がかっている。平坦な礫面がみられ、母岩別資料5に類似するが黒みが強い。

分布　Ⅱ層の資料はP－25区に、Ⅰ層の資料はQ－26区を中心に西側にみられる。

内容　平坦な礫面のある剥片のみで、図示はしていないが、石器ブロック1から出土している。

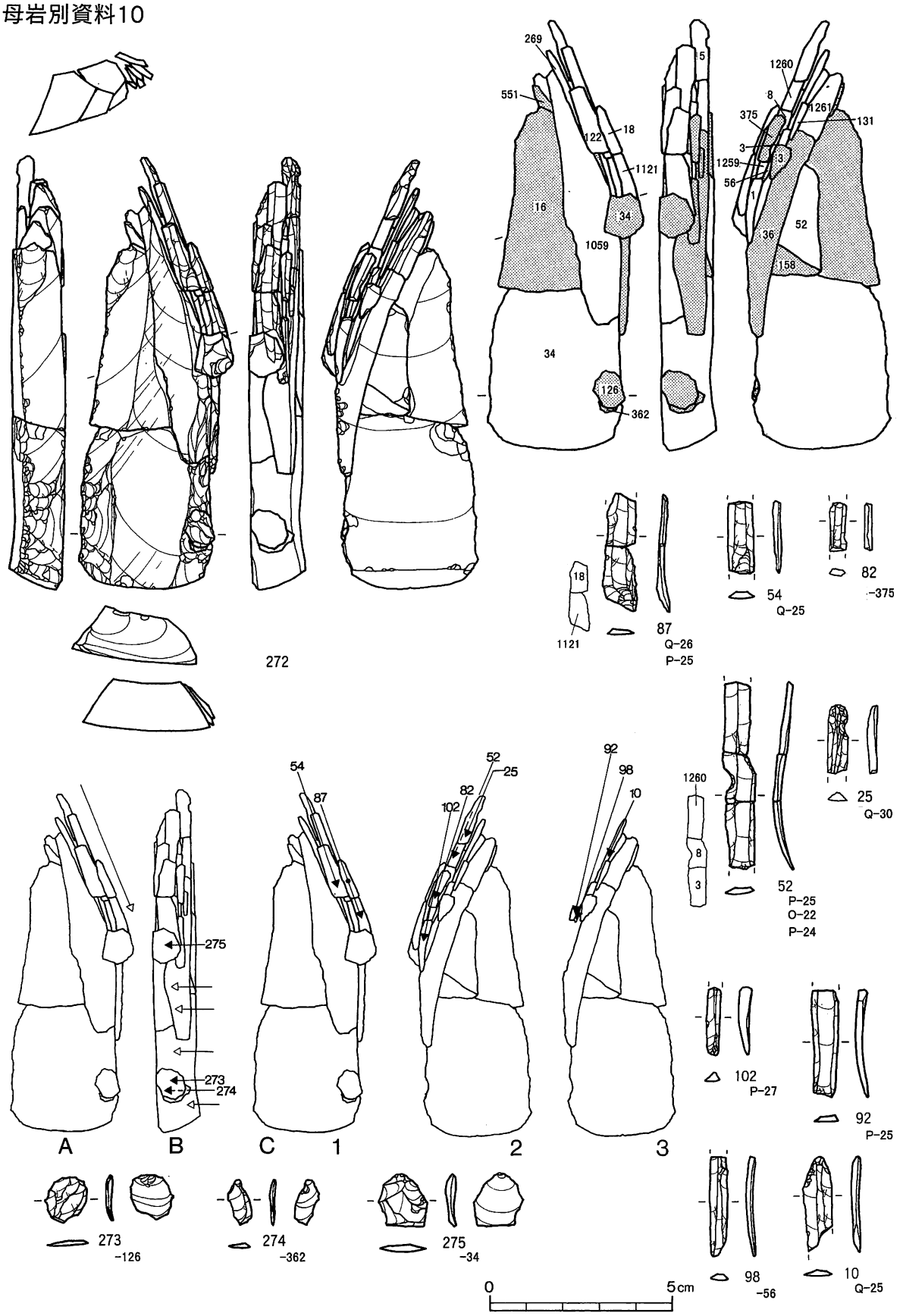
母岩別資料21（図Ⅲ－26、図版8）

点数・重量　点数2点、彫器1個体（218）、削片1個体（109）の2個体、重量18.9ｇ。

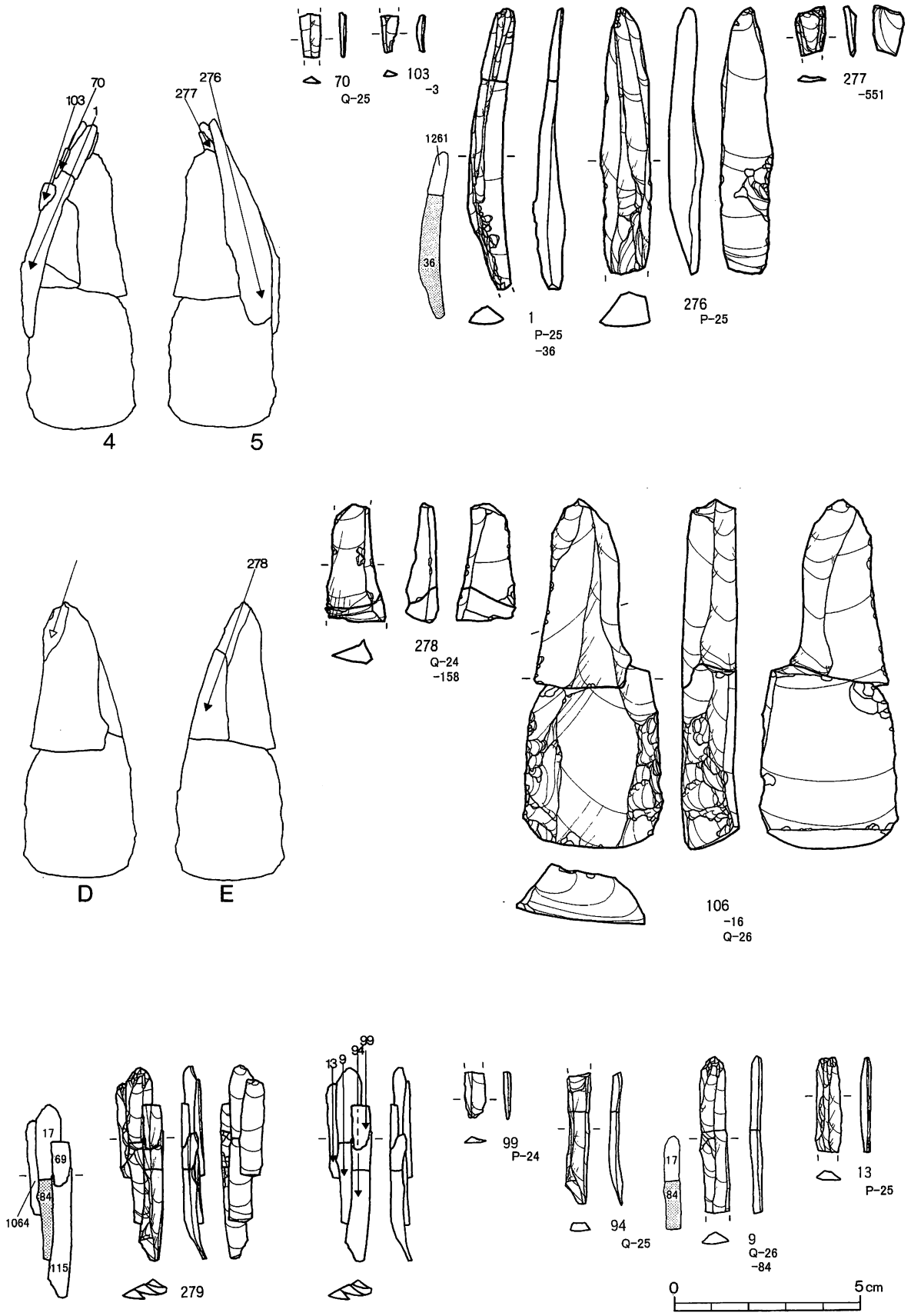
特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みが薄く、やや灰色がかっている。白色と灰色が点状に混じる。

分布　Ⅱ層・Ⅰ層の資料ともにQ－25区にみられる。

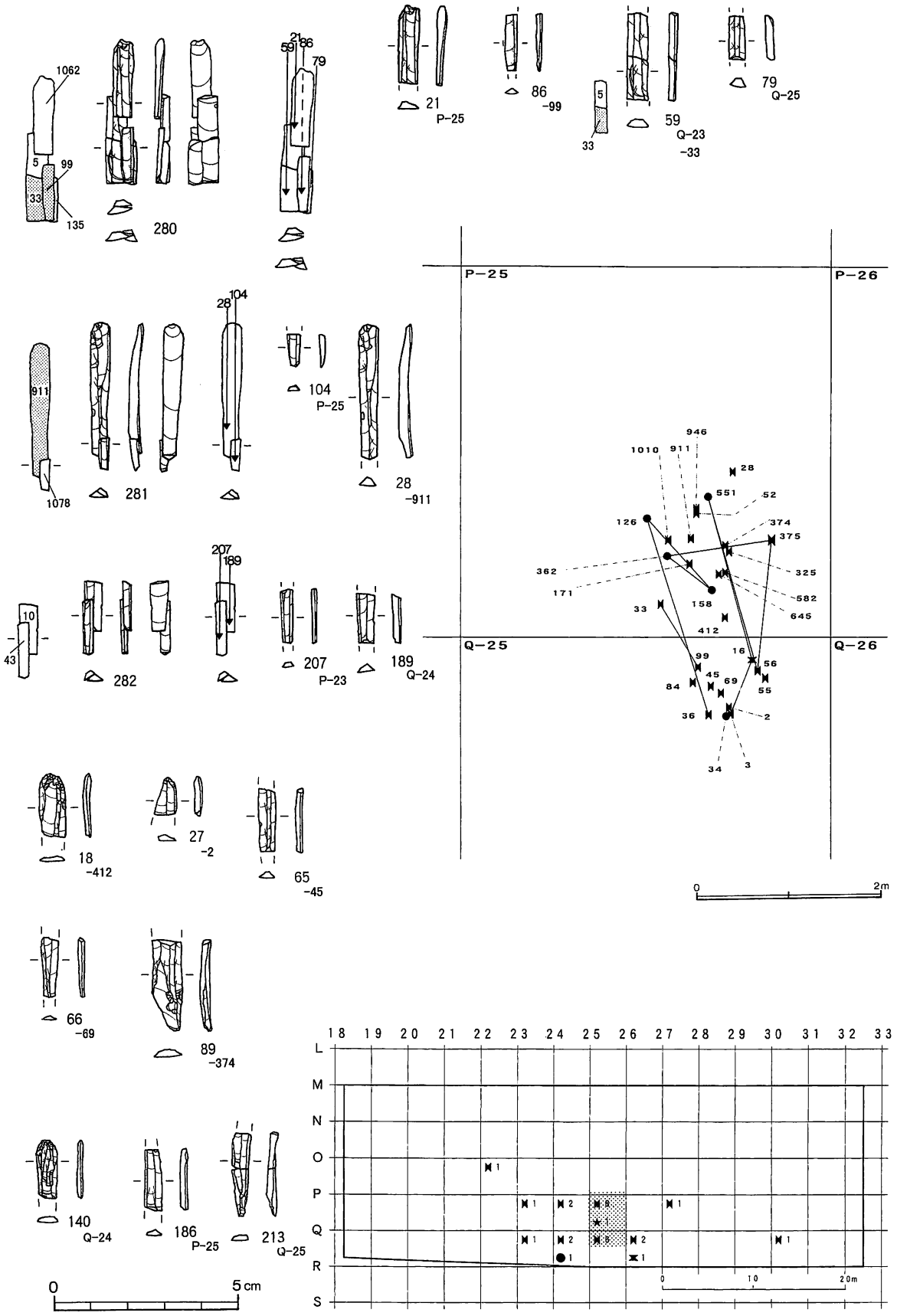
母岩別資料10



図Ⅲ－22　母岩別資料(9)　母岩別資料10

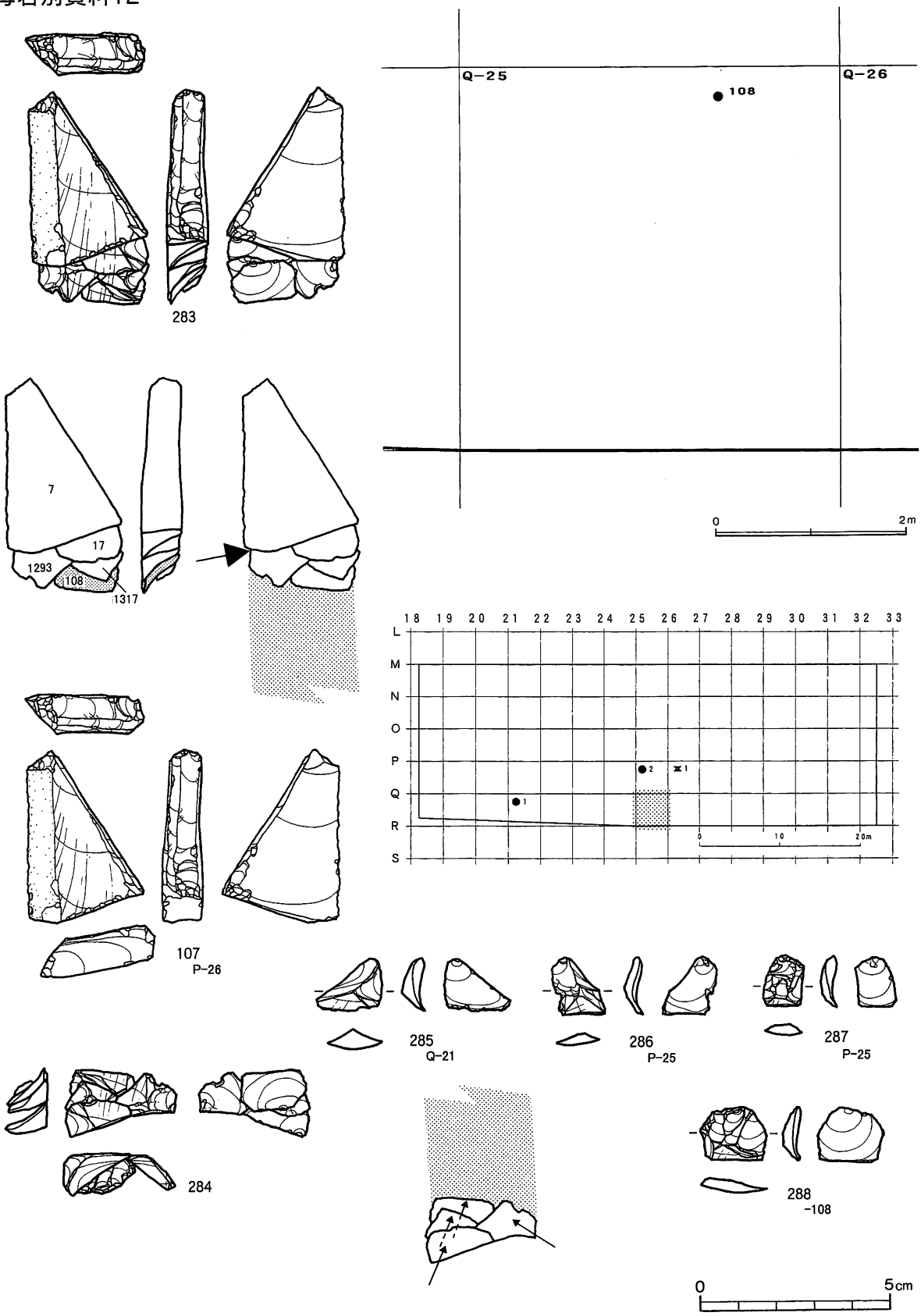


図Ⅲ－23　母岩別資料(10)　母岩別資料10

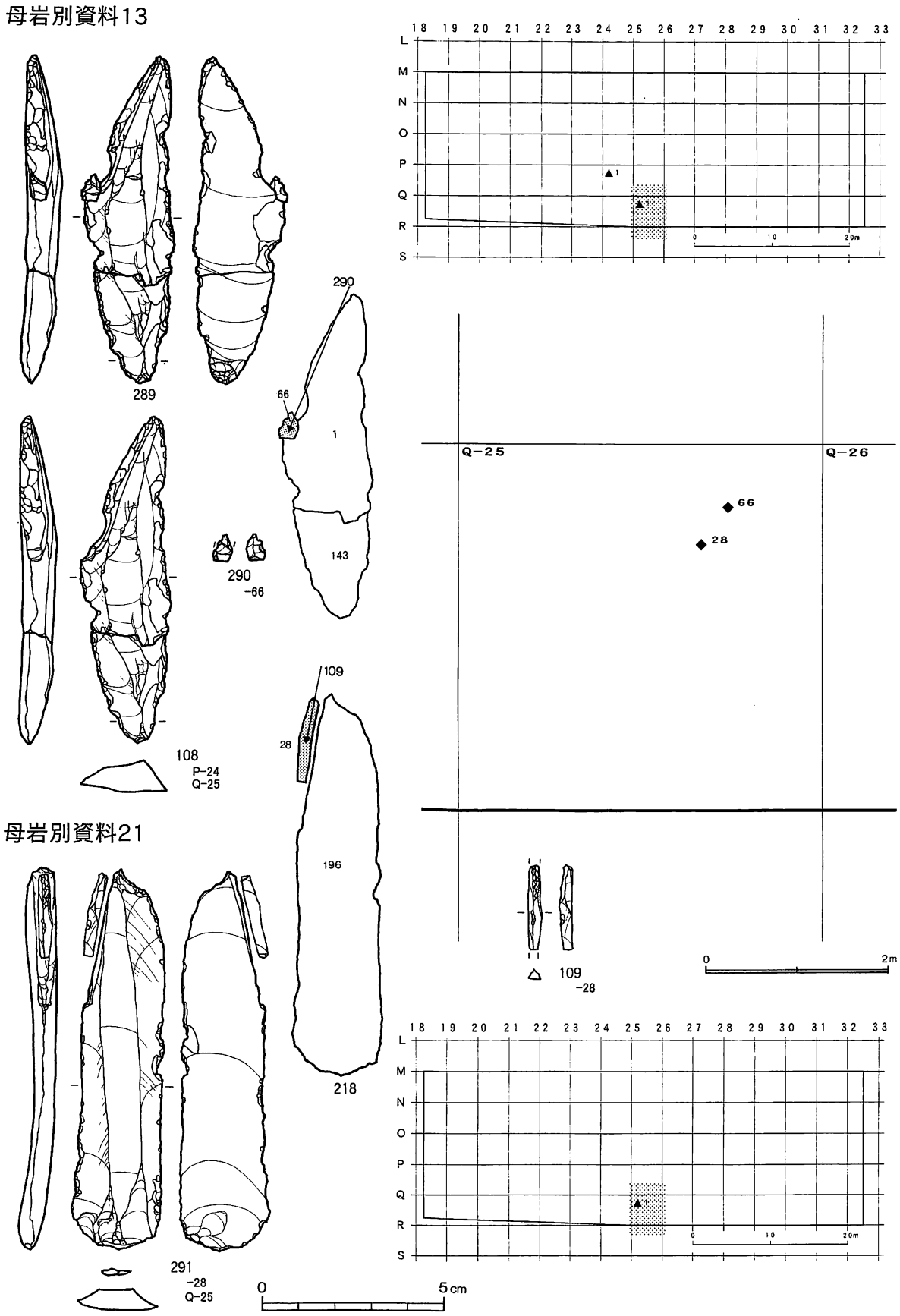


図Ⅲ－24　母岩別資料(11)　母岩別資料10

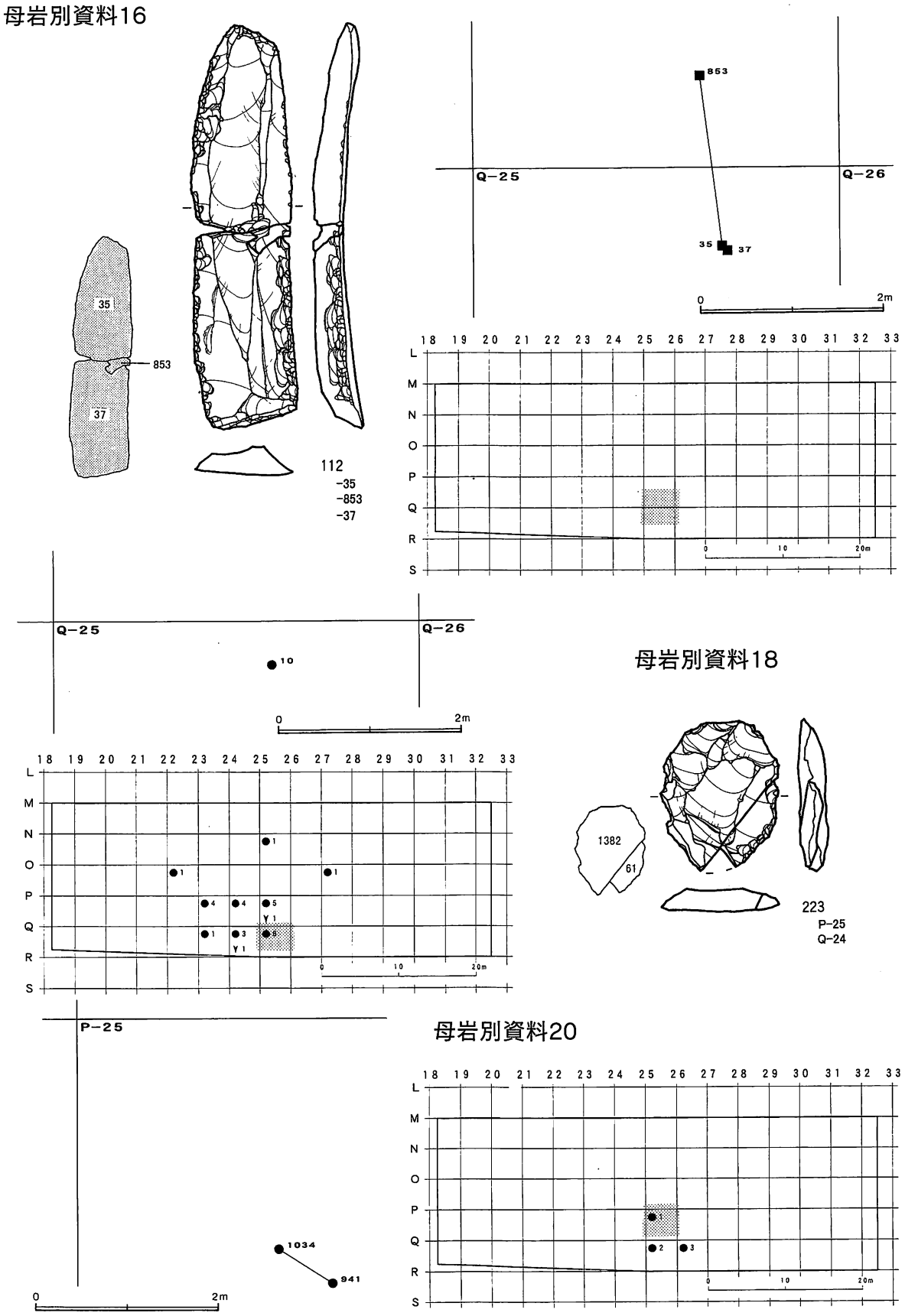
母岩別資料12



図Ⅲ−25　母岩別資料(12) 母岩別資料12

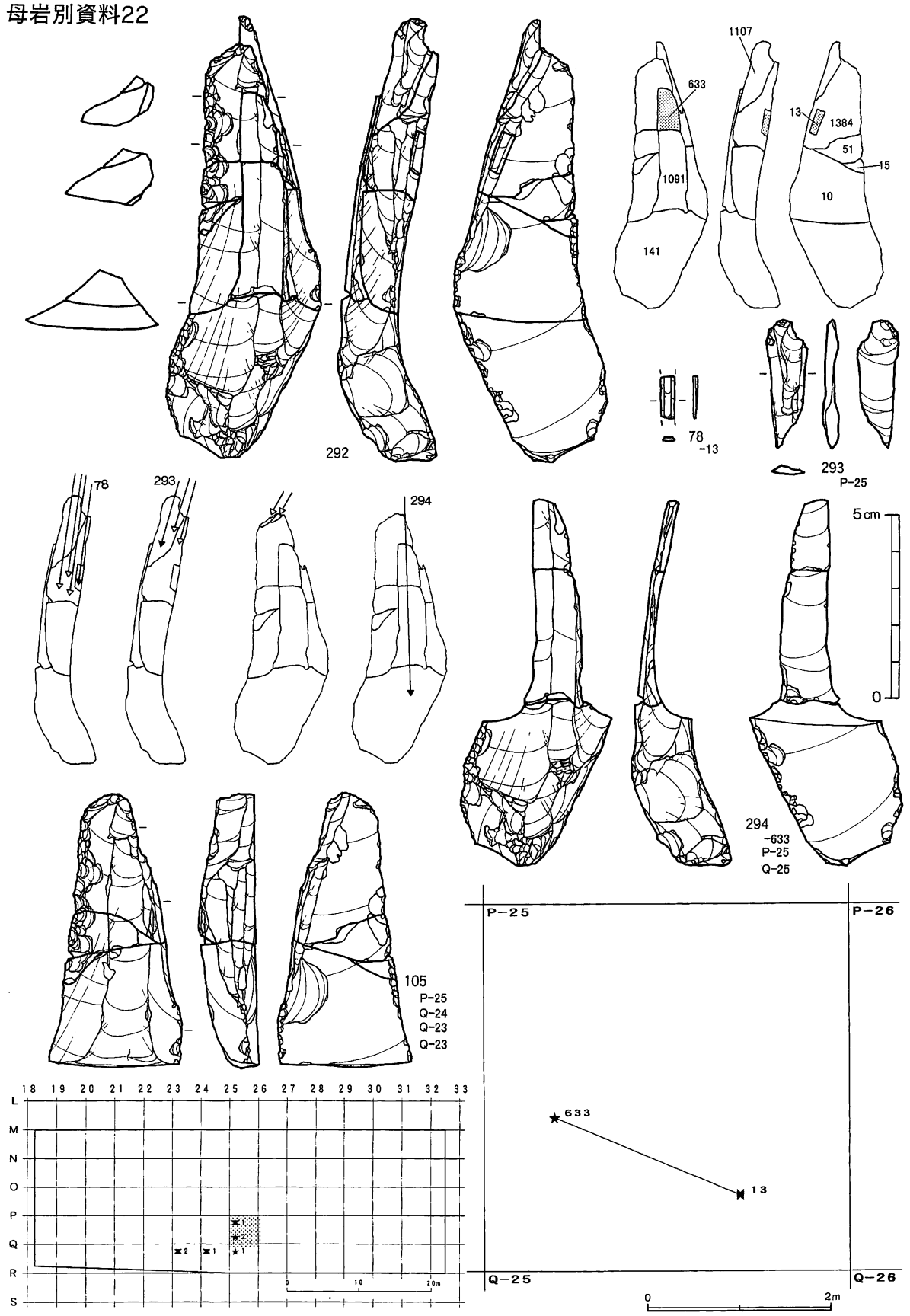


図Ⅲ－26　母岩別資料(13)　母岩別資料13・21

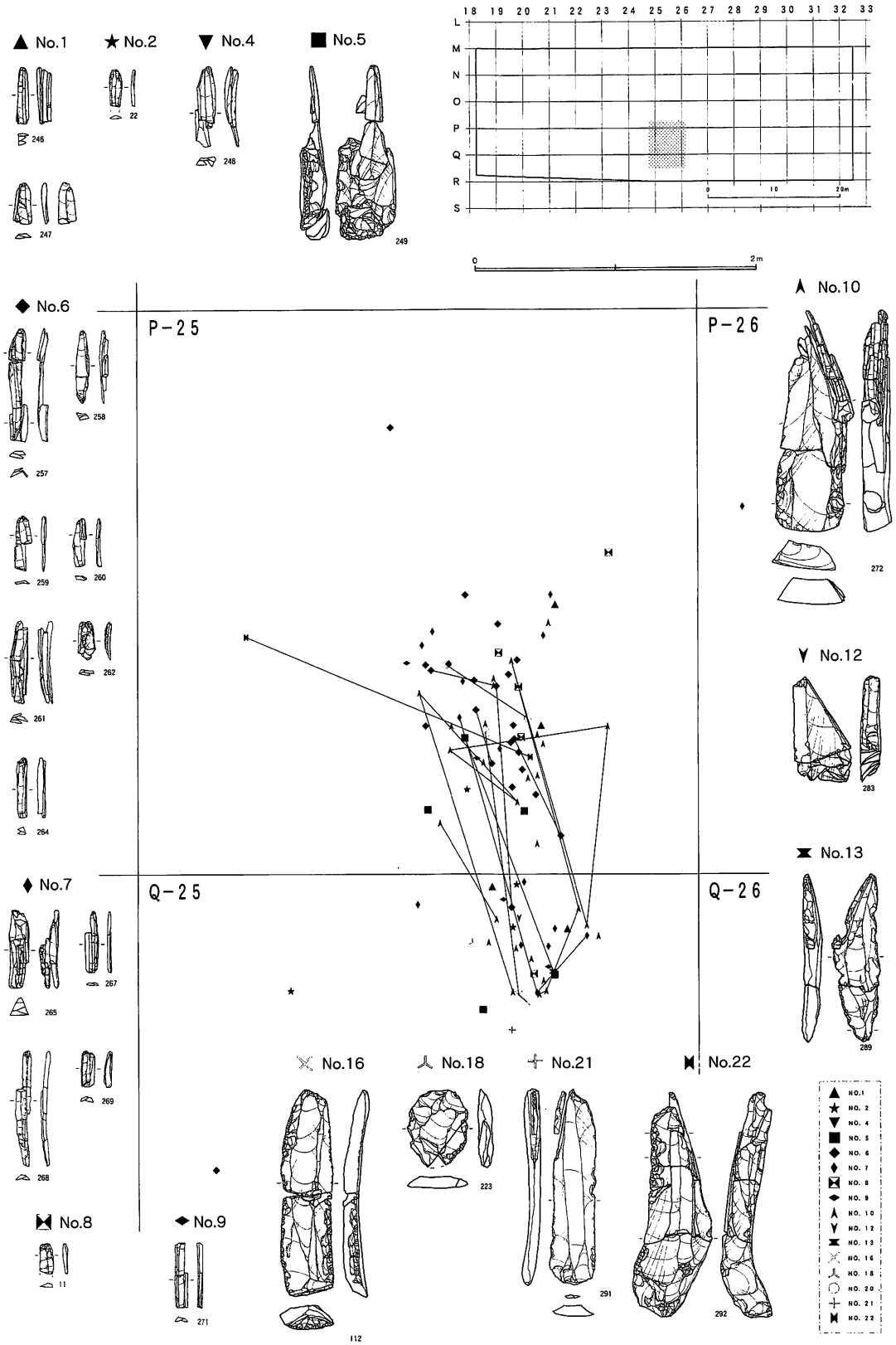


図Ⅲ－27　母岩別資料(14)　母岩別資料16・18・20

母岩別資料22



図Ⅲ－28　母岩別資料(15)　母岩別資料22



図Ⅲ－29　母岩別資料(16)　Ⅱ層出土の母岩別資料

内容　彫器の接合資料が1個体（291）あり、接合資料から彫器の刃部削出が観察できる。　109の断面や背面の剥離面の状況から、291のような状態に復元できる。

291は、2個体が接合し、109は石器ブロック1から出土している。

母岩別資料22（接合22）（図Ⅲ－28、図版10）

点数・重量　点数9点、細石刃核1個体（105）、細石刃1個体（78）、縦長剥片2個体（293、294）の4個体、重量68ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みが薄く、灰色がかっている。透かしてみると太い黒色の縞がみられる。母岩別資料9に類似するがやや黒みが強い。

分布　Ⅱ層の細石刃、縦長剥片は、P－25区にある。Ⅰ層の資料はP－25区を中心に、Q－22～25区にある。細石刃核（105）は4点の破片が3か所の発掘区に分布する。

内容　細石刃核の接合資料が1個体（292－接合22）あり、接合資料から細石刃核からの細石刃剥離が観察できる。

292は、細石刃核が1個体（105）、細石刃が1個体（78）、縦長剥片が2個体（293、294）の4個体が接合している。石器ブロック1内の資料が接合している。105には4本の細石刃剥離痕がみられ、そのうち1本に細石刃78が接合している。その後、293など、同一打面から3回の細石刃剥離が試みられているが、階段状になっている。作業面からの打面再生が行なわれた後、294の縦方向からの剥離が腹面側にぬけ、石核自体が大きく破損し、廃棄されたようである。

細石刃全体でみると残存部位は、中間部が1個体あり、縦長剥片が2個体ある。

母岩別資料3（図Ⅲ－30、図版9）

点数・重量　点数5点、細石刃5個体、重量1.6ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、全体に黒みがやや薄く、灰色がかり、白色と灰色の細かい縞がみられる。

分布　Ⅰ層の資料のみで、P－25区を中心に分布するが、離れたN・Q－19区にもみられる。

内容　接合資料はなく、非接合の細石刃が5個体ある。

細石刃の残存部位は、打点側2個体、中間部3個体である。

母岩別資料11（図Ⅲ－30、図版8）

点数・重量　点数1点、石刃1個体（229）。重量2.2ｇ。

特徴　黒曜石4（茶>黒）で、黒色と茶色が半々ぐらいに混じる。全体に黒みが薄く、灰色がかり、平坦な礫面がみられる。

分布　P－22区のⅠ層。

内容　石刃が1個体（229）である。

母岩別資料14（図Ⅲ－30、図版8）

点数・重量　点数1点、細石刃核1個体（215）。重量87.2ｇ。

特徴　黒曜石1（黒）で、はっきりとした白色が網状に混じり、母岩別資料19に類似する。

分布　Q－22区のⅠ層。

内容　細石刃核が1個体（215）である。

母岩別資料15（図Ⅲ－30、図版8）

点数・重量　点数1点、細石刃核1個体（214）。重量33ｇ。

特徴　黒曜石3（黒>茶）で、茶色の混じりは点状で少ない。

分布　P－33区のⅠ層。

内容　細石刃核が1個体（214）である。

母岩別資料17（図Ⅲ－30、図版8）
点数・重量　点数1点、尖頭器1個体（217）。重量61.5ｇ。
特徴　黒曜石3（黒>茶）で、茶色は紫色というほどではないが、赤色がかり、白色と一緒に網状に混じる。
分布　Ｍ－19区のⅠ層。
内容　尖頭器が1個体（217）である。
母岩別資料19
点数・重量　点数14点、剥片8個体、重量44.9ｇ。
特徴　黒曜石1（黒）で、はっきりとした白色が網状に混じる。母岩別資料14に類似するが、黒みが強い。
分布　Ｐ－22区のⅠ層を中心に広い範囲でみられる。
内容　剥片のみで、図化は行なっていない。

各母岩別資料をみてきたが、全体を通して得られたことをまとめてみる。

母岩別資料5、12、20、母岩別資料9、22、母岩別資料14、19は、その類似性からそれぞれ同一の母岩から得られた資料の可能性がある。

よって、遺跡に持ち込まれた黒曜石の母岩は5～22種類と考えられる。その他の石材では頁岩1～2種類、めのう1～2種類、安山岩1種類がある。

被熱している資料を母岩別資料ごとにみると、母岩別資料全体－28%（323点中91点）、母岩別資料1－31%（16点中5点）、母岩別資料2－44%（16点中7点）、母岩別資料4－29%（7点中2点）、母岩別資料5－3%（35点中1）、母岩別資料6－59%（64点中38点）、母岩別資料7－27%（45点中12点）、母岩別資料8－13%（16点中2点）、母岩別資料9－6%（18点中1点）、母岩別資料10－31%（61点中19点）、母岩別資料12－20%（5点中1点）、母岩別資料13－33%（3点中1点）、母岩別資料18－3%（29点中1点）、母岩別資料20－13%（8点中1点）である。母岩別資料3、11、14～17、19、21～22には被熱している資料はない。

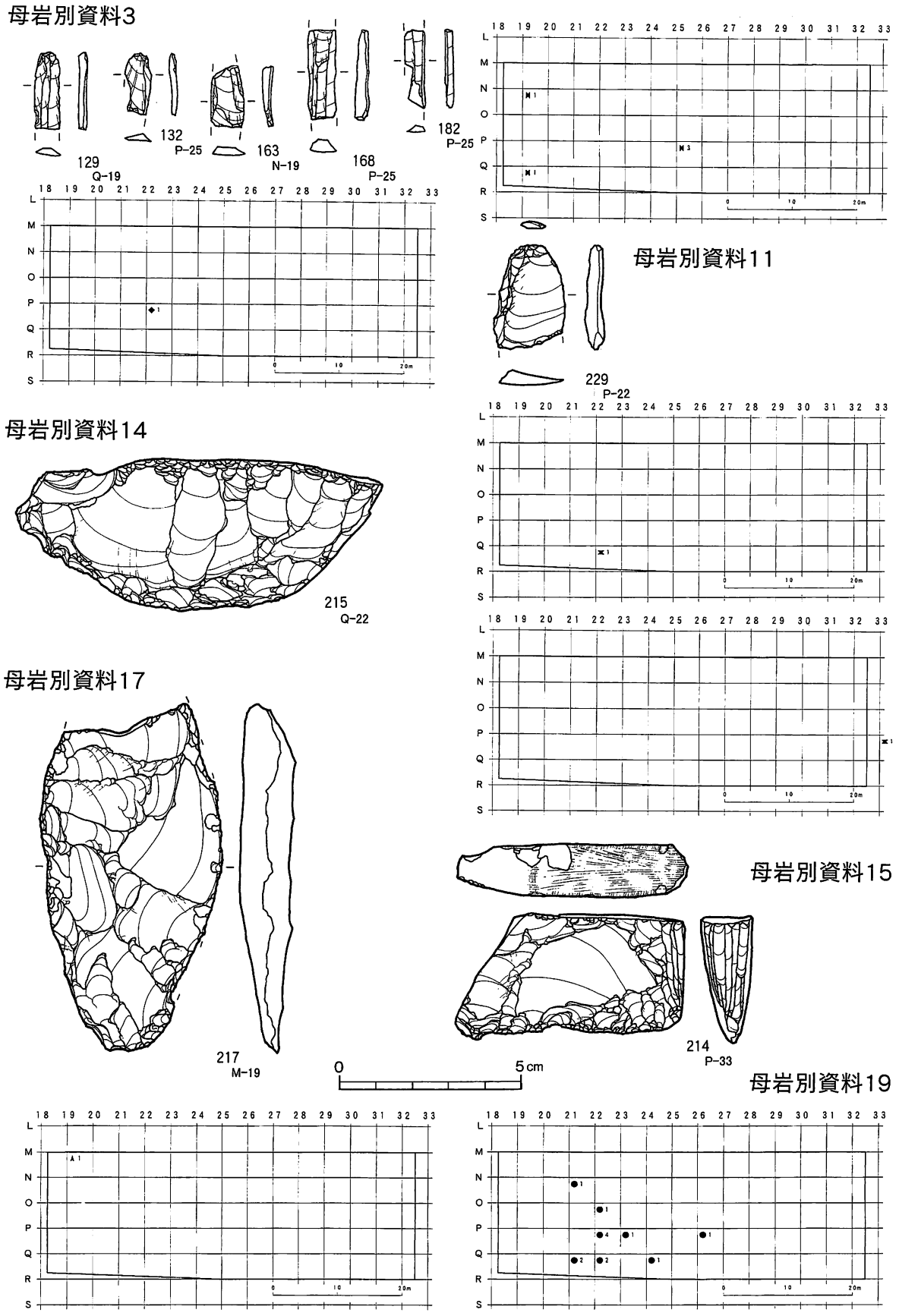
特徴としては細石刃のみで構成される母岩別資料6の被熱している割合が、59%で特に高い。

母岩分類を行なった結果、母岩別資料1～2、4～10、12～13、16、18、20～22の16母岩別資料は、それぞれの資料中に石器ブロック1出土のものを含んでいる（図Ⅲ－29）。石器ブロック1の資料を母岩分類を行なった観点から考えてみたい。

石器ブロック1出土または石器ブロック1出土のものと接合している資料は、細石刃、細石刃核、掻器、二次加工ある剥片、石刃、削片、剥片の器種がある（表Ⅲ－1）。上記の16母岩別資料を考慮すると石器ブロック1に追加される器種は、母岩別資料13の108（石器ブロック1の削片290と接合）、母岩別資料21の218（石器ブロック1の削片109と同一母岩、石刃291に復元）の彫器2個体、母岩別資料18の尖頭器製作剥片から想定される尖頭器類である。母岩別資料20には平坦な礫面を持つ剥片があるものの、少量であり、原石または原石に近い形での石器素材の利用が行なわれた可能性は少ない。

また石器ブロック1資料の石質は、黒曜石1、4、5、頁岩で構成されることとなる。

以上から、母岩別資料を考慮した場合の石器ブロック1資料にみられる器種は、細石刃、細石刃核、彫器、尖頭器・細石刃核の母型を含む両面調整石器、掻器、二次加工ある剥片、石刃、削片、剥片であり、礫石器類は確認されなかった。また石材に関しては、黒曜石3～14種類、頁岩1～2種類が石器ブロック1に関連して持ち込まれたと考えられる。



図Ⅲ－30　母岩別資料(17)　母岩別資料3・11・14・15・17・19

Ⅳ　自然科学的分析等

1　放射性炭素年代測定結果

（株）地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C　age(yBP)　：14C年代測定値
試料の14C/12C比から、単純に現在（1950年AD）から何年前（BP）かを計算した年代。
半減期として5568年を用いた。

補正14C　age(yBP)：補正14C年代値
試料の炭素安定同位体比（13C/12C）を測定して試料の炭素の同位体分別を知り14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。

δ13C(permil)　：試料の測定14C/12C比を補正するための13C/12C比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表現する。

$$\delta 13C\ (‰) = \frac{(13C/12C)\ [試料] - (13C/12C)\ [標準]}{(13C/12C)\ [標準]} \times 1000$$

ここで、13C/12C［標準］=0.0112372である。

暦　年　代　：過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの測定、サンゴのU－Th年代と14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース（"INTCAL98　Radiocarbon Age　Calibration" Stuiver　et　al, 1998, Radiocarbon　40 (3)）により約19000年までの換算が可能となった。*

* 但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

測定方法などに関するデータ

測定方法　AMS：加速器質量分析
Radiometric：液体シンチレーションカウンタによるβ－線計数法

処理・調製・その他：試料の前処理、調製などの情報

前処理　acid－alkali－acid：酸－アルカリ－酸洗浄
acid　washes：酸洗浄
acid　etch：酸によるエッチング
none：未処理

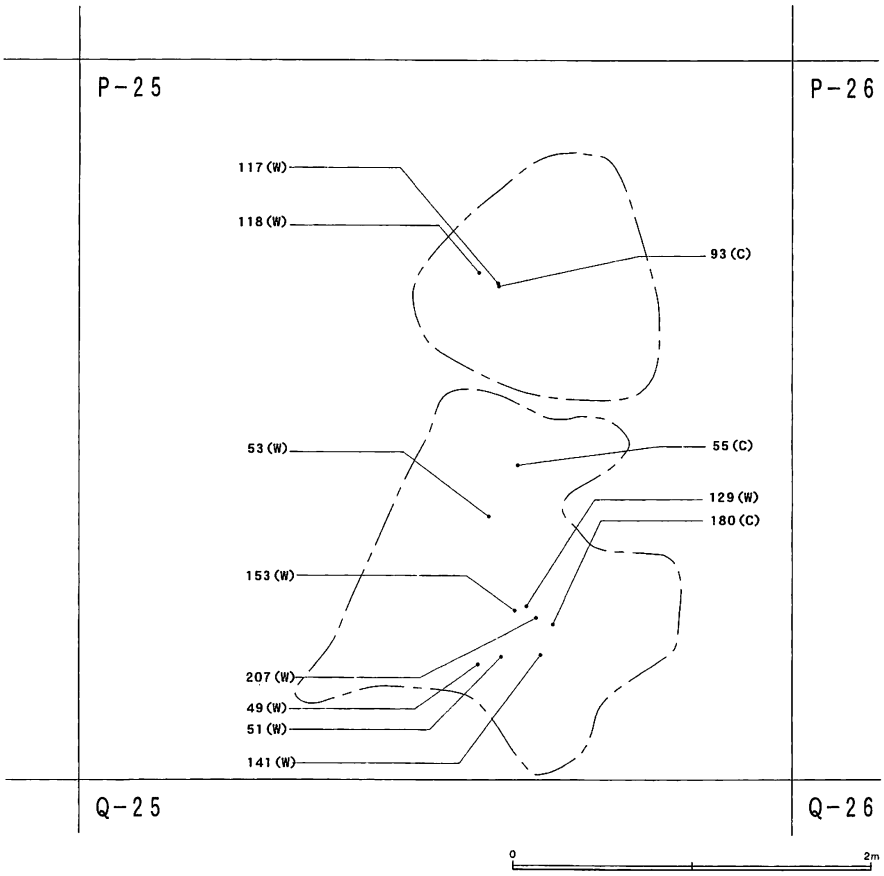
調製、その他

Bulk－Low　Carbon　Material：低濃度有機物処理
Bone　Collagen　Extraction：骨、歯などのコラーゲン抽出
Cellulose　Extraction：木材のセルローズ抽出
Extended　Counting：Radiometricによる測定の際、測定時間を延長する

分析機関　：BETA　ANALYTIC　INC.
4985　SW　74　Court,　Miami,　Fl.　33155,　USA

測定番号	試料名	試料種	14C age (yBP)	δ13C (permil)	補正14C age (yBP)	暦年代	
Beta－136453	NIT－1	charred material	16940±80	－25. 1	16940±80	交点	calBC18225
						2SIGMA 95%probability	calBC18405 to18040
採取地点	P－25－55						
層位	Ⅱ層					1SIGMA 68%probability	calBC18315 to18130
整理番号 12589	測定方法	AMS	処理・調製・その他	acid－alkali－acid			
Beta－136454	NIT－2	charred material	980±40	－25. 0	980±40	交点	calAD1025
						2SIGMA 95%probability	calAD995 to1160
採取地点	P－25－93						
層位	Ⅱ層					1SIGMA 68%probability	calAD1010 to1040
整理番号 12590	測定方法	AMS	処理・調製・その他	acid－alkali－acid			
Beta－136455	NIT－3	charred material	16570±120	－25. 4	16560±120	交点	calBC17785
						2SIGMA 95%probability	calBC18065 to17510
採取地点	P－25－180						
層位	Ⅱ層					1SIGMA 68%probability	calBC17925 to17650
整理番号 12591	測定方法	AMS	処理・調製・その他	acid－alkali－acid			

年代値はRCYBP（1950A. D. を0年とする）で表記。モダン リファレンス スタンダードは、国際的な慣例として、NBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ（68%確率）である。



図Ⅳ－1　放射性炭素年代測定(C)・樹種同定(W)試料出土位置図

2　上川町日東遺跡出土の炭化木材

三　野　紀　雄
（北海道開拓記念館）

上川町日東遺跡の細石刃の集合ブロックと分布域が重なる炉跡と思われる炭化物の集積から得た検鏡可能な炭化木材について、当時の植生の一端を知るために樹種同定を行った。

試料と方法

試料は、細石刃文化期の上川町日東遺跡の炉跡と思われる遺構から採取された燃料の残滓と思われる炭化木材での小片9点である。

試料は、金蒸着の後、走査電子顕微鏡（JEOL－JSM－5200型）で木材組織を観察し、樹種の同定を行った。その際、現生樹木の組織標本及び記載文献を参照した。

結果と若干の考察

(1) 同定結果

炭化木材の樹種は表Ⅳ－1に示したとおり、コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* sp.）、トウヒ属（*Picea* sp.）、モミ属（*Abies* sp.）？、カバノキ属（*Betula* sp.）、と樹種不明の広葉樹散孔材である。そのうち^{14}C年代980±40y.B.P.が得られた地点からはコナラ節材が、また^{14}C年代16,940±80y.B.P.、16,570±120y.B.P.が得られた地点からはトウヒ属材とモミ属材？に加えてカバノキ属材が検出されている。

トウヒ属（エゾマツ類）（*Picea* sp.）（採集地点：P－25－49・129・153・207）

組織の特徴：針葉樹、春材から夏材への移行は緩やかあるいは急激、垂直脂溝が見られる

モミ属（トドマツ類）（*Abies* sp.）？（採取地点P－25－53）

組織の特徴：針葉樹、1年輪の細胞幅が数細胞と大変狭い、春材から夏材への移行は急激、垂直脂溝が見られない、カラマツ属（*Larix* sp.）の可能性もある

コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* sp.）（採集地点：P－25－117・118）

組織の特徴：広葉樹環孔材、孔圏の導管は大型で1～2列、孔圏外の小導管は火炎状に配列する、集合射出線を有する

カバノキ属（*Betula* sp）（採集地点：P－25－141）

組織の特徴：広葉樹散孔材、導管はやや放射状に配列する、射出線一列あるいは多列、階段状穿孔を有する

(2) 若干の考察

本遺跡の存立時期は、今のところ、後氷期の終末期頃と考えられている。それまでの寒冷な気候から温暖な気候へと変化し、低平地に成立していたカラマツ属（グイマツ）、マツ属（ハイマツなど）、トウヒ属（エゾマツ、アカエゾマツ）、モミ属（トドマツ）などの針葉樹林は、しだいにカバノキ属（シラカンバ、ダケカンバ）などの広葉樹林に移り変わって行く時期でもある。

当時の人々は、用具類の材料や燃料に用いる木材を、それら針葉樹林から、また徐々に拡大してきた広葉樹林から得ていたものと思われる。したがって、トウヒ属やモミ属の針葉樹、あるいはカバノ

キ属の樹木を遺跡周辺から容易に手に入れることができたものと思われる。また、コナラ属コナラ亜属コナラ節の樹木が検出された遺構は時代が下った擦文時代のものと思われる。

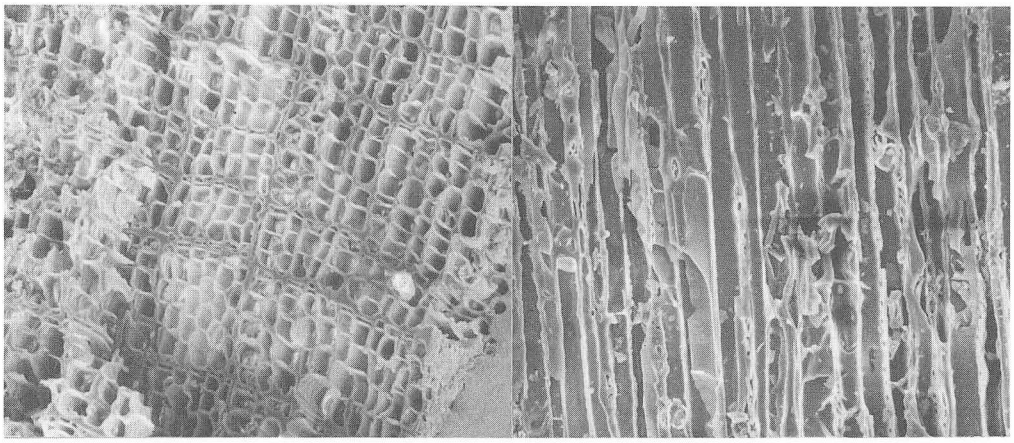
文　献

林　弥一　1957　本邦における針葉樹材のカード式識別法　　林業試験場研究報告第98号

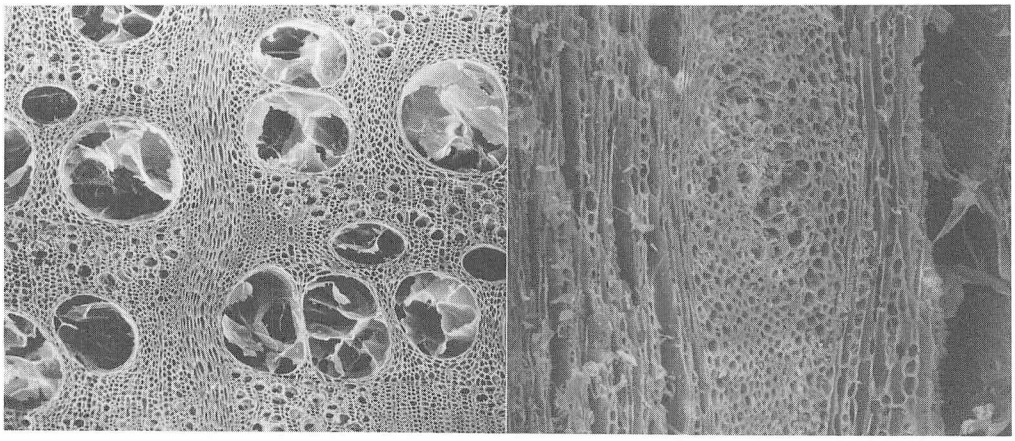
須藤彰司　1959　本邦産広葉樹材の識別　林業試験場研究報告　第118号

表Ⅳ－1　炭化木材の樹種

NO.	出土グリット	樹　　種	NO.	出土グリット	樹　　種
117	P-25	コナラ節　*Quercus* sp.	129	〃	トウヒ属　*Picea* sp.
118	〃	コナラ節　*Quercus* sp.	141	〃	カバノキ属　*Betula* sp.
49	〃	トウヒ属　*Picea* sp.	153	〃	トウヒ属　*Picea* sp.
51	〃	広葉樹散孔材	207	〃	トウヒ属　*Picea* sp.
53	〃	モミ属　*Abies* sp.?			



モミ属試料P－25－53　　木口面×100　　板目面×150



コナラ属試料P－25－118　　木口面×75　　板目面×150

図Ⅳ－2　炭化木材の組織顕微鏡写真

3　上川町日東遺跡における再堆積軽石の起源

中　村　有　吾
（北海道大学大学院地球環境科学研究科）

(1) はじめに

1999年6月～7月に、北海道埋蔵文化財センターによっておこなわれた上川町日東遺跡の発掘調査において、旧石器遺物包含層の直下から河川堆積した軽石が発見された。日東遺跡の立地する河成段丘面上では風成の示標テフラはみられない。再堆積軽石は、河成段丘面の形成時期や遺跡の年代を決定するにあたって貴重な年代試料となる。そこで本稿では、この再堆積軽石の起源を岩石学的特徴にもとづいて推定し、日東遺跡の立地する河成段丘面の形成時期を考察する。

当地域では、土居ほか（1962）、国府谷ほか（1966）、藤原ほか（1970）による地質図幅が公表されているが、河成段丘面についての詳細な情報はない。中谷（1978）は、石狩川上流の河成段丘分布を明らかにしたが、地形面の形成時期についての詳細なデータはない。

(2) 試料採取の地点と層準

日東遺跡は、上川市街の南東約2km、大雪山御鉢平カルデラの北北東約18kmに位置する。日東遺跡が立地するのは、石狩川と留辺志部川に挟まれた河成段丘面上である。この河成段丘面は、石狩川右岸の現氾濫原面との間に比高約15mの段丘崖をなす。

再堆積軽石を採取した地点は、図Ⅳ－3に示した3地点（地点1、地点2、地点3）である。これら各地点の層序を図Ⅳ－4に示す。各地点の概要を以下に記す。

地点1は、遺跡発掘トレンチのほぼ中央部に位置する（発掘区P－24）。ここでは、旧石器遺物包含層の直下に、粒径10～30cmで、よく円磨された軽石礫（試料1）が観察される。

地点2は、留辺志部川に面する段丘崖に位置する。ここでは、耕作土層の下位に、風成二次堆積した軽石、スコリア、火山岩片などを1～5%含む褐色土壌層がある。地点2では、この褐色土壌層中の軽石を採取した（試料2）。

地点3は、遺跡発掘トレンチの北東方向約40mにある深掘トレンチである。ここでは、耕作土層、粘土～シルト質褐色土壌層（旧石器遺物包含層）、褐色土壌層の下位に、粒径10mm程度の砂礫層（段丘構成層）がある。この砂礫層には、粒径10～30mm、最大で20cmの円磨された軽石が含まれる。地点3では、砂礫層上部から軽石を採取した（試料3）。

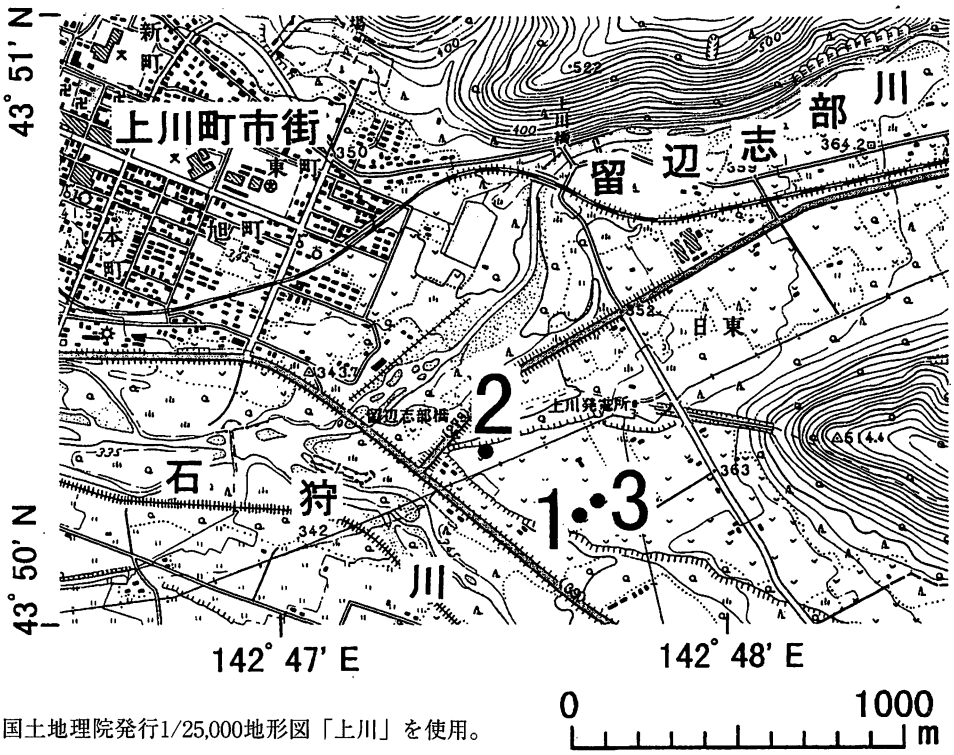
(3) 再堆積軽石の岩石学的特徴

採取試料は、実験室内において洗浄・篩別・検鏡をおこなった。鉱物組成については、細砂サイズ（1/4～1/8mm）の試料を双眼実体顕微鏡で観察し、主要鉱物を200粒子カウントした。火山ガラス・斜方輝石・普通角閃石（1/8～1/16mm　サイズ試料）の屈折率については、温度変化型屈折率測定装置（RIMS86、京都フィッショントラック製）を用い、檀原（1993）の方法にしたがって一試料につき30粒子を測定した。火山ガラスの形態については、町田・新井（1992）の形態分類にしたがう。

試料の特徴を以下に述べる。

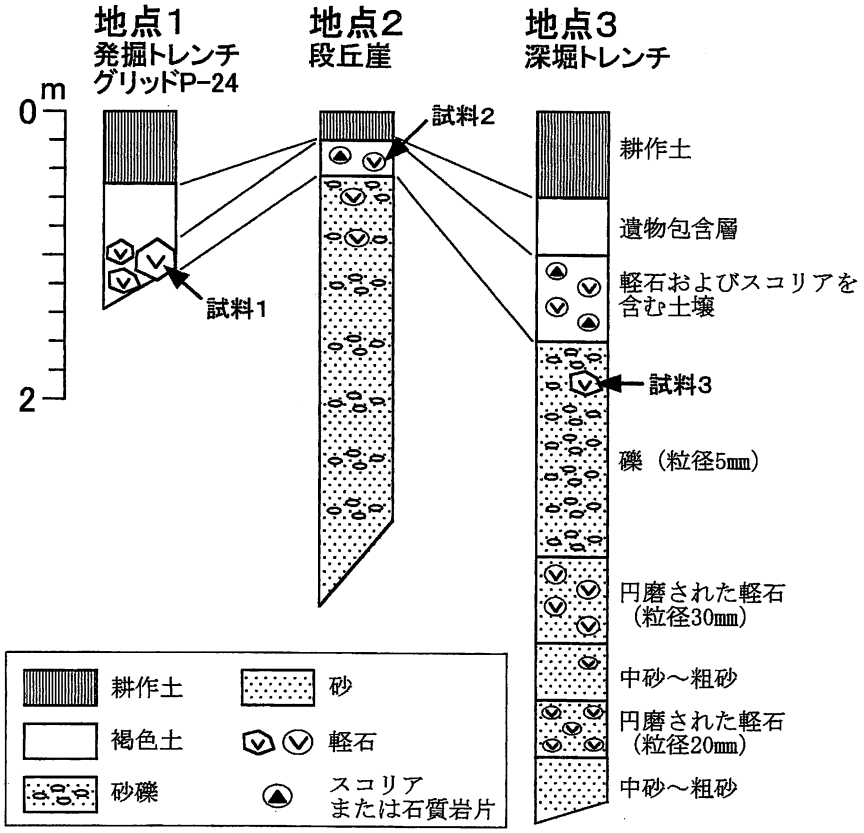
試料1

試料1は、河川によって運搬・堆積された粒径30cmの軽石で、黄褐色（10YR5/6）を呈する。この軽石には、スポンジ状火山ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石が含まれ、ごく少量の普通角閃石を



国土地理院発行1/25,000地形図「上川」を使用。

図Ⅳ－3　試料採取地点



図Ⅳ－4　試料採取地点の層序

伴う。火山ガラスの屈折率はn＝1.497－1.500、斜方輝石の屈折率はγ＝1.703－1.709、普通角閃石の屈折率はn_2＝1.674－1.678である。

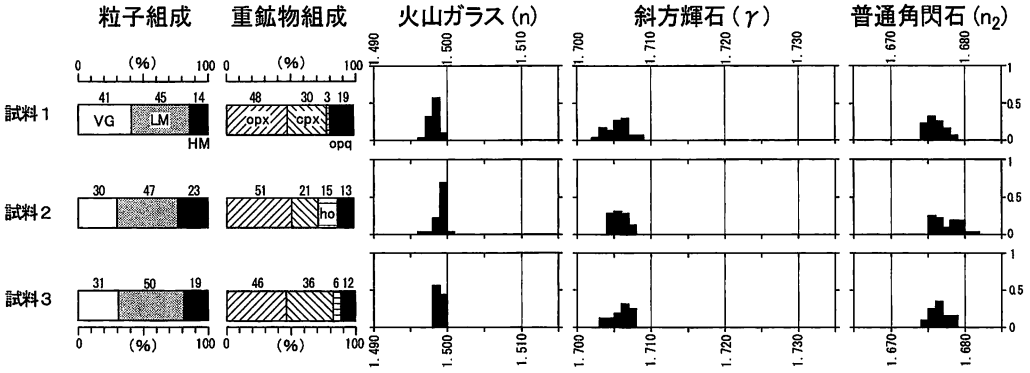
試料2

試料2は、風成二次堆積した、粒径10mmの軽石で、にぶい黄色（2.5Y6/4）を呈する。

この軽石には、よく発泡したスポンジ状～繊維状火山ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石が含まれ、普通角閃石を伴う。褐色の火山ガラスが含まれる。火山ガラスの屈折率はn＝1.497－1.501、斜方輝石の屈折率はγ＝1.704－1.707、普通角閃石の屈折率はn_2＝1.675－1.681である。

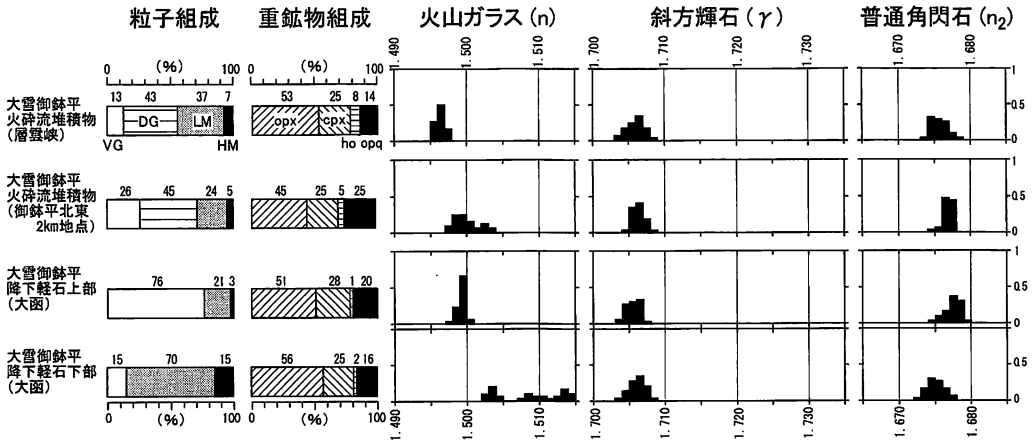
試料3

試料3は、河成堆積物（砂礫層）に含まれる、粒径20cmの軽石で、黄褐色（10YR5/8）を呈する。この軽石には、よく発泡したスポンジ状火山ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石が含まれ、ごく少量の普通角閃石を伴う。火山ガラスの屈折率はn＝1.499前後、斜方輝石の屈折率はγ＝1.703－1.708、普通角閃石の屈折率はn_2＝1.675－1.679である。



VG：火山ガラス，DG：脱ガラス化ガラス，LM：軽鉱物，HM：重鉱物
opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：普通角閃石，opq：不透明（鉄）鉱物
n：屈折率，γおよびn_2：最大屈折率

図Ⅳ－5　試料１、２、３の岩石学的特徴



VG：火山ガラス，DG：脱ガラス化ガラス，LM：軽鉱物，HM：重鉱物
opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：普通角閃石，opq：不透明（鉄）鉱物
n：屈折率，γおよびn_2：最大屈折率

層雲峡：43° 45′ 4″ N，142° 56′ 18″ E
御鉢平北2km地点：43° 41′ 26″ N，142° 54′ 53″ E，
大函：43° 41′ 50″ N，143° 1′ 9″ E

図Ⅳ－6　大雪御鉢平火砕流・降下軽石（模式試料）の岩石学的特徴

(4) 考　　察

再堆積軽石の起源

試料1～3の軽石は、火山ガラス、斜方輝石、普通角閃石の屈折率が近い値であることや、鉱物組成がほぼ等しいことなどから、同一の火山砕屑物に由来すると判断される。日東遺跡は石狩川によって形成された河成段丘面上に位置する。石狩川の上流部には約3万年前に噴出した大雪御鉢平火砕流堆積物および降下軽石（勝井ほか、1979：以下Ds－Ohとよぶ）が多量に分布することを考慮すると、日東遺跡で見られる再堆積軽石（試料1～3）は、Ds－Oh起源の軽石であると考えられる。

試料1～3とDs－Ohを、岩石学的特徴にもとづいて比較した。Ds－Ohの岩石学的特徴を図Ⅳ－6に示す。試料1～3の岩石学的特徴は、いずれもDs－Ohの特徴と類似しており、試料1～3はDs－Ohが再堆積したものであると判断される。ただし、Ds－Ohには火砕流堆積物と降下軽石が存在するが、試料1～3のそれぞれの軽石が、火砕流堆積物起源であるのか降下軽石起源であるのかについては、今回得られたデータからは明らかに出来なかった。

段丘面の形成時期と日東遺跡の立地環境

日東遺跡が立地する河成段丘面の構成層には、Ds－Oh起源の軽石が多量に含まれることが、本調査によって明らかになった。Ds－Ohの噴火は約3万年前であるので、段丘面の形成時期は約3万年前よりもやや新しい時期である。おそらく、本地域の河成段丘は、Ds－Ohの噴出（30,000yBP）から最終氷期極相期（18,000yBP）までの時期（酸素同位体比ステージ3～2）に形成されたと考えられる。

日東遺跡からは17,000yBP前後の^{14}C年代が得られている（Ⅳ章1）ことから、この地域に人が居住したのは最終氷期極相期前後と考えられる。当時の日東遺跡は、段丘化直前ないしは直後の地形面上に立地していたことになる。したがって、日東遺跡の当時の地形環境は決して安定していたとはいえない。しかし、日東遺跡周辺には旧河道と旧河道に挟まれた微高地がいくつか存在しており（地点1もそのような微高地上に位置する）、居住に適した地形条件が得られたのであろう。

今回の発掘調査により、日東遺跡がDs－Ohより上位層準に位置することが確かめられた。白滝遺跡においても、Ds－Ohの直上の層準から旧石器遺物が出土することが確認されており（中村ほか、1999）、Ds－Ohは旧石器遺跡編年において重要な示標テフラであるといえる。今後は、大雪山周辺地域における旧石器遺跡の形成時期と、Ds－Ohの噴出年代の前後関係について、多数のデータを得る必要がある。

引用文献

勝井義雄・横山　泉・伊藤太一(1979)旭岳，火山地質・活動の現況および防災対策．北海道における火山に関する研究報告書，7，北海道防災会議，42p.

国府谷盛明・松井公平・河内晋平・小林武彦(1966)5万分の1地質図幅「大雪山」および同説明書．北海道開発庁，47p.

檀原　徹(1993)温度変化型屈折率測定法．日本第四紀学会編：第四紀試料分析法2，研究対象別分析法．149－158，東京大学出版会.

土居繁雄・国府谷盛明・藤原哲夫・長谷川　潔(1962)北海道石狩国上川町の地質．地下資源調査所報告，26，付録，36p.

中村有吾・平川一臣・長沼　孝(1999)北海道白滝遺跡と周辺地域のテフラ．地学雑誌，108，616－628.

中谷良弘(1978)上川町の第四紀(Ⅱ)石狩川上流の第四紀河岸段丘の分布．上川町の自然，第3集，101－106.

藤原哲夫・金　喆佑・松井公平・庄谷幸夫（1970）5万分の1地質図幅「上川」および同説明書．北海道開発庁，25p.

町田　洋・新井房夫（1992）『火山灰アトラス－日本列島とその周辺』．東京大学出版会，276p.

Ⅴ　ま　と　め

1　石器ブロック1出土の石器群について

日東遺跡石器ブロック1は、耕作により一部削平されてはいるものの、遺物包含層であるⅡ層から単一のブロックとして出土した。

日東遺跡石器ブロック1（以下ブロック1）は、接合状況、母岩分類等の遺物の空間分布から、一時期の単一のまとまりとして捉えられる。ブロック1は、Ⅱ層出土の資料とその接合資料を含めて1213個体、1261点、457.1ｇが出土している。母岩別資料（1～22）で同一の母岩別資料としたもの（Ⅰ層出土資料含む）を含めて考えると、1336個体、1405点、747.2ｇとなる（表Ⅴ－1）。

出土した石器類は、細岩刃、細石刃核、彫器、掻器、二次加工ある剥片、石刃、削片、縦長剥片、剥片である（図Ⅴ－5）。母岩別資料18からは尖頭器調整剥片が出土しており、その存在が想定される。石質は黒曜石1、3、4、5、頁岩、母岩は母岩別資料1、2、4、5、6、7、8、9、10、12、13、16、18、20、21、22、頁岩（2種類の可能性）が出土している。

これらの母岩別資料を中心として出土状況を検討し､ブロック1出土の石器群について考えてみたい。

(1)　出土器種

細石刃

細石刃は257個体、284点が出土した。母岩別資料1～22のうち、細石刃の含まれるものは1、2、3、4、6、7、8、9、10、22であり、母岩別資料3以外はブロック1で出土している。しかし、母岩別資料3はⅠ層からの出土ではあるが、その分布の中心はP－25にあることから、ここでは掲載したすべての細石刃（199個体）についてブロック1出土資料として扱うこととする。

細石刃の残存部位は、完形8個体、打点側87個体、中間部80個体、末端側24個体である。幅は平均6㎜、厚さは平均3㎜、重量は完形の平均が0.8ｇ、打点側、中間部、末端側の平均値をすべて加算した値は0.9ｇとなる（表Ⅴ－1）。表Ⅴ－2では細石刃の部位別の平均値を示してあり、長さは完形の平均

表Ⅴ－1　石器ブロック1出土石器一覧表（母岩別資料含む）

母岩番号	細石刃			細石刃核			彫器			掻器			二次加工ある剥片			石刃			縦長剥片			削片			剥片			合計		
	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量	個体数	点数	重量(g)
1	15	16	3.9																									15	16	3.9
2	16	16	2.7																									16	16	2.7
4	7	7	2.0																									7	7	2.0
5										1	1	21.0													32	34	12.3	33	35	33.3
6	52	64	11.6																									52	64	11.6
7	38	44	9.9																1	1	1.0							39	45	10.9
8	15	16	2.6																									15	16	2.6
9	17	18	3.3																									17	18	3.3
10	45	51	11.4	1	2	48.5													1	1	7.3				6	7	3.4	53	61	70.6
12				1	1	13.2																			4	4	2.0	5	5	15.2
13							1	2	15.3													1	1					2	3	15.3
16										1	3	30.2																1	3	30.2
18													1	2	9.4										11	27	238.7	12	29	248.1
20																									2	8	46.1	2	8	46.1
21							1	1	18.6													1	1	0.3				2	2	18.9
22	1	1		1	4	32.5													2	4	35.5							4	9	68.0
小計	206	233	47.4	3	7	94.2	2	3	33.9	2	4	51.2	1	2	9.4				4	6	43.8	2	2	0.3	55	80	302.5	275	337	582.7
未分類	51	51	0.1							1	5	39.2	1	1	6.3	3	5	13.9				2	2	0.5	1003	1004	104.5	1061	1068	164.5
合計	257	284	47.5	3	7	94.2	2	3	33.9	3	9	90.4	2	3	15.7	3	5	13.9	4	6	43.8	4	4	0.8	1058	1084	407.0	1336	1405	747.2

表Ⅴ－2　細石刃の計測値

部位＼属性	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）
完　　形	46	8	4	0.9
打　点　側	20	6	2	0.3
中　間　部	18	5	2	0.2
末　端　側	24	6	3	0.4
平　　均	3	6	3	0.4

で46㎜、打点側、中間部、末端側の平均値を単純に加算した値は62㎜である（表Ⅴ－2）。

打面（打圧面）形状では、打点（打圧点）の明瞭なものが95個体中76個体（80%）、不明瞭なものが95個体中19個体（20%）でその比は8：2となる。この数値は大沼らの研究（大沼・久保田　1992）によると、直接打法ではなく間接打法・押圧剥離、特に間接打法の数値（角のあるものが79.8%、なめらかなものが20.2%、その比が約8：2）に酷似している。この結果より、ブロック1では細石刃の剥離方法として間接打法を想定している。本来であれば他に有効な属性とされる最大厚/打圧面（打面）最大厚なども比較できれば良かったが、時間的な問題で今回は計測していない。

細石刃核（105～107、接合資料272、283、292）

細石刃核は広郷型（射的山型）細石刃核が3個体、7点が出土した。接合状況などから、いずれも細石刃剥離が行なえなくなった状態で廃棄されていると考えられる。それぞれ接合資料が得られている。105（272）では細石刃1個体、縦長剥片1個体が接合し、作業面に残される細石刃剥離痕を含めて考えると最低7個体が剥離されている。器体調整は、背面側の両側縁に主にみられる。106（292）には細石刃が12個体接合し、同一母岩別資料としたものを含めると、最低24個体が剥離されている。また接合状況から、細石刃剥離は器体長軸と細石刃剥離作業面との交叉する角度をできるだけ維持しつつ行なっている。器体調整は、主に背面側の両側縁にみられ、右側縁では細石刃剥離作業面の末端部の形状を整えている。107（283）では、作業面に残される細石刃剥離痕から最低3個体が剥離されている。器体調整はみられない。掻器として再利用がみられる。

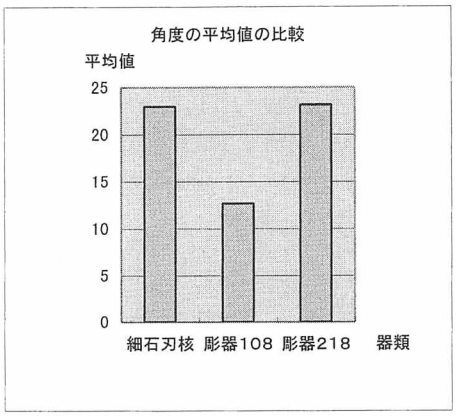
ここでは各細石刃核の、器体長軸と細石刃剥離作業面との交叉する角度：Xと細石刃剥離作業面長を計測し、細石刃剥離作業面長については細石刃と比較する。

角度Xは、105については器体長軸と実際接合している細石刃との交叉する角度、106については実際接合している細石刃及び作業面に残される細石刃剥離痕との交叉する角度、107については作業面に残される細石刃剥離痕との交叉する角度を計測している。105では、15°～30°で、平均22°である。106では、17°、17°（293）、18°、21°、25.5°、29°で、平均20°である（カッコ内は図番号）。107では、30°、32°、33°で、平均32°である。細石刃全体の器体長軸と細石刃剥離作業面との交叉する角度：Xは15°～33°の範囲にあり、平均で23°で細石刃核から剥離されている。

細石刃剥離作業面長は、105で64㎜、106で49㎜、107で44㎜である（すべて最大値）。(1) で示した細石刃の長さは完形の平均で46㎜、打点側、中間部、末端側の平均値を単純に加算した値は62㎜である。細石刃剥離作業面長の値（44㎜～64㎜）と、細石刃の長さを先ほど示した46㎜～62㎜と考えて比較すると、極めて近い値となる。この比較により、出土した細石刃が同様の細石刃核から剥離された可能性が高いと考えている。

彫器（108、218、接合資料289、291）

彫器は2個体、3点が出土した。彫器108の器体調整は、基部及び器体下半に微細な剥離がみられ、218ではみられない。



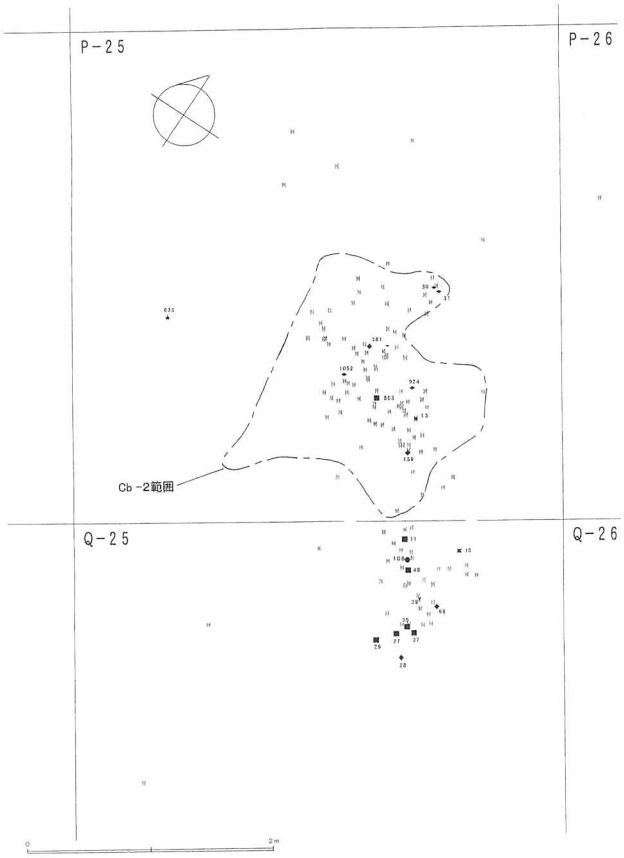
基礎統計量

器種	計測数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
細石刃核	22	15.0	33.0	22.977	5.206
彫器108	3	20.5	25.0	12.667	2.754
彫器218	3	9.5	14.5	23.167	2.363

分散分析の結果

器種	平均値の差	p値	有意確率5%で棄却
細石刃核、彫器218	10.311	0.002	○
細石刃核、彫器218	−0.189	0.950	
彫器108、彫器218	−10.500	0.014	○

図Ⅴ－1　細石刃核・彫器の角度の比較



図Ⅴ－2　石器ブロック1・Cb－2分布図

ここでは作出される彫刻刀面が器体の長軸に対する角度：Y（W：器体長軸と彫刻刀縁辺との交叉する角度、山原 1997）と彫刻刀面長を計測する。

角度Yは、108では20.5°、24°（290）、25°で、平均23°である。218では、9.5°、14°（109）、14.5°で、平均13°である。

彫刻刀面長は、108で44㎜、218で38㎜である。

218と108は完形で残されているが、両者には彫刻刀面の角度と器体調整に違いがみられ、最終的な形状は異なっている。

図Ⅴ－1で、彫刻刀面が器体の長軸に対する角度：Yと（2）で得られた細石刃核の器体長軸と補佐石刃剥離作業面との交叉する角度：Xを比較している。棒グラフは、細石刃核のXと彫器108、218のYの平均値である。108の角度Yの平均値が、細石刃核の角度Xの平均値とほぼ同じ値を示している。対して218の平均値は両者に比べて低いことがわかる。また108の角度Yの最小値（20.5°）－最大値（25°）は、角度Xの最小値（15°）－最大値（33°）の値に含まれるが、218の角度Yの最小値（9.5°）－最大値（14.5°）は、含まれない。XとYの平均値の差を確率的に検討するために分散分析という統計手法を用い、彫器218、ブロック1の細石刃核、彫器108、それぞれの角度の平均値の差が統計的に有意であるかどうかの検定を行なった。有意確率を5%にした場合、平均値に差があると認められるのは、「彫器218とブロック1の細石刃核」、「彫器218と彫器108」である。218から剥離される剥片の角度は、細石刃核と彫器108から剥離される剥片の角度と異なっており、棒グラフ及び表で確認した結果とも合致する。また、ブロック1の細石刃核と彫器108では統計的な差は認められない。

したがって、彫器218だけが細石刃核と彫器108の結果から外れることから異なった形態と認められる。また218が彫器とすると、器体調整や最終的な形状に違いのある彫器108は、細石刃核の可能性もある。

掻器（112、113、114、接合資料249）

掻器は3個体、9点が出土した。すべて石刃素材で、腹面から広がる折れが見られ、廃棄されている。使用による折れの可能性がある。249では刃部再生が行なわれている。

二次加工ある剥片（115）

二次加工ある剥片は1個体、2点が出土した。石刃素材である。

石刃（116～118）

石刃は3個体、5点が出土した。全体が残存する資料はない。

削片（109～111、219）

削片は4個体、4点が出土した。109のみが彫器218から作出されたことが分かっている。

縦長剥片（266、277、293、294）

縦長剥片は4個体、6点43.8ｇが出土した。いずれも細石刃剥離の過程で剥離されている。266は細石刃の接合資料265に、277は細石刃核の接合資料272に、293、294は細石刃核の接合資料292にある。

剥片

剥片は1058個体、1084点が出土した。Ⅱ層に限って分布の中心であるP・Q－25区をみてみると、重量には加算されていない0.1ｇ以下の資料が、P－25区では954点中786点、Q－25区では72点中40点あり、砕片が多いことがわかる。また、重量をみると、Q－25区出土の9.0ｇが最大で、P－25区では8.6ｇが1点あるほかはすべて2.7ｇ以下、Q－25区では7.9ｇ、8.3ｇ、8.9ｇ、9.0ｇが各1点ずつあるほかはすべて1.7ｇ以下である。大きいものが少なく、二次加工を中心とした作業が石器ブロック1では行われたと考えられる。

(2)　出土状況

石器類の出土状況は、図Ⅴ－2にある。細石刃・剥片はブロック全体に一様にみられる。

細石刃は、P－25区では96点中51点（53%）、Q－25区は母岩別資料1が2点、2が1点、2が1点、6が21点、7が7点、8が4点、9が2点、10が13点、22が1点、Q－25区は母岩別資料1が2点、2が3点、6が2点、7が7点、8が1点、9が2点、10が9点である。母岩別資料6はP－25区に偏って分布する。

剥片については、P－25区が954点中10点（1%）、Q－25区が72点中5点（7%）が母岩分類されているが、もともと小さいものが多いために、ほとんど母岩分類が出来ないという結果であった。参考まで

に、P－25区には母岩別資料5が4点、10が4点、22が2点みられる。Q－25区には母岩別資料5が2点、10が1点、12が1点、18が1点みられる。

器種別にみると、Q－25区には細石刃核106、細石刃核107の接合資料283から剥離された剥片288、掻器、削片28、66、二次加工ある剥片が分布する。P－25区の南半には掻器破片159、石刃、削片381、北半には細石刃・剥片のみがみられる。P－25区の西寄りには、細石刃核105の接合資料292から最後に剥離された縦長剥片294が1点だけ離れてみられる。炭化木片集中Cb－2は、ブロック1のP－25区の南半部に重なり、Q－25区の部分には重ならない（図V－2）。

ブロック内の石器類の出土状況は、Q－25区、P－25区の南半部に器種の偏りがみられ、炭化木片集中cb－2と分布が重ならない部分もみられることから、それぞれの位置での作業の差が想定される。

(3) 成果と問題点

日東遺跡石器ブロック1出土の出土器種とその出土状況を検討してきたが、最後に大まかではあるが、成果と問題点をまとめてみたい。

ブロック1出土資料の成果は、各器種が、発掘によってまとまりをもって出土しているところにある。広郷型細石刃核を伴う他遺跡（広郷遺跡など）と比較した時に、ブロック1にみられないものは、削器、錐形石器と礫石器類のみである。出土石器類の数量や剥片の状況から想定される、ブロック1の二次加工を中心とした作業が行われたキャンプサイト的な状況を考慮すれば、石器製作に関わるたたき石などは次の移動の際に持ち去られたと考えても大きな矛盾はないであろう。

またブロック1出土の細石刃核及び細石刃の特徴として、

1. 細石刃剥離が行なえなくなるまで確実に行なっている。
2. 細石刃剥離は間接打法により行なわれていると想定される。
3. 接合資料や細石刃剥離作業面の観察から、細石刃剥離は器体長軸と細石刃剥離作業面との交叉する角度（平均20°～32°）をできるだけ維持しつつ行なっている。
4. 出土した細石刃の大部分は、広郷型細石核から剥離された可能性が高い。
5. 細石刃核から掻器への器種を越えた再利用が行なわれている。

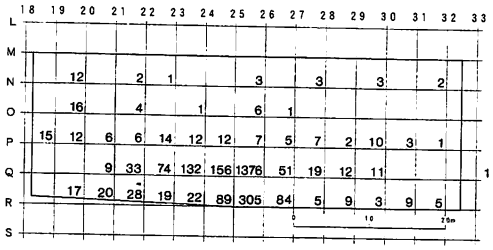
ことがあげられる。

問題点として、ブロック1の年代的な位置付けがある。ブロック1に伴うと考えられる炭化物ブロック2の14C年代測定は、補正値で16940±80yBP、暦年代換算でBC18405to18040という結果が示された。今までは想定されていない値であり、広郷型細石刃核を伴う石器群の年代として再検討する必要がある。広郷型細石刃核を伴う石器群全体の年代が従来より古く考えられるのか、それともブロック1の資料のみが従来の編年のなかで古く位置付けられ、従来いわれている有舌尖頭器と広郷型細石刃核がみられる石器群まで一定の幅を持った石器群として考えられるかが課題であろう。

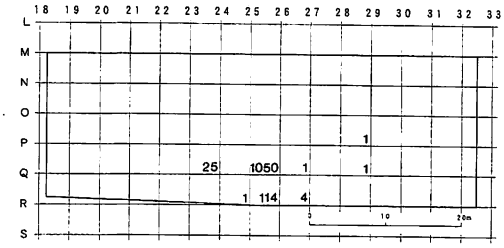
今後は、接合資料などにより細石刃核と彫器の双方を含めた分析をすることで、製作技術の類似する細石刃核と彫器についての技術的な展望が開けるのではないかと思われる。

（佐藤　剛）

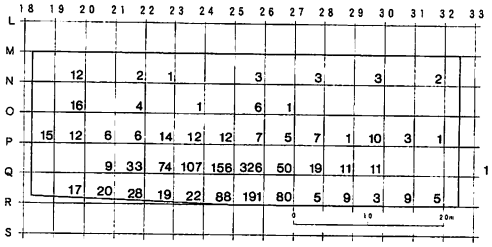
全体（2,708点）



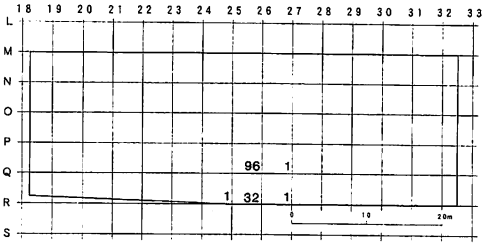
Ⅱ層（1,197点）



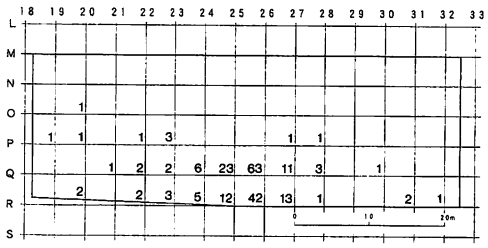
Ⅰ層等（1,511点）



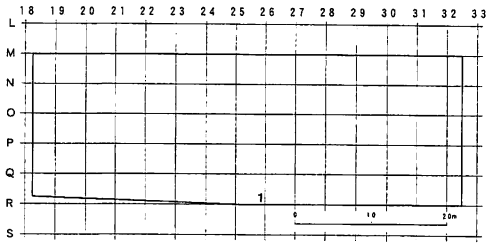
Ⅱ層　細石刃（131点）



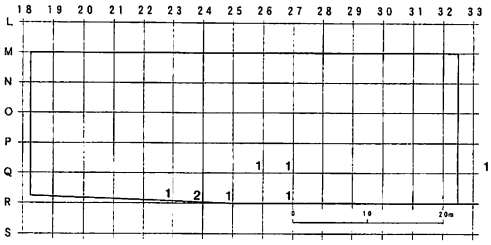
Ⅰ層等　細石刃（205点）



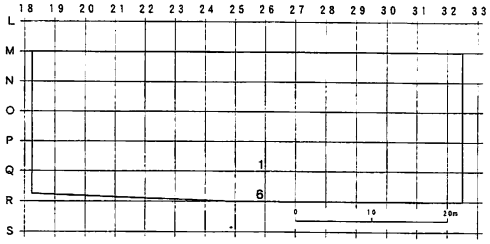
Ⅱ層　細石刃核（1点）



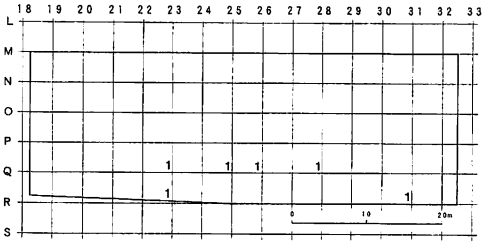
Ⅰ層等　細石刃核（8点）



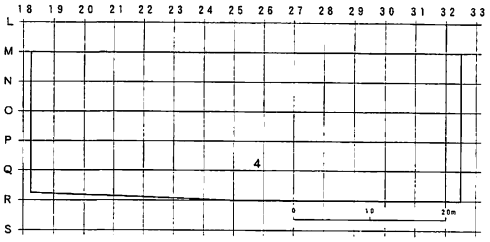
Ⅱ層　掻器（7点）



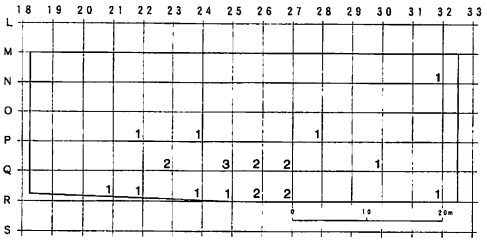
Ⅰ層　掻器（6点）



Ⅱ層　石刃（4点）

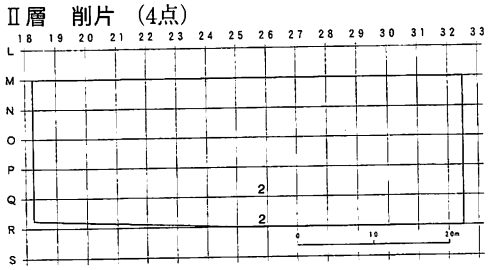


Ⅰ層等　石刃（23点）

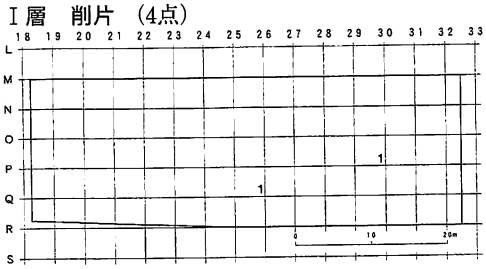


図Ⅴ－3　調査区・器種・層位別遺物分布図(1)

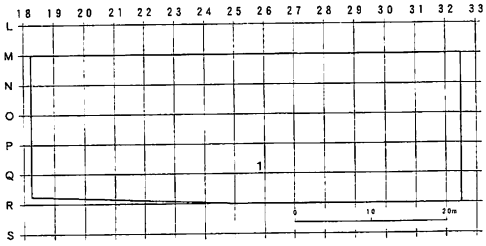
Ⅱ層　削片（4点）



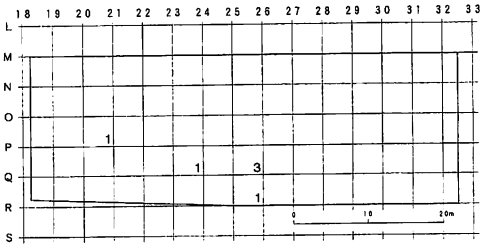
Ⅰ層　削片（4点）



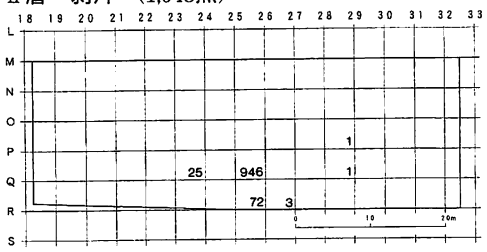
Ⅱ層　縦長剝片（1点）



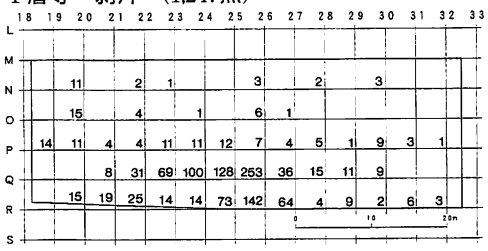
Ⅰ層等　縦長剝片（1点）



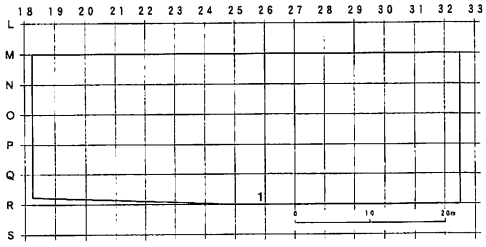
Ⅱ層　剝片（1,048点）



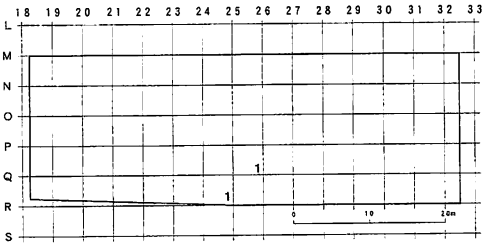
Ⅰ層等　剝片（1,247点）



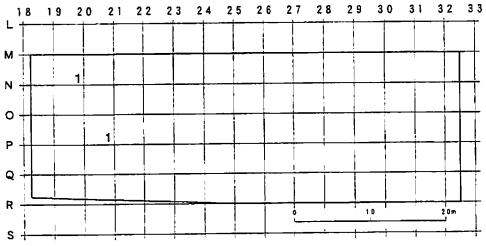
Ⅱ層　二次加工ある剝片（1点）



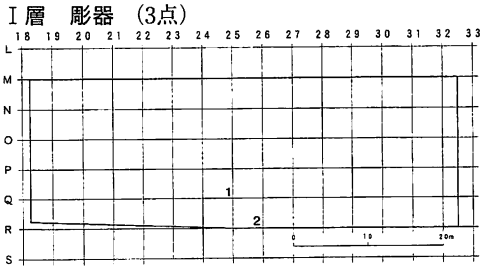
Ⅰ層等　二次加工ある剝片（2点）



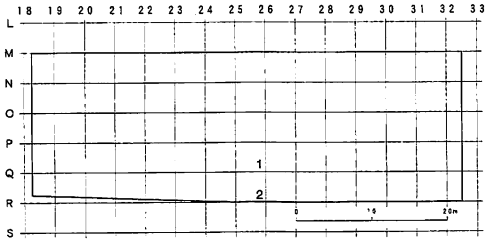
Ⅰ層　尖頭器（2点）



Ⅰ層　彫器（3点）



Ⅰ層　削器（3点）



図Ⅴ－4　調査区・器種・層位別遺物分布図(2)

2 石器ブロック1の性格と位置付け

事実記載については、各担当者間の意見の相違は可能な限り統一を図った。しかし、遺物に対する理解については意見の相違もあるので、前節と重複する部分もあるが、石器ブロック1の性格と位置付けを簡単に整理したい。

今回の調査区域は、耕作による攪乱が著しかったが、削平を免れ、Ⅱ層が残存していた部分で、石器ブロック1と炭化木片ブロックCb－1・2が確認できた。平面・垂直分布の重複状況から、Cb－2と石器ブロック1が共伴するものと考えられる。

石器ブロック1については、接合・母岩分類作業などによって表土の出土遺物を加えた状況で、その石器組成をある程度明らかにすることができた。

石器ブロック1の石器と性格　石器ブロック1を構成する石器は、細石刃、細石刃核、彫器、掻器、二次加工ある剥片、石刃、縦長剥片、剥片などである（図Ⅴ－5）。その数量は、Ⅱ層出土と接合関係のあるⅠ層出土資料でみると、総数1,211個体（1,256点）、細石刃162個体（183点）、細石刃核3個体（7点）、彫器1個体（2点）掻器3個体（9点）、二次加工ある剥片1点、石刃3個体（5点）、縦長剥片4個体（6点）、削片4点、剥片1,030個体（1,039点）である。

細石刃核は3個体あり、いずれも厚手の石刃を素材とし、素材の側縁に沿って細石刃剥離を行っている射的山型ないし広郷型といわれているものである。接合・母岩分類の状況から、細石刃核の状態で遺跡に持ち込まれ、細石刃剥離と若干の調整が行われ、状態が悪化して遺棄されている。

細石刃は、162個体であるが、母岩別資料を加えると206個体、さらに未分類も加えると257個体となる。上記の3個体の細石刃核から確実に剥離されたものは33個体であるが、大きさ・形状・背面に残る剥離面などの特徴から、残りのものも3個体と同様な射的山型（広郷型）の細石刃核から剥離された可能性が強い。

彫器は母岩別資料21を加えると2点あり、いずれも石刃素材で大型である。また、1点には基部加工がみられるが、二次加工は少なく、彫刀面の作出は2回程度で遺棄されている。

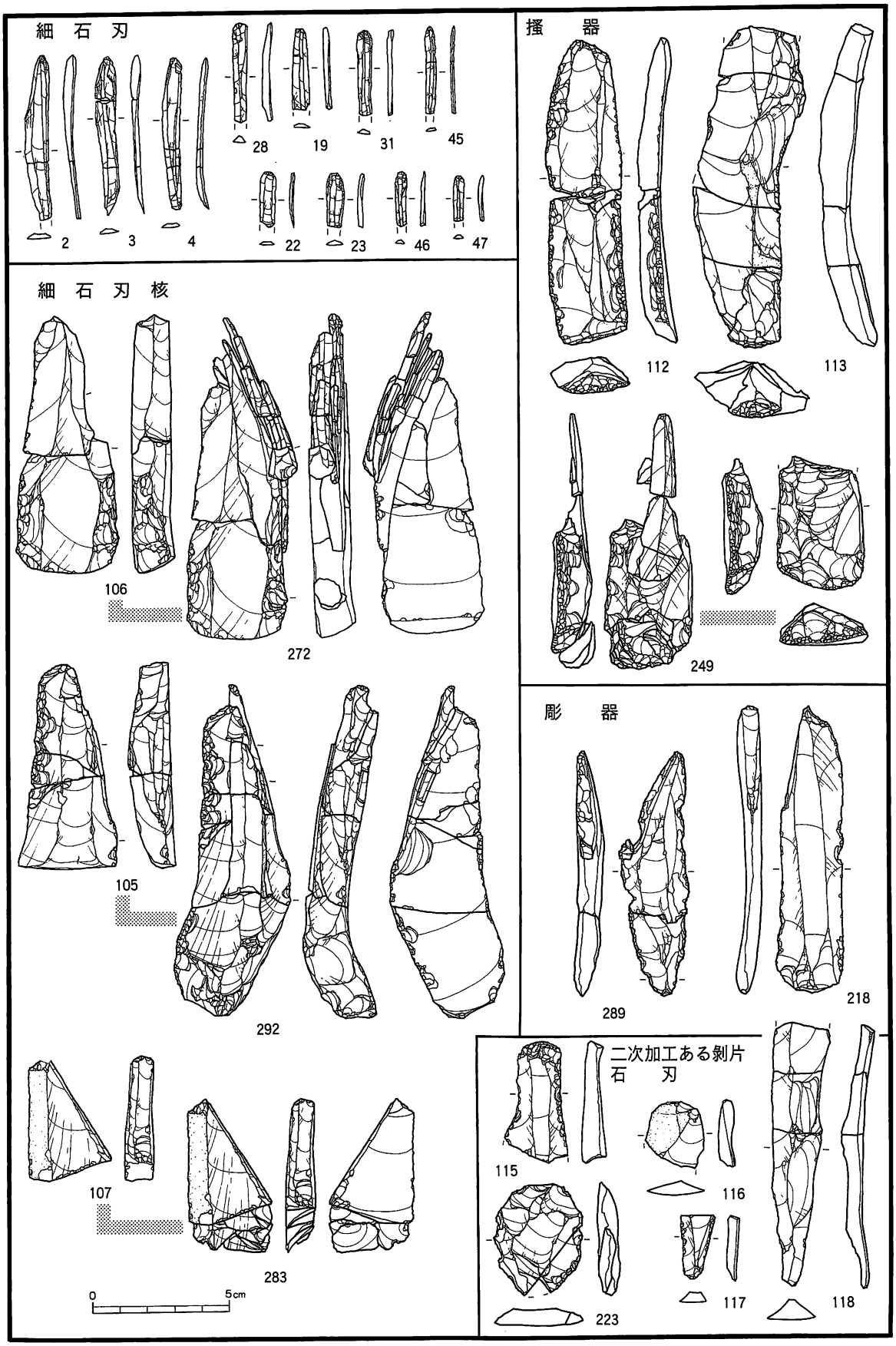
掻器は3個体あり、いずれも大型、厚手の石刃を素材としているが、破損して遺棄されている。器体中央で大きく二つに破損しているもの（図Ⅲ－5－112）は、割れが腹面から広がり、左右が三角形にはじけ、使用中の破損の典型的な状態を示している。また、同一母岩中に刃部の再生剥片がみられるものもある。掻器については、石器の状態で遺跡に持ち込まれ、使用、刃部再生、使用による破損、そして廃棄ということが行われたと考えられる。

二次加工ある剥片や石刃は、単独で持ち込まれたのか、石核でも持ち込まれて剥離されたのかは不明であるが、剥片類も含めて量的に少ないことから、別な場所で剥離されたものが持ち込まれた可能性が強い。

剥片類は、Ⅱ層出土で1,021点あるが、その80%が0.1ｇ未満の重量計測をしていないもので、石器類の細かな調整加工の産物と考えられる。

以上の石器類の状況から、石器ブロック1では持ち込まれた細石刃核からの細石刃剥離と掻器・彫器の使用、さらにそれらに伴う石核調整や刃部再生などの石器類の簡単な加工が行われていたということがいえる。また、Cb－2との重複状況から、炉跡を中心とした空間の利用が想定できる。

昭和55・56年の調査成果の詳細は不明であるが、炉跡を中心とした遺物の広がりと大量の細石刃の出土などが紹介されている（木村　1985）。今回の石器ブロック1と類似した状況で、確認されている細石刃核も同様な射的山型（広郷型）である。広範囲の遺跡の状況からみて日東遺跡全体では同様な



図V－5　石器ブロック1の石器

石器ブロックが多数存在する可能性がある。

表土出土遺物の中には打面に擦痕がある白滝型細石刃核と半両面加工の削片系の細石刃核がある。石器ブロック1とは離れた発掘区出土であること、2点とも特徴的な黒曜石であるが、石器ブロック1出土の細石刃の中に同一母岩資料がないことなどから、石器ブロック1には共伴しないと考えられる。しかし、昭和55・56年の調査区域の土地所有者の採取資料の中にも2点の白滝型細石刃核（中谷 1978、図Ⅱ－3－32・33）があり、さらに射的山型細石刃核が最初に確認された旭川市射的山遺跡でも表採資料として白滝型細石刃核が紹介されている（友田　1994）ので、その関係については、注意する必要があるかもしれない。

石器ブロック1出土石器の石材は若干の頁岩製の剥片がみられるが、大部分は黒曜石である。黒曜石の特徴は、黒色の黒曜石1が多く、次に茶色に黒が混じる黒曜石4、黒色に紫がかった茶色が混じる黒曜石5がみられる。肉眼的な観察だけであるが、黒曜石4・5は問題なく白滝産、黒曜石1についても白滝産の可能性が強いと考えられる。他の黒曜石産地より距離的に最も近い白滝産のものが利用されているのは納得のいくところである。ちなみに、日東遺跡と白滝村赤石山の直線距離は、約30km、置戸町所山・置戸山は約60km、上士幌町十勝三股は約50kmである。

石器ブロック1の年代　Cb－2の炭化木片の放射性炭素年代測定（AMS法）において、16,940±80y.B.P.（Beta－136453、NIT－1）、16,570±120y.B.P.（Beta－136455、NIT－3）という数値が得られた。Cb－2と石器ブロック1は、分布状況の重複から共伴すると考えられるので、この年代は石器ブロック1の年代を示しているともいえる。従来考えられている射的山型細石刃核を含む石器群の年代は、細石刃石器群の中でも新しい段階で、千葉編年ではⅢc期（12,000～10,000年B.P.）からⅣ期（10,000～9,000年B.P.）と考えられている（千葉　1985）。しかし、この年代観は、AMS法による放射性炭素年代測定データの蓄積がみられない状況のもので、現時点では当然再考しなければならない。一方、千歳市柏台1遺跡の調査成果から細石刃石器群が20,000年B.P.頃までさかのぼる可能性があり（福井　1999）、かつて同様に古い年代が得られている今金町美利河1遺跡のデータ（長沼　1978）とともに、北海道の細石刃石器群の年代観の再考が必要となっている。数字的な問題だけを考えれば、今までの年代観を4～5,000年古くすれば良いことになるが、話はそう単純ではなく、北海道の後期旧石器時代全体の枠組みを整理する必要がある。現在、白滝遺跡群の整理作業を進める中で、いくつかの糸口は得られつつあり、順次報告する予定である。

また、この年代は、遺物包含層より下位のⅢ層以下に含まれている再堆積軽石の分析から、遺跡が立地する河成段丘が大雪山御鉢平テフラの噴出（30,000年前）から最終氷期極相期前後（18,000年前）までの時期に形成された、という中村有吾氏の考え（Ⅳ章3）とは矛盾しない。

今回は、フィッショントラック法など、他の方法による年代測定を行っていないので、上記の放射性炭素年代測定（AMS法）の数値の妥当性を検証することはできないが、現時点での北海道の細石刃石器群の年代観を構築するためのデータの一つとして示しておきたい。

（長沼　孝）

引用・参考文献

大沼克彦・久保田正寿　1992　「石器製作技術の復元的研究：細石刃剥離方法の同定研究」
『ラーフィダーン』　国士館大学イラク古代文化研究所

上川町文化財調査会　1978　『越路34線遺跡』　上川町教育委員会

木村英明　1983　「細石器（北海道地方）」『季刊考古学』第4号　雄山閣

木村英明　1995　「黒曜石・人・技術」『北海道考古学』第31輯　北海道考古学会

木村英明　1985　『マンモスを追って』北海道考古学教室1　一光社

久保勝範・太田敏量・菅野友世　1980　「Ⅱ　広郷20遺跡」『北見市広郷・開成遺跡発掘調査報告書』　北海道北見市

小泉秀雄　1926　「大雪山の石器時代」『大雪山登山法及登山案内』　大雪山調査会

河野常吉　1926　「大雪山頂先史時代の遺跡」『大雪山及石狩川上流探検開発史』　大雪山調査会

河野広道　1931　「大雪山頂の石器時代遺跡」『蝦夷往来』第5号　尚古堂

河野広道・佐藤忠雄　1960　『江差牛遺跡』　安足間文化協会

塩田弓吉　1912　「北海道における石器時代遺跡遺物所在地」『人類学雑誌』第28巻第1号　東京人類学会

千葉英一　1985　「日本の旧石器－第3回・北海道（3）」『考古学ジャーナル』249　ニューサイエンス社

都竹一衛・青野　績　1966　『上川町史』　北海道上川町

都竹一衛　1984　『上川町史』第2巻　北海道上川町

堤　隆編　1996　『中ッ原第1遺跡G地点の研究Ⅱ』　八ヶ岳旧石器研究グループ

鶴丸俊明　1985　「「広郷型細石刃核」論－その形質と意味」『論集日本原史』　吉川弘文館

寺崎康史　1999　「北海道細石刃石器群理解への一試論」『先史考古学論集』第8集　安斎正人

土居繁雄・国府谷盛明・藤原哲夫・長谷川潔　1961　『北海道石狩国上川町の地質』　北海道立地下資源研究所

友田哲弘　1994　「第一章　先土器時代の上川」『新旭川市史』第一巻・通史一　旭川市

長沼　孝編　1978　『美利河1遺跡』（財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書第23集（財）北海道埋蔵文化財センター

中谷良弘　1978　「石狩川上流域、上川町の先史時代遺跡」『上川町の自然』第3集

福井淳一編　1999　『柏台1遺跡』（財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書第138集（財）北海道埋蔵文化財センター

山田　哲　1999　「北海道の前半期細石刃石器群についての研究－常呂郡訓子府町緑丘B遺跡石器群の再検討」
『先史考古学論集』第8集　安斎正人

山原敏朗　1997　「彫器の形態・技術・機能」『先史考古学論集』第6集　安斎正人

山原敏朗　1998　「北海道の旧石器時代終末期についての覚書」『北海道考古学』第34輯　北海道考古学会

掲載遺物一覧表

挿図	図版	番号	器種等	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	母岩番号	接合番号	被熱	備考
Ⅲ－2	7－1	1	細石刃	1	P25	Ⅰ	1261	74	10	8	2.8	黒曜石4	10	1		2点接合
					Q25	Ⅱ	36						10	1		
Ⅲ－2	7－1	2	細石刃	1	P26	Ⅱ	1	59	9	4	1.3	黒曜石1	7	50011		2点接合
					P26	Ⅰ	9						7	50011		
Ⅲ－2	7－1	3	細石刃	1	P25	Ⅰ	1063	57	8	4	0.7	黒曜石1	6	11	○	3点接合
					P25	Ⅰ	1068						6	11	○	
					Q26	Ⅰ	38						6	11	○	
Ⅲ－2	7－1	4	細石刃	1	Q25	Ⅱ	89	54	7	3	0.7	黒曜石1	6	50010	○	3点接合
					P25	Ⅱ	179						6	50010	○	
					P25	Ⅱ	799						6	50010	○	
Ⅲ－2	7－1	5	細石刃	1	P25	Ⅰ	1258	39	7	2	0.5	黒曜石1	6	15		2点接合
					P25	Ⅰ	1308						6	15		
Ⅲ－2	7－1	6	細石刃	1	P25	Ⅰ	1316	19	7	2	0.1	黒曜石1	6	12		
Ⅲ－2	7－1	7	細石刃	1	P25	Ⅱ	800	44	6	3	0.6	黒曜石1	6	14	○	
Ⅲ－2	7－1	8	細石刃	1	Q25	Ⅱ	105	21+	9	3	(0.4)	黒曜石1	7			
Ⅲ－2	7－1	9	細石刃	1	Q26	Ⅰ	17	42+	8	3	(0.9)	黒曜石4	10	2		2点接合
					Q25	Ⅱ	84						10	2		
Ⅲ－2	7－1	10	細石刃	1	Q25	B	269	26+	8	2	(0.3)	黒曜石4	10	1	○	
Ⅲ－2	7－1	11	細石刃	1	P25	Ⅱ	479	16+	8	3	(0.3)	黒曜石1	8			
Ⅲ－2	7－1	12	細石刃	1	P25	Ⅰ	1263	28+	7	2	(0.4)	黒曜石1	4	27		
Ⅲ－2	7－1	13	細石刃	1	P25	Ⅰ	1064	25+	7	3	(0.4)	黒曜石4	10	2	○	
Ⅲ－2	7－1	14	細石刃	1	Q27	Ⅰ	2	25+	7	3	(0.3)	黒曜石1	6	13	○	
Ⅲ－2	7－1	15	細石刃	1	P25	Ⅱ	11	25+	7	3	(0.4)	黒曜石1	7			
Ⅲ－2	7－1	16	細石刃	1	P25	Ⅱ	410	22+	7	3	(0.4)	黒曜石1	1	8		
Ⅲ－2	7－1	17	細石刃	1	Q24	Ⅰ	87	17+	7	2	(0.2)	黒曜石1	6	11		
Ⅲ－2	7－1	18	細石刃	1	P25	Ⅱ	412	17+	7	2	(0.2)	黒曜石4	10		○	
Ⅲ－2	7－1	19	細石刃	1	P25	Ⅱ	957	30+	6	3	(0.4)	黒曜石1	1	9		
Ⅲ－2	7－1	20	細石刃	1	Q26	Ⅰ	20	28+	6	2	(0.2)	黒曜石1	6	10		2点接合
					P25	Ⅱ	519						6	10		
Ⅲ－2	7－1	21	細石刃	1	P25	Ⅰ	1062	21+	6	3	(0.3)	黒曜石4	10	3		
Ⅲ－2	7－1	22	細石刃	1	P25	Ⅱ	422	19+	6	2	(0.3)	黒曜石1	2			
Ⅲ－2	7－1	23	細石刃	1	Q25	Ⅰ	126	20+	6	2	(0.1)	黒曜石1	6	12	○	
Ⅲ－2	7－1	24	細石刃	1	Q25	Ⅰ	123	19+	6	3	(0.3)	黒曜石1	7	20	○	
Ⅲ－2	7－1	25	細石刃	1	Q30	Ⅰ	5	19+	6	3	(0.3)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－2	7－1	26	細石刃	1	P26	Ⅰ	11	15+	6	2	(0.2)	黒曜石1	6	10		
Ⅲ－2	7－1	27	細石刃	1	Q25	Ⅱ	2	10+	6	2	(0.1)	黒曜石4	10			
Ⅲ－2	7－1	28	細石刃	1	P25	Ⅱ	911	36+	5	3	(0.4)	黒曜石4	10	5	○	
Ⅲ－2	7－1	29	細石刃	1	Q25	Ⅱ	65	34+	5	2	(0.3)	黒曜石1	7	17		2点接合
					P26	Ⅰ	38						7	17		
Ⅲ－2	7－1	30	細石刃	1	P25	B	1372	30+	5	3	(0.4)	黒曜石1	6	33	○	
Ⅲ－2	7－1	31	細石刃	1	P25	Ⅱ	73	31+	5	2	(0.3)	黒曜石1	6	33		
Ⅲ－2	7－1	32	細石刃	1	P27	Ⅰ	9	31+	5	3	(0.4)	黒曜石1	4	27		
Ⅲ－2	7－1	33	細石刃	1	O18	Ⅰ	1	30+	5	3	(0.2)	黒曜石1	4	27		
Ⅲ－2	7－1	34	細石刃	1	P25	Ⅱ	58	27+	5	3	(0.2)	黒曜石1	8			
Ⅲ－2	7－1	35	細石刃	1	Q25	Ⅰ	116	27+	5	3	(0.5)	黒曜石1	1	9		
Ⅲ－2	7－1	36	細石刃	1	P25	Ⅰ	1060	25+	5	3	(0.3)	黒曜石1	1	9	○	2点接合
					P25	Ⅰ	1276						1	9	○	
Ⅲ－2	7－1	37	細石刃	1	P25	Ⅱ	504	20+	5	2	(0.2)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－2	7－1	38	細石刃	1	P25	Ⅱ	122	18+	5	3	(0.2)	黒曜石1	7	20		
Ⅲ－2	7－1	39	細石刃	1	P23	Ⅰ	41	18+	5	2	(0.2)	黒曜石1	1	8		
Ⅲ－2	7－1	40	細石刃	1	P25	Ⅱ	61	17+	5	2		黒曜石1	6	12		
Ⅲ－2	7－1	41	細石刃	1	P25	Ⅱ	178	19+	5	2	(0.1)	黒曜石1	9			
Ⅲ－2	7－1	42	細石刃	1	P25	Ⅱ	462	16+	5	2	(0.2)	黒曜石1	7			
Ⅲ－2	7－1	43	細石刃	1	Q25	Ⅱ	94	15+	5	2	(0.2)	黒曜石1	2		○	
Ⅲ－2	7－1	44	細石刃	1	P25	Ⅱ	533	13+	5	2		黒曜石1	6			
Ⅲ－2	7－1	45	細石刃	1	Q25	Ⅱ	9	32+	4	1	(0.1)	黒曜石1	7	18		2点接合

挿図	図版	番号	器種等	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	母岩番号	接合番号	被熱	備考
					P24	Ⅰ	7						7	18		
Ⅲ－2	7－1	46	細石刃	1	Q25	Ⅱ	103	20+	4	2	(0.1)	黒曜石1	9			
Ⅲ－2	7－1	47	細石刃	1	Q25	Ⅱ	67	16+	4	2	(0.1)	黒曜石1	8			
Ⅲ－2	7－1	48	細石刃	1	P25	Ⅱ	916	14+	4	2		黒曜石1	6		○	
Ⅲ－2	7－1	49	細石刃		Q24	Ⅱ	1	15+	4	2		黒曜石1	2			
Ⅲ－2	7－1	50	細石刃	1	P25	Ⅱ	196	11+	4	1		黒曜石1	6	13	○	
Ⅲ－2	7－1	51	細石刃	1	Q25	Ⅱ	7	14+	3	1		黒曜石1	6		○	
Ⅲ－3	7－1	52	細石刃	1	P25	Ⅰ	1260	+51+	8	3	(0.8)	黒曜石4	10	1		3点接合
					O22	Ⅰ	8						10	1		
					P24	Ⅰ	3						10	1		
Ⅲ－3	7－1	53	細石刃	1	Q25	B	264	+23+	8	4	(0.6)	黒曜石1	7	21		
Ⅲ－3	7－1	54	細石刃	1	Q25	Ⅰ	122	+20+	7	3	(0.3)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－3	7－1	55	細石刃	1	Q30	Ⅰ	6	+14+	7	2	(0.2)	黒曜石1	6	11	○	
Ⅲ－3	7－1	56	細石刃	1	Q25	Ⅱ	61	+10+	7	2		黒曜石1	2		○	
Ⅲ－3	7－1	57	細石刃	1	P25	Ⅰ	1270	+12+	6	2	(0.2)	黒曜石1	6	15		
Ⅲ－3	7－1	58	細石刃	1	P23	Ⅰ	40	+34+	6	2	(0.5)	黒曜石1	6	14	○	
Ⅲ－3	7－1	59	細石刃	1	Q23	Ⅰ	5	+24+	6	3	(0.4)	黒曜石4	10	3		2点接合
					P25	Ⅱ	33						10	3		
Ⅲ－3	7－1	60	細石刃	1	P25	Ⅱ	354	+24+	6	3	(0.4)	黒曜石1	6	50009	○	2点接合
					O26	Ⅰ	3						6	50009	○	
Ⅲ－3	7－1	61	細石刃	1	P25	Ⅱ	922	+20+	6	2	(0.1)	黒曜石1	6	11	○	
Ⅲ－3	7－1	62	細石刃	1	P25	Ⅰ	1271	+35+	5	2	(0.4)	黒曜石1	9	23		2点接合
					Q26	Ⅰ	35						9	23		
Ⅲ－3	7－1	63	細石刃	1	Q25	B	272	+28+	5	2	(0.3)	黒曜石1	6	15		2点接合
					P25	Ⅱ	631						6	15		
Ⅲ－3	7－1	64	細石刃	1	P26	Ⅰ	10	+21+	5	2	(0.1)	黒曜石1	7	18	○	
Ⅲ－3	7－1	65	細石刃	1	Q25	Ⅱ	45	+17+	5	2	(0.2)	黒曜石4	10		○	
Ⅲ－3	7－1	66	細石刃	1	Q25	Ⅱ	69	+16+	5	2	(0.1)	黒曜石4	10			
Ⅲ－3	7－1	67	細石刃	1	P25	Ⅱ	619	+13+	5	2	(0.1)	黒曜石1	7		○	
Ⅲ－3	7－1	68	細石刃	1	P25	Ⅱ	1031	+11+	5	2		黒曜石1	6			
Ⅲ－3	7－1	69	細石刃	1	P25	Ⅱ	973	+11+	5	2		黒曜石1	8			
Ⅲ－3	7－1	70	細石刃	1	Q25	Ⅰ	131	+12+	5	2	(0.1)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－3	7－1	71	細石刃	1	P25	Ⅱ	822	+11+	5	2	(0.1)	黒曜石1	8			
Ⅲ－3	7－1	72	細石刃	1	Q25	Ⅱ	53	+8+	5	2		黒曜石1	1			
Ⅲ－3	7－1	73	細石刃	1	Q25	Ⅱ	40	+18+	4	2	(0.2)	黒曜石1	9	23	○	
Ⅲ－3	7－1	74	細石刃	1	P25	Ⅱ	791	+19+	4	2	(0.1)	黒曜石1	6	14	○	
Ⅲ－3	7－1	75	細石刃	1	P25	Ⅱ	75	+16+	4	3	(0.2)	黒曜石1	7	21		
Ⅲ－3	7－1	76	細石刃	1	P25	Ⅱ	26	+15+	4	1		黒曜石1	7		○	
Ⅲ－3	7－1	77	細石刃	1	P25	Ⅱ	365	+10+	4	2		黒曜石1	6		○	
Ⅲ－3	7－1	78	細石刃	1	P25	Ⅱ	13	+12+	4	1		黒曜石1	22	6		
Ⅲ－3		79	細石刃	1	Q25	Ⅰ	135	+12+	4	2	(0.2)	黒曜石4	10	3		
Ⅲ－3	7－1	80	細石刃	1	P25	Ⅱ	8	+12+	4	2	(0.1)	黒曜石1	6			
Ⅲ－3	7－1	81	細石刃	1	Q25	Ⅱ	44	+14+	4	2		黒曜石1	7		○	
Ⅲ－3	7－1	82	細石刃	1	P25	Ⅱ	375	+13+	4	2	(0.1)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－3	7－1	83	細石刃	1	Q25	Ⅱ	48	+11+	4	2	(0.1)	黒曜石1	2			
Ⅲ－3	7－1	84	細石刃	1	P25	Ⅱ	172	+21+	3	2	(0.1)	黒曜石1	9			
Ⅲ－3	7－1	85	細石刃	1	P25	Ⅱ	327	+19+	3	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－3	7－1	86	細石刃	1	Q25	Ⅱ	99	+15+	3	2		黒曜石4	10	3		
Ⅲ－3	7－1	87	細石刃	1	Q26	Ⅰ	18	+32	9	3	(0.6)	黒曜石4	10	1	○	2点接合
					P25	Ⅰ	1121						10	1	○	
Ⅲ－3	7－1	88	細石刃	1	Q24	Ⅰ	6	+26	9	5	(0.8)	黒曜石1	7	21	○	
Ⅲ－3	7－1	89	細石刃	1	P25	Ⅱ	374	+25	8	3	(0.5)	黒曜石4	10			
Ⅲ－3	7－1	90	細石刃		Q26	Ⅱ	4	+21	8	2	(0.3)	黒曜石1	4	27		
Ⅲ－3	7－1	91	細石刃	1	Q26	Ⅰ	37	+41	7	2	(0.5)	黒曜石1	6	14		3点接合
					Q26	Ⅰ	40						6	14		
					Q24	Ⅰ	11						6	14		

挿図	図版	番号	器種等	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	母岩番号	接合番号	被熱	備 考
Ⅲ－3	7－1	92	細石刃	1	P25	Ⅰ	1259	+29	7	2	(0.5)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－3	7－1	93	細石刃	1	Q25	Ⅱ	54	+42	6	3	(0.5)	黒曜石1	7	17		3点接合
					P22	Ⅰ	1						7	17	○	
					P25	Ⅱ	661						7	17		
Ⅲ－3	7－1	94	細石刃	1	Q25	Ⅰ	115	+35	6	3	(0.6)	黒曜石4	10	2		
Ⅲ－3	7－1	95	細石刃	1	Q25	Ⅱ	60	+31	6	2	(0.2)	黒曜石1	1			
Ⅲ－3	7－1	96	細石刃	1	Q25	Ⅱ	59	+23	6	3	(0.3)	黒曜石1	7		○	
Ⅲ－3	7－1	97	細石刃	1	Q25	Ⅱ	113	+22	6	3	(0.2)	黒曜石1	7			
Ⅲ－3	7－1	98	細石刃	1	Q25	Ⅱ	56	+27	5	2	(0.2)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－3	7－1	99	細石刃	1	P24	Ⅰ	69	+12	5	2	(0.1)	黒曜石4	10	2		
Ⅲ－3	7－1	100	細石刃	1	P25	Ⅱ	753	+16	4	2		黒曜石1	6	50008	○	2点接合
					P25	Ⅱ	634						6	50008	○	
Ⅲ－3	7－1	101	細石刃	1	P25	Ⅱ	978	+18	4	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－3	7－1	102	細石刃	1	P27	Ⅰ	1	+18	4	3	(0.2)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－3	7－1	103	細石刃	1	Q25	Ⅱ	3	+10	4	2		黒曜石4	10	1	○	
Ⅲ－3	7－1	104	細石刃	1	P25	Ⅰ	1078	+9	3	2		黒曜石4	10	5	○	
Ⅲ－4	7－1	105	細石刃核	1	P25	B	1384	74	36	16	32.5	黒曜石1	22	6		4点接合
					Q24	Ⅰ	51						22	6		
					Q23	Ⅰ	15						22	6		
					Q23	Ⅰ	10						22	6		
Ⅲ－4	7－1	106	細石刃核	1	Q25	Ⅱ	16	93	37	14	48.5	黒曜石4	10	1		2点接合
					Q26	Ⅰ	34						10	1		
Ⅲ－4	7－1	107	細石刃核	1	P26	Ⅰ	7	46	30	10	13.2	黒曜石1	12	7	○	
Ⅲ－4	7－1	108	彫器	1	P24	Ⅰ	1	88	24	9	15.3	黒曜石5	13	34		2点接合
					Q25	Ⅰ	143						13	34	○	
Ⅲ－4	7－1	109	削片	1	Q25	Ⅱ	28	23	3	4	(0.3)	黒曜石1	21			
Ⅲ－4	7－1	110	削片	1	P25	Ⅱ	381	18	8	3	(0.3)	黒曜石1			○	
Ⅲ－4	7－1	111	削片	1	P25	Ⅱ	159	16	6	4	0.2	黒曜石1				
Ⅲ－5	7－1	112	掻器	1	Q25	Ⅱ	35	110	28	10	30.2	黒曜石5	16	50003		3点接合
					P25	Ⅱ	853						16	50003		
					Q25	Ⅱ	37						16	50003		
Ⅲ－5	7－1	113	掻器	1	Q25	Ⅱ	27	116	34	13	(39.2)	黒曜石1		50002	○	5点接合
					P25	Ⅰ	1282							50002	○	
					Q25	Ⅱ	49							50002	○	
					Q25	Ⅱ	11							50002	○	
					P24	Ⅰ	65							50002	○	
Ⅲ－5	7－1	114	掻器	1	Q25	Ⅱ	29	49	31	14	(21)	黒曜石1	5	24		
Ⅲ－5	7－1	115	二次加工ある剥片	1	Q25	Ⅱ	39	44	23	9	(6.3)	黒曜石1				
Ⅲ－5	7－1	116	石刃	1	P25	Ⅱ	924	24	22	5	(2.2)	黒曜石1			○	
Ⅲ－5	7－1	117	石刃	1	P25	Ⅱ	1052	24	12	4	(1.0)	黒曜石1				
Ⅲ－5	7－1	118	石刃	1	P25	Ⅱ	30	96	21	8	(10.7)	黒曜石1		50004		3点接合
					P25	Ⅱ	31							50004		
					P26	Ⅰ	40							50004		
Ⅲ－6	8－1	119	細石刃		P25	Ⅰ	1294	21	9	3	0.4	黒曜石1	6			
Ⅲ－6	8－1	120	細石刃		P26	Ⅰ	22	12+	10	2	(0.2)	黒曜石1	4		○	
Ⅲ－6	8－1	121	細石刃		Q22	Ⅰ	3	28+	8	3	(0.6)	黒曜石1	6			
Ⅲ－6	8－1	122	細石刃		P25	Ⅰ	1066	24+	8	2	(0.4)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	123	細石刃		Q25	B	265	22+	8	2	(0.3)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	124	細石刃		Q25	B	268	18+	8	3	(0.3)	黒曜石1	7		○	
Ⅲ－6	8－1	125	細石刃		P24	B	154	13+	8	2	(0.1)	黒曜石1	7			
Ⅲ－6	8－1	126	細石刃		Q23	Ⅰ	4	24+	7	3	(0.4)	黒曜石1	8			
Ⅲ－6	8－1	127	細石刃		P26	Ⅰ	8	24+	7	3	(0.4)	黒曜石1	1			
Ⅲ－6	8－1	128	細石刃		P24	Ⅰ	67	22+	7	2	(0.3)	黒曜石1	7			
Ⅲ－6	8－1	129	細石刃		Q19	Ⅰ	4	21+	7	2	(0.3)	黒曜石1	3			
Ⅲ－6	8－1	130	細石刃		Q25	Ⅰ	118	23+	7	3	(0.4)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－6	8－1	131	細石刃		P25	Ⅰ	1146	21+	7	2	(0.1)	黒曜石1	8		○	

挿図	図版	番号	器種等	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	母岩番号	接合番号	被熱	備　考
Ⅲ－6	8－1	132	細石刃		P25	Ⅰ	1300	17+	7	2	(0.1)	黒曜石1	3			
Ⅲ－6	8－1	133	細石刃		Q24	Ⅰ	53	13+	7	3	(0.2)	黒曜石1	1			
Ⅲ－6	8－1	134	細石刃		Q24	Ⅰ	9	33+	6	3	(0.5)	黒曜石1	8	50012		2点接合
					P25	Ⅰ	1272						8	50012		
Ⅲ－6	8－1	135	細石刃		Q22	Ⅰ	4	29+	6	3	(0.4)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	136	細石刃		Q21	Ⅰ	1	22+	6	2	(0.4)	黒曜石1	2			
Ⅲ－6	8－1	137	細石刃		P25	Ⅰ	1264	19+	6	2	(0.2)	黒曜石1	6			
Ⅲ－6	8－1	138	細石刃		P22	Ⅰ	2	18+	6	2	(0.2)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	139	細石刃		Q25	B	270	18+	6	2	(0.2)	黒曜石1	7		○	
Ⅲ－6	8－1	140	細石刃		Q24	Ⅰ	8	16+	6	2	(0.1)	黒曜石4	10			
Ⅲ－6	8－1	141	細石刃		Q25	Ⅰ	129	14+	6	2	(0.2)	黒曜石1	2		○	
Ⅲ－6	8－1	142	細石刃		P25	Ⅰ	1155	12+	6	2	(0.1)	黒曜石1	7			
Ⅲ－6	8－1	143	細石刃		Q23	Ⅰ	6	9+	6	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－6	8－1	144	細石刃		Q25	Ⅰ	117	27+	5	2	(0.3)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－6	8－1	145	細石刃		P23	Ⅰ	42	25+	5	2	(0.2)	黒曜石1	7			
Ⅲ－6	8－1	146	細石刃		P29	Ⅰ	1	22+	5	2	(0.2)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－6	8－1	147	細石刃		P25	Ⅰ	1071	18+	5	2	(0.1)	黒曜石1	7			
Ⅲ－6	8－1	148	細石刃		Q25	Ⅰ	132	17+	5	2	(0.1)	黒曜石1	7			
Ⅲ－6	8－1	149	細石刃		P25	Ⅰ	1074	14+	5	2	(0.1)	黒曜石1	8			
Ⅲ－6	8－1	150	細石刃		P25	Ⅰ	1273	16+	5	2	(0.1)	黒曜石1	2		○	
Ⅲ－6	8－1	151	細石刃		Q25	B	273	13+	5	2	(0.1)	黒曜石1	1		○	
Ⅲ－6	8－1	152	細石刃		P24	Ⅰ	8	12+	5	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－6	8－1	153	細石刃		P25	Ⅰ	1077	10+	5	2	(0.1)	黒曜石1	6			
Ⅲ－6	8－1	154	細石刃		P25	Ⅰ	1075	10+	5	3	(0.1)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	155	細石刃		O27	Ⅰ	1	11+	5	2		黒曜石1	1		○	
Ⅲ－6	8－1	156	細石刃		P25	Ⅰ	1266	22+	4	2	(0.2)	黒曜石1	2			
Ⅲ－6	8－1	157	細石刃		表採		5	22+	4	2	(0.2)	黒曜石1	2		○	
Ⅲ－6	8－1	158	細石刃		P25	Ⅰ	1070	20+	4	3	(0.2)	黒曜石1	6			
Ⅲ－6	8－1	159	細石刃		Q26	Ⅰ	12	17+	4	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－6	8－1	160	細石刃		P24	Ⅰ	6	16+	4	2	(0.1)	黒曜石5				
Ⅲ－6	8－1	161	細石刃		P24	Ⅰ	71	14+	4	2	(0.1)	黒曜石1	8			
Ⅲ－6	8－1	162	細石刃		Q25	Ⅰ	134	16+	4	1	(0.1)	黒曜石1	2			
Ⅲ－6	8－1	163	細石刃		N19	Ⅰ	1	+17+	9	3	(0.4)	黒曜石1	3			
Ⅲ－6	8－1	164	細石刃		Q25	Ⅰ	130	+13+	9	2	(0.2)	黒曜石1	2		○	
Ⅲ－6	8－1	165	細石刃		P24	Ⅰ	68	+16+	9	2	(0.1)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	166	細石刃		P25	Ⅰ	1154	+11+	9	2	(0.2)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	167	細石刃		Q26	Ⅰ	11	+29+	8	3	(0.6)	黒曜石1	6	16		2点接合
					Q25	Ⅰ	198						6	16		
Ⅲ－6	8－1	168	細石刃		P25	Ⅰ	1265	+25+	8	4	(0.6)	黒曜石1	3			
Ⅲ－6	8－1	169	細石刃		Q21	Ⅰ	9	+8+	8	2	(0.1)	黒曜石1	6	16		
Ⅲ－6	8－1	170	細石刃		P24	Ⅰ	66	+17+	7	2	(0.3)	黒曜石1	4		○	
Ⅲ－6	8－1	171	細石刃		Q19	Ⅰ	5	+15+	7	3	(0.2)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	172	細石刃		P21	Ⅰ	23	+15+	7	3	(0.2)	黒曜石1	1			
Ⅲ－6	8－1	173	細石刃		P25	Ⅰ	1061	+32+	6	3	(0.4)	黒曜石1	1			
Ⅲ－6	8－1	174	細石刃		P26	Ⅰ	2	+25+	6	2	(0.2)	黒曜石1	8			
Ⅲ－6	8－1	175	細石刃		P24	Ⅰ	4	+20+	6	2	(0.2)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	176	細石刃		P24	Ⅰ	146	+18+	6	2	(0.1)	黒曜石1	9			
Ⅲ－6	8－1	177	細石刃		P24	Ⅰ	5	+18+	6	3	(0.2)	黒曜石1	1		○	
Ⅲ－6	8－1	178	細石刃		P24	Ⅰ	10	+15+	6	2	(0.1)	黒曜石1	9			
Ⅲ－7	8－1	179	細石刃		Q26	Ⅰ	19	+32+	5	2	(0.3)	黒曜石1	7	50031	○	2点接合
					P26	Ⅰ	46						7	50031		
Ⅲ－7	8－1	180	細石刃		P21	Ⅰ	1	+25+	5	3	(0.2)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	181	細石刃		Q25	Ⅰ	119	+27+	5	3	(0.3)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	182	細石刃		P25	Ⅰ	1069	+22+	5	3	(0.2)	黒曜石1	3			
Ⅲ－7	8－1	183	細石刃		O19	Ⅰ	1	+21+	5	3	(0.2)	黒曜石1	2			
Ⅲ－7	8－1	184	細石刃		P25	Ⅰ	1268	+21+	5	2	(0.2)	黒曜石1	4			

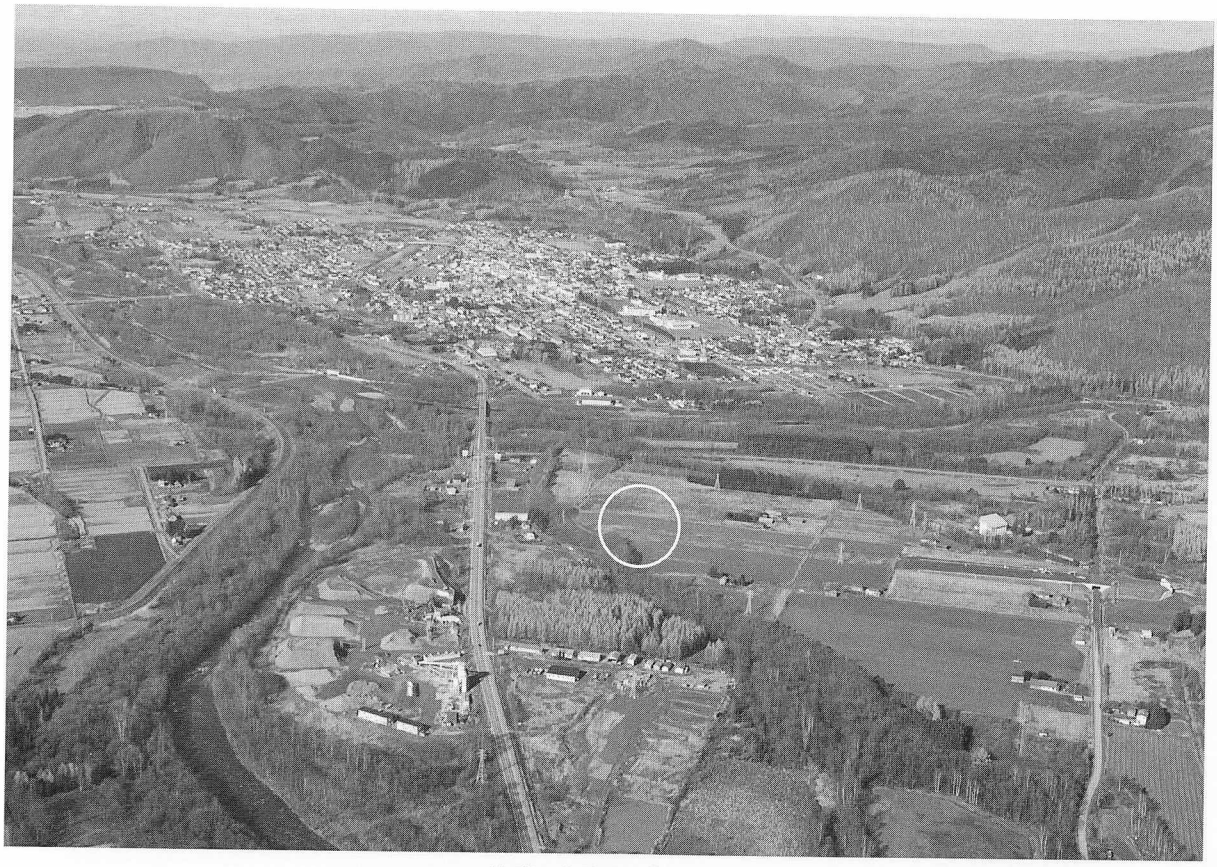
挿図	図版	番号	器種等	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	母岩番号	接合番号	被熱	備 考
Ⅲ－7	8－1	185	細石刃		P25	Ⅰ	1065	+19+	5	4	(0.3)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－7	8－1	186	細石刃		P25	Ⅰ	1262	+17+	5	2	(0.2)	黒曜石4	10		○	
Ⅲ－7	8－1	187	細石刃		P25	Ⅰ	1073	+13+	5	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－7	8－1	188	細石刃		Q25	Ⅰ	125	+13+	5	2	(0.1)	黒曜石1	9			
Ⅲ－7	8－1	189	細石刃		Q24	Ⅰ	10	+14+	5	2	(0.2)	黒曜石4	10	4		
Ⅲ－7	8－1	190	細石刃		Q25	Ⅰ	136	+11+	5	2	(0.1)	黒曜石1	6			
Ⅲ－7	8－1	191	細石刃		P25	Ⅰ	1072	+11+	5	3	(0.2)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	192	細石刃		P25	Ⅰ	1269	+27+	4	3	(0.3)	黒曜石1	7	19		
Ⅲ－7	8－1	193	細石刃		Q26	Ⅰ	36	+21+	4	2	(0.2)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－7	8－1	194	細石刃		Q25	B	253	+17+	4	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－7	8－1	195	細石刃		Q25	Ⅰ	128	+20+	4	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－7	8－1	196	細石刃		P25	Ⅰ	1267	+20+	4	3	(0.2)	黒曜石1	8			
Ⅲ－7	8－1	197	細石刃		P24	Ⅰ	70	+19+	4	2	(0.1)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	198	細石刃		Q25	Ⅰ	133	+17+	4	2	(0.1)	黒曜石1	8		○	
Ⅲ－7	8－1	199	細石刃		Q25	B	267	+14+	4	2	(0.1)	黒曜石1	2		○	
Ⅲ－7	8－1	200	細石刃		P24	Ⅰ	9	+13+	4	2	(0.1)	黒曜石1	6		○	
Ⅲ－7	8－1	201	細石刃		Q25	B	271	+14+	4	2	(0.1)	黒曜石1	8			
Ⅲ－7	8－1	202	細石刃		P24	Ⅰ	11	+11+	4	2	(0.1)	黒曜石1	8			
Ⅲ－7	8－1	203	細石刃		P20	Ⅰ	4	+11+	4	2	(0.1)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	204	細石刃		Q25	Ⅰ	120	+24+	3	2	(0.1)	黒曜石1	2			
Ⅲ－7	8－1	205	細石刃		Q25	Ⅰ	124	+19+	3	2	(0.1)	黒曜石1	7	19		
Ⅲ－7	8－1	206	細石刃		P23	Ⅰ	109	+13+	3	1	(0.1)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	207	細石刃		P23	Ⅰ	43	+14+	3	2	(0.1)	黒曜石4	10	4		
Ⅲ－7	8－1	208	細石刃		P25	Ⅰ	1297	+18	9	2	(0.3)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	209	細石刃		Q25	Ⅰ	121	+30	6	4	(0.3)	黒曜石1	2		○	
Ⅲ－7	8－1	210	細石刃		Q25	Ⅰ	127	+16	6	2	(0.2)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	211	細石刃		P25	Ⅰ	1067	+24	5	3	(0.4)	黒曜石1	1			
Ⅲ－7	8－1	212	細石刃		Q24	Ⅰ	83	+26	5	3	(0.3)	黒曜石1	7			
Ⅲ－7	8－1	213	細石刃		Q25	Ⅰ	140	+23	5	3	(0.2)	黒曜石4	10		○	
Ⅲ－7	8－1	214	細石刃核		P33	Ⅰ	1	35	61	14	33.0	黒曜石3	15			
Ⅲ－7	8－1	215	細石刃核		Q22	Ⅰ	15	41	98	22	87.2	黒曜石1	14			
Ⅲ－8	8－1	216	尖頭器		O20	Ⅰ	3	30	21	7	(3.3)	黒曜石1			○	
Ⅲ－8	8－1	217	尖頭器		M19	Ⅰ	4	95	49	14	(61.5)	黒曜石3	17			
Ⅲ－8	8－1	218	彫器		Q25	Ⅰ	196	104	24	8	18.6	黒曜石1	21			
Ⅲ－8	8－1	219	削片		P25	Ⅰ	1152	13	4	3	(0.1)	黒曜石1				
Ⅲ－8	8－1	220	掻器		Q22	Ⅰ	2	44	30	14	(18.9)	黒曜石1				
Ⅲ－8	8－1	221	掻器		P27	Ⅰ	10	42	19	7	(4.9)	黒曜石1				
Ⅲ－8	8－1	222	掻器		Q30	Ⅰ	4	40	23	8	(6.4)	黒曜石1				
Ⅲ－8	8－1	223	二次加工ある剥片		P25	B	1382	41	32	7	(9.4)	黒曜石1	18	50030		2点接合
					Q24	Ⅰ	61						18	50030		
Ⅲ－8	8－1	224	削器		Q25	Ⅰ	197	26	22	6	(3.1)	黒曜石1				
Ⅲ－8	8－1	225	削器		Q25	Ⅰ	142	48	31	14	(14.6)	黒曜石1				
Ⅲ－8	8－1	226	削器		P25	Ⅰ	1283	34	19	7	(3.7)	黒曜石1				
Ⅲ－9	8－1	227	石刃		Q26	Ⅰ	43	90	24	4	(8.9)	黒曜石1		50005	○	3点接合
					P25	Ⅰ	1299							50005	○	
					Q25	Ⅰ	145							50005	○	
Ⅲ－9	8－1	228	石刃		P25	B	1378	84	26	8	(14.8)	黒曜石1		50006	○	2点接合
					P26	Ⅰ	39							50006	○	
Ⅲ－9	8－1	229	石刃		P22	Ⅰ	6	29	19	4	(2.2)	黒曜石4	11			
Ⅲ－9	8－1	230	石刃		Q24	Ⅰ	56	31	21	5	(4.1)	黒曜石1				
Ⅲ－9	8－1	231	石刃		Q20	Ⅰ	3	47	19	6	(5.3)	黒曜石1		50007		3点接合
					Q21	Ⅰ	5							50007		
					Q23	Ⅰ	9							50007		
Ⅲ－9	9－1	232	石刃		Q25	Ⅰ	144	38	24	9	(6.0)	黒曜石1			○	
Ⅲ－9	9－1	233	石刃		M31	Ⅰ	1	35	21	6	(4.4)	黒曜石1				
Ⅲ－9	9－1	234	石刃		Q31	Ⅰ	3	15	19	4	(1.0)	黒曜石1				

挿図	図版	番号	器種等	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	母岩番号	接合番号	被熱	備 考
Ⅲ－9	9－1	235	石刃		P24	Ⅰ	16	53	26	8	(9.6)	黒曜石1			○	
Ⅲ－9	9－1	236	石刃		P24	Ⅰ	86	12	13	2	(0.3)	黒曜石1				
Ⅲ－9	9－1	237	石刃		O27	Ⅰ	7	29	18	7	(4.0)	黒曜石1				
Ⅲ－9	9－1	238	石刃		P24	Ⅰ	18	33	18	4	(2.1)	黒曜石1				
Ⅲ－9	9－1	239	掻器		P22	Ⅰ	3	60	22	12	14.3	珪岩				
Ⅲ－9	9－1	240	削片		O29	Ⅰ	1	30	13	4	(1.5)	めのう				
Ⅲ－9	9－1	241	縦長剥片		O20	Ⅰ	1	58	19	6	(4.2)	めのう				
Ⅲ－9	9－1	242	石刃		O23	Ⅰ	10	56	16	7	(5.4)	珪岩				
Ⅲ－9	9－1	243	石刃		P29	Ⅰ	3	31	14	6	(2.7)	頁岩				
Ⅲ－9	9－1	244	石刃		P22	Ⅰ	5	19	10	5	(0.9)	めのう				
Ⅲ－9	9－1	245	縦長剥片		P23	Ⅰ	108	42	20	6	(3.9)	頁岩				
Ⅲ－14	9－1	246	細石刃接合	1		Ⅱ		30	6	8	1.2	黒曜石1	1	9		4点接合
		19	細石刃	1	P25	Ⅱ	957					黒曜石1	1	9		
		35	細石刃	1	Q25	Ⅰ	116					黒曜石1	1	9		
		36	細石刃	1	P25	Ⅰ	1060					黒曜石1	1	9	○	2点接合
Ⅲ－14	9－1	247	細石刃接合	1		Ⅱ		22	10	3	0.6	黒曜石1	1	8		2点接合
		16	細石刃	1	P25	Ⅱ	410					黒曜石1	1	8		
		39	細石刃	1	P23	Ⅰ	41					黒曜石1	1	8		
Ⅲ－15	9－1	248	細石刃接合	1		Ⅱ		43	11	6	1.3	黒曜石1	4	27		4点接合
		33	細石刃	1	O18	Ⅰ	1					黒曜石1	4	27		
		12	細石刃	1	P25	Ⅰ	1263					黒曜石1	4	27		
		32	細石刃	1	P27	Ⅰ	9					黒曜石1	4	27		
		90	細石刃	1	Q26	Ⅱ	4					黒曜石1	4	27		
Ⅲ－16	9－1	249	掻器接合・同一母岩	1		Ⅱ		92	31	14	26.5	黒曜石1	5			4点接合
		114	掻器	1	Q25	Ⅱ	29					黒曜石1	5	24		
		250	剥片同一母岩		Q24	Ⅰ	7					黒曜石1	5	25		2点同一母岩
		251	剥片同一母岩		O26	Ⅰ	2					黒曜石1	5	25		2点同一母岩
		252	剥片		P25	Ⅰ	1318					黒曜石1	5	26		
		253	剥片		P25	Ⅰ	1093					黒曜石1	5	26		
		254	剥片		P25	Ⅰ	1133					黒曜石1	5	26		
		255	剥片		Q24	Ⅰ	65					黒曜石1	5	26		
		256	剥片	1	Q26	Ⅰ	54					黒曜石1	5	24		
Ⅲ－16	9－1	250	剥片同一母岩		Q24	Ⅰ	7	61	16	7	(2.6)	黒曜石1	5	25		2点同一母岩
				1	P23	Ⅰ	54							24		
Ⅲ－16	9－1	251	剥片同一母岩		O26	Ⅰ	2				(0.3)	黒曜石1	5	25		2点同一母岩
				1	P25	Ⅰ	1144							24	○	
Ⅲ－16	9－1	252	剥片		P25	Ⅰ	1318	14	8	3	0.2	黒曜石1	5	26		
Ⅲ－16	9－1	253	剥片		P25	Ⅰ	1093	21	18	4	1.0	黒曜石1	5	26		
Ⅲ－16	9－1	254	剥片		P25	Ⅰ	1133	14	13	4	0.4	黒曜石1	5	26		
Ⅲ－16	9－1	255	剥片		Q24	Ⅰ	65	17	13	4	0.6	黒曜石1	5	26		
Ⅲ－16	9－1	256	剥片	1	Q26	Ⅰ	54	15	12	2	0.4	黒曜石1	5	24		
Ⅲ－17	10－1	257	細石刃接合	1		Ⅱ		60	10	6	1.2	黒曜石1	6	11		6点接合
		17	細石刃	1	Q24	Ⅰ	87					黒曜石1	6	11		
		3	細石刃	1	P25	Ⅰ	1063					黒曜石1	6	11	○	3点接合
		61	細石刃	1	P25	Ⅱ	922					黒曜石1	6	11	○	
		55	細石刃	1	Q30	Ⅰ	6					黒曜石1	6	11	○	
Ⅲ－17	10－1	258	細石刃接合	1		Ⅱ		39	7	4	0.9	黒曜石1	6	15		5点接合
		5	細石刃	1	P25	Ⅰ	1258					黒曜石1	6	15		2点接合
		63	細石刃	1	Q25	B	272					黒曜石1	6	15		2点接合
		57	細石刃	1	P25	Ⅰ	1270					黒曜石1	6	15		
Ⅲ－17	10－1	259	細石刃接合	1		Ⅱ		30	8	3	0.4	黒曜石1	6	10		3点接合
		26	細石刃	1	P26	Ⅰ	11					黒曜石1	6	10		
		20	細石刃	1	Q26	Ⅰ	20					黒曜石1	6	10		2点接合
Ⅲ－17	10－1	260	細石刃接合	1		Ⅱ		26	7	3	0.4	黒曜石1	6	13		2点接合
		50	細石刃	1	P25	Ⅱ	196					黒曜石1	6	13	○	
		14	細石刃	1	Q27	Ⅰ	2					黒曜石1	6	13	○	

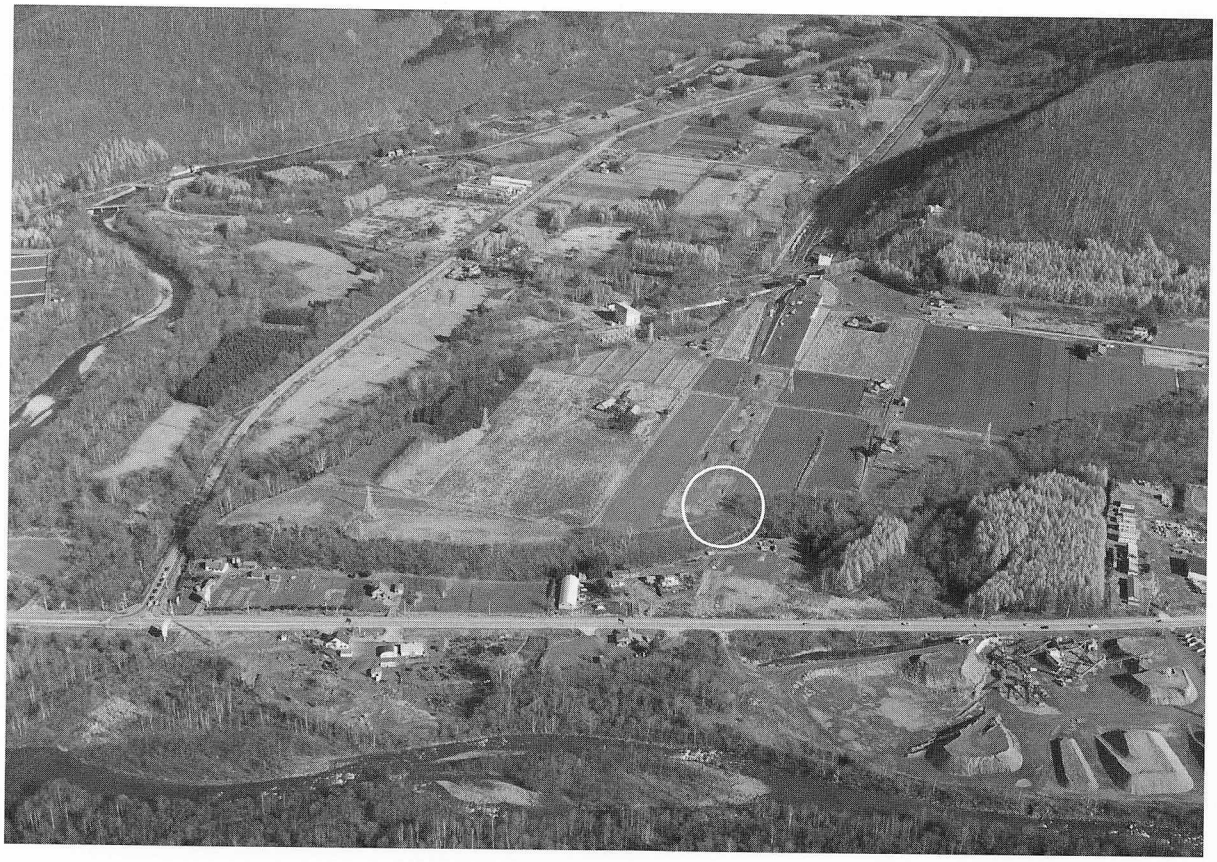
挿図	図版	番号	器種等	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	母岩番号	接合番号	被熱	備 考
Ⅲ－17	10－1	261	細石刃接合	1		Ⅱ		44	9	7	1.7	黒曜石1	6	14		6点接合
		91	細石刃	1	Q26	Ⅰ	37					黒曜石1	6	14		3点接合
		58	細石刃	1	P23	Ⅰ	40					黒曜石1	6	14	○	
		74	細石刃	1	P25	Ⅱ	791					黒曜石1	6	14	○	
		7	細石刃	1	P25	Ⅱ	800					黒曜石1	6	14	○	
Ⅲ－18	10－1	262	細石刃接合	1		Ⅱ		21	10	4	0.4	黒曜石1	6	12		3点接合
		40	細石刃	1	P25	Ⅱ	61					黒曜石1	6	12		
		6	細石刃	1	P25	Ⅰ	1316					黒曜石1	6	12		
		23	細石刃	1	Q25	Ⅰ	126					黒曜石1	6	12	○	
Ⅲ－18	10－1	263	細石刃接合			Ⅰ		35	8	4	0.7	黒曜石1	6	16		3点接合
		167	細石刃		Q26	Ⅰ	11					黒曜石1	6	16		2点接合
		169	細石刃		Q21	Ⅰ	9					黒曜石1	6	16		
Ⅲ－18	10－1	264	細石刃接合	1		Ⅱ		32	5	4	0.7	黒曜石1	6	33		2点接合
		30	細石刃	1	P25	B	1372					黒曜石1	6	33	○	
		31	細石刃	1	P25	Ⅱ	73					黒曜石1	6	33		
Ⅲ－19	10－1	265	細石刃接合	1		Ⅱ		41	10	9	2.6	黒曜石1	7	21		4点接合
		75	細石刃	1	P25	Ⅱ	75					黒曜石1	7	21		
		88	細石刃	1	Q24	Ⅰ	6					黒曜石1	7	21	○	
		53	細石刃	1	Q25	B	264					黒曜石1	7	21		
		266	縦長剥片	1	排土		29					黒曜石1	7	21		
Ⅲ－19		266	縦長剥片	1	排土		29	41	11	4	1.0	黒曜石1	7	21		
Ⅲ－19	10－1	267	細石刃接合	1		Ⅱ		32	7	2	0.3	黒曜石1	7	18		3点接合
		45	細石刃	1	Q25	Ⅱ	9					黒曜石1	7	18		2点接合
		64	細石刃	1	P26	Ⅰ	10					黒曜石1	7	18	○	
Ⅲ－19	10－1	268	細石刃接合	1		Ⅱ		62	8	3	0.8	黒曜石1	7	17		5点接合
		93	細石刃	1	Q25	Ⅱ	54					黒曜石1	7	17		3点接合
		29	細石刃	1	Q25	Ⅱ	65					黒曜石1	7	17		2点接合
Ⅲ－19	10－1	269	細石刃接合	1		Ⅱ		20	7	5	0.5	黒曜石1	7	20		2点接合
		24	細石刃	1	Q25	Ⅰ	123					黒曜石1	7	20	○	
		38	細石刃	1	P25	Ⅱ	122					黒曜石1	7	20		
Ⅲ－19	10－1	270	細石刃接合			Ⅰ		30	5	5	0.4	黒曜石1	7	19		2点接合
		205	細石刃		Q25	Ⅰ	124					黒曜石1	7	19		
		192	細石刃	1	P25	Ⅰ	1269					黒曜石1	7	19		
Ⅲ－21	10－1	271	細石刃接合	1		Ⅱ		35	7	3	0.6	黒曜石1	9	23		3点接合
		62	細石刃	1	P25	Ⅰ	1271					黒曜石1	9	23		2点接合
		73	細石刃	1	Q25	Ⅱ	40					黒曜石1	9	23	○	
Ⅲ－22	9－1	272	細石刃核接合	1		Ⅱ		117	37	15	65.4	黒曜石4	10	1		25点接合
		273	剥片	1	P25	Ⅱ	126					黒曜石4	10	1		
		274	剥片	1	P25	Ⅱ	362					黒曜石4	10	1		
		275	剥片	1	Q25	Ⅱ	34					黒曜石4	10	1	○	
		87	細石刃	1	Q26	Ⅰ	18					黒曜石4	10	1	○	2点接合
		54	細石刃	1	Q25	Ⅰ	122					黒曜石4	10	1		
		82	細石刃	1	P25	Ⅱ	375					黒曜石4	10	1		
		52	細石刃	1	P25	Ⅰ	1260					黒曜石4	10	1		3点接合
		25	細石刃	1	Q30	Ⅰ	5					黒曜石4	10	1		
		102	細石刃	1	P27	Ⅰ	1					黒曜石4	10	1		
		92	細石刃	1	P25	Ⅰ	1259					黒曜石4	10	1		
		98	細石刃	1	Q25	Ⅱ	56					黒曜石4	10	1		
		10	細石刃	1	Q25	B	269					黒曜石4	10	1	○	
		70	細石刃	1	Q25	Ⅰ	131					黒曜石4	10	1		
		103	細石刃	1	Q25	Ⅱ	3					黒曜石4	10	1	○	
		1	細石刃	1	P25	Ⅰ	1261					黒曜石4	10	1		2点接合
		276	縦長剥片	1	P25	Ⅰ	1059					黒曜石4	10	1		
		277	剥片	1	P25	Ⅱ	551					黒曜石4	10	1		
		278	剥片	1	Q24	Ⅰ	52					黒曜石4	10	1		2点接合
		106	細石刃核	1	Q25	Ⅱ	16					黒曜石4	10	1		2点接合

挿図	図版	番号	器種等	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	母岩番号	接合番号	被熱	備 考
Ⅲ－22	9－1	273	剥片	1	P25	Ⅱ	126	12	11	2	0.2	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－22	9－1	274	剥片	1	P25	Ⅱ	362	12	6	1		黒曜石4	10	1		
Ⅲ－22	9－1	275	剥片	1	Q25	Ⅱ	34	14	13	3	0.4	黒曜石4	10	1	○	
Ⅲ－23	9－1	276	縦長剥片	1	P25	Ⅰ	1059	70	13	9	(7.3)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－23		277	剥片	1	P25	Ⅱ	551	13	8	2	(0.1)	黒曜石4	10	1		
Ⅲ－23	9－1	278	剥片	1	Q24	Ⅰ	52	31	16	9	(2.7)	黒曜石4	10	1		2点接合
					P25	Ⅱ	158						10	1		
Ⅲ－23	9－1	279	細石刃接合	1		Ⅱ		52	12	6	2.0	黒曜石4	10	2		5点接合
		99	細石刃	1	P24	Ⅰ	69					黒曜石4	10	2		
		94	細石刃	1	Q25	Ⅰ	115					黒曜石4	10	2		
		9	細石刃	1	Q26	Ⅰ	17					黒曜石4	10	2		2点接合
		13	細石刃	1	P25	Ⅰ	1064					黒曜石4	10	2	○	
Ⅲ－24	9－1	280	細石刃接合	1		Ⅱ		38	8	3	0.9	黒曜石4	10	3		5点接合
		21	細石刃	1	P25	Ⅰ	1062					黒曜石4	10	3		
		86	細石刃	1	Q25	Ⅱ	99					黒曜石4	10	3		
		59	細石刃	1	Q23	Ⅰ	5					黒曜石4	10	3		2点接合
		79	細石刃	1	Q25	Ⅰ	135					黒曜石4	10	3		
Ⅲ－24	9－1	281	細石刃接合	1		Ⅱ		40	5	3	0.5	黒曜石4	10	5		2点接合
		104	細石刃	1	P25	Ⅰ	1078					黒曜石4	10	5	○	
		28	細石刃	1	P25	Ⅱ	911					黒曜石4	10	5	○	
Ⅲ－24	9－1	282	細石刃接合			Ⅰ		19	5	3	0.3	黒曜石4	10	4		2点接合
		207	細石刃		P23	Ⅰ	43					黒曜石4	10	4		
		189	細石刃		Q24	Ⅰ	10					黒曜石4	10	4		
Ⅲ－25	10－1	283	細石刃核接合	1		Ⅱ		56	30	10	15.2	黒曜石1	12	7		5点接合
		107	細石刃核	1	P26	Ⅰ	7					黒曜石1	12	7	○	
		285	剥片	1	Q21	Ⅰ	17					黒曜石1	12	7		
		286	剥片	1	P25	Ⅰ	1293					黒曜石1	12	7		
		287	剥片	1	P25	Ⅰ	1317					黒曜石1	12	7		
		288	剥片	1	Q25	Ⅱ	108					黒曜石1	12	7		
Ⅲ－25		284	剥片接合	1		Ⅱ		18	29	11	2	黒曜石1	12	7		4点接合
		285	剥片	1	Q21	Ⅰ	17					黒曜石1	12	7		
		286	剥片	1	P25	Ⅰ	1293					黒曜石1	12	7		
		287	剥片	1	P25	Ⅰ	1317					黒曜石1	12	7		
		288	剥片	1	Q25	Ⅱ	108					黒曜石1	12	7		
Ⅲ－25	10－1	285	剥片	1	Q21	Ⅰ	17	13	17	5	0.6	黒曜石1	12	7		
Ⅲ－25	10－1	286	剥片	1	P25	Ⅰ	1293	15	12	3	0.4	黒曜石1	12	7		
Ⅲ－25	10－1	287	剥片	1	P25	Ⅰ	1317	13	10	3	0.3	黒曜石1	12	7		
Ⅲ－25	10－1	288	剥片	1	Q25	Ⅱ	108	14	17	4	0.7	黒曜石1	12	7		
Ⅲ－26	10－1	289	彫器接合	1		Ⅱ		88	24	9	15.4	黒曜石5	13	34		3点接合
		108	彫器	1	P24	Ⅰ	1					黒曜石5	13	34		2点接合
		290	削片	1	Q25	Ⅱ	66					黒曜石5	13	34		
Ⅲ－26	10－1	290	削片	1	Q25	Ⅱ	66	7	6	3		黒曜石5	13	34		
Ⅲ－26		291	彫器同一母岩					104	24	8	18.9	黒曜石1	21			
		218	彫器		Q25	Ⅰ	196					黒曜石1	21			
		109	削片	1	Q25	Ⅱ	28					黒曜石1	21			
Ⅲ－28	10－1	292	細石刃核接合	1		Ⅱ		119	36	20	68	黒曜石1	22	6		9点接合
		78	細石刃	1	P25	Ⅱ	13					黒曜石1	22	6		
		293	縦長剥片	1	P25	Ⅰ	1107					黒曜石1	22	6		
		294	縦長剥片	1	P25	Ⅱ	633					黒曜石1	22	6		3点接合
		105	細石刃核	1	P25	B	1384					黒曜石1	22	6		4点接合
Ⅲ－28	10－1	293	縦長剥片	1	P25	Ⅰ	1107	35	11	4	0.8	黒曜石1	22	6		
Ⅲ－28	10－1	294	縦長剥片	1	P25	Ⅱ	633	98	32	21	34.7	黒曜石1	22	6		3点接合
					P25	Ⅰ	1091						22	6		
					Q25	Ⅰ	141						22	6		

図版１　航空写真

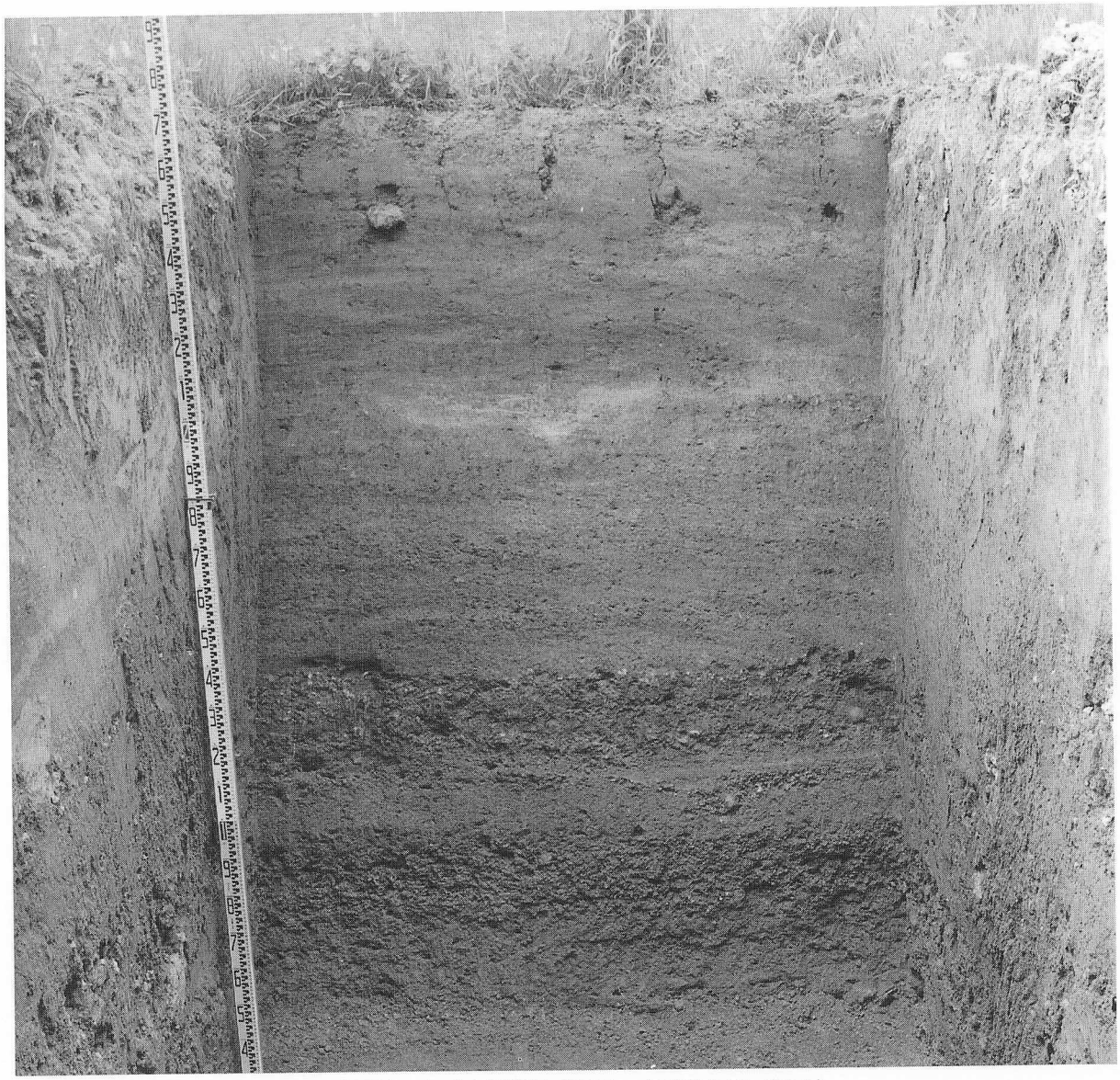


１　遺跡と上川町市街（南から）

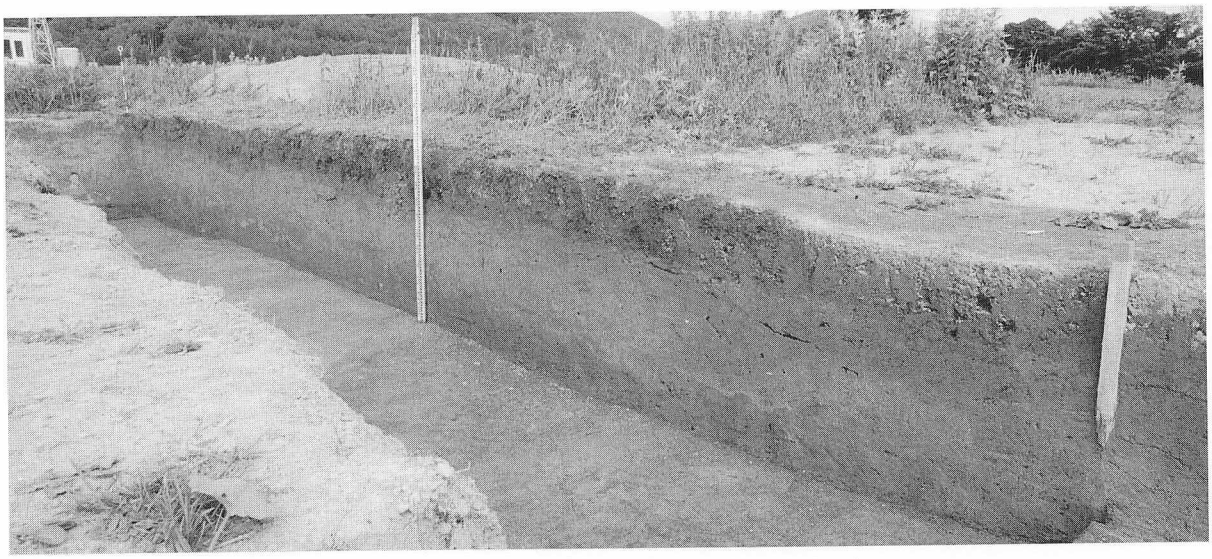


２　遺跡全景（西から）

図版２　土層断面



1　試掘トレンチ土層断面（軽石サンプル採取地点3、東から）



2　試掘トレンチ土層断面（0－32～35南壁、北西から）

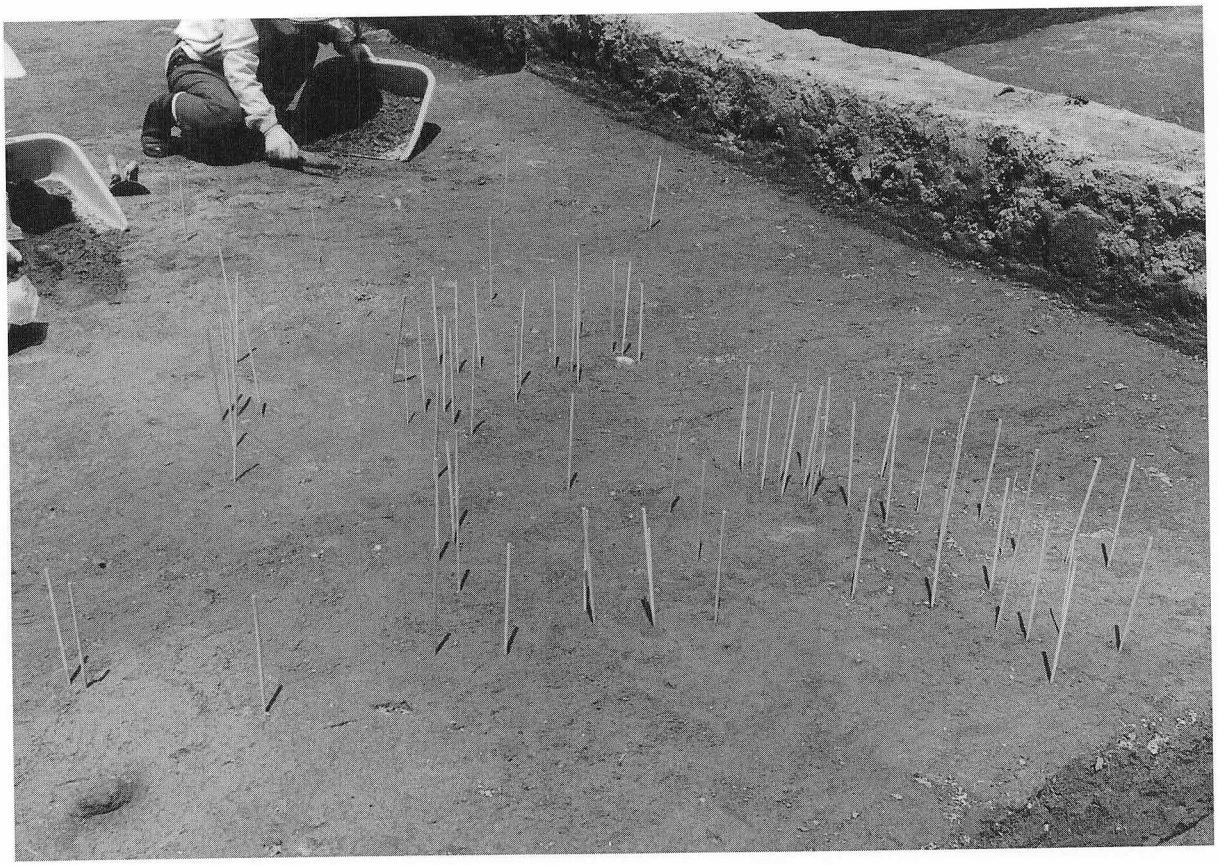
図版３　調査状況ほか

1　昭和55・56年調査区域（今年度調査地点、南西から）

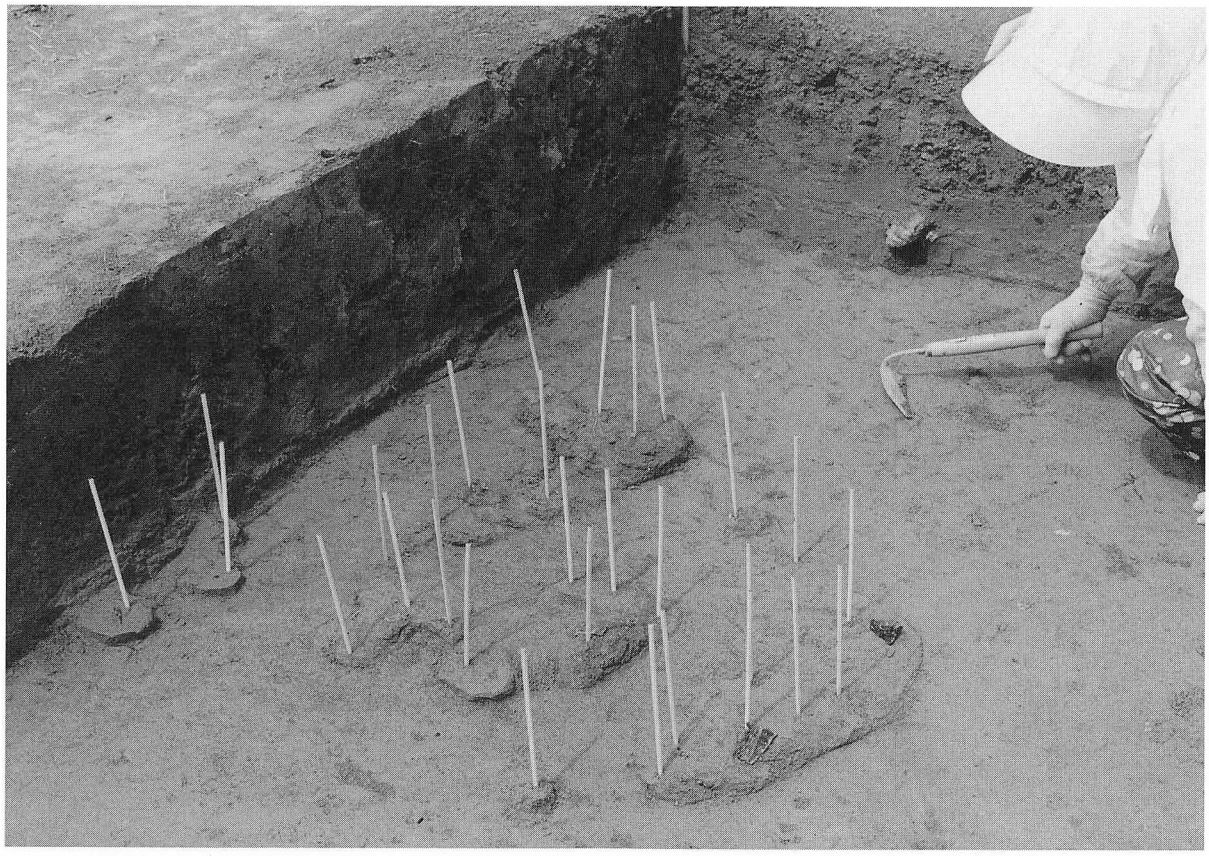
2　25%調査（北西から）

図版４　遺物出土状況（1）

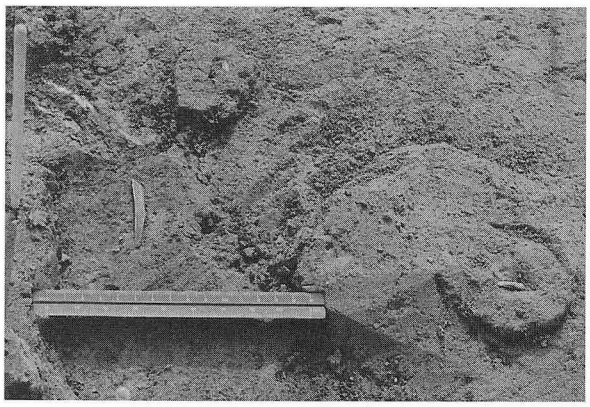
1　石器ブロック1（P－25区、南西から）



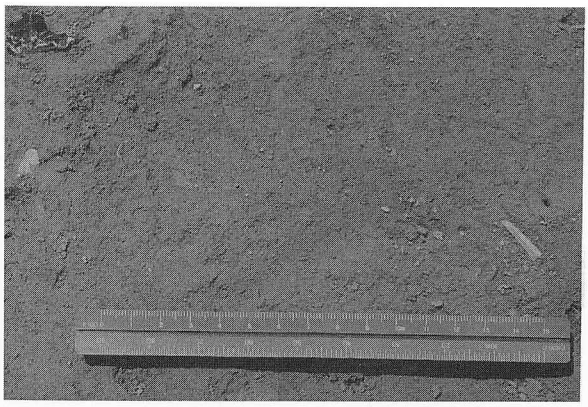
2　石器ブロック1（P－25区、南西から）



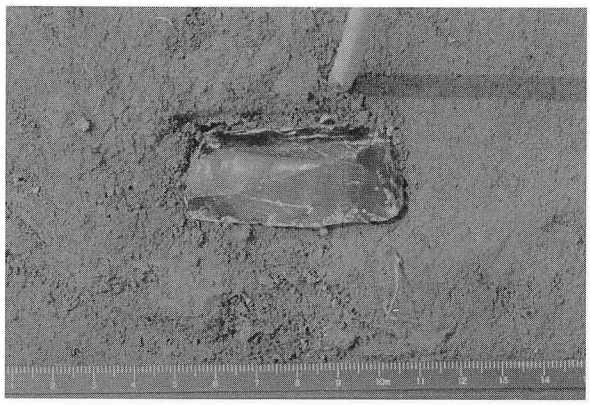
1　石器ブロック1（Q－25区、南西から）



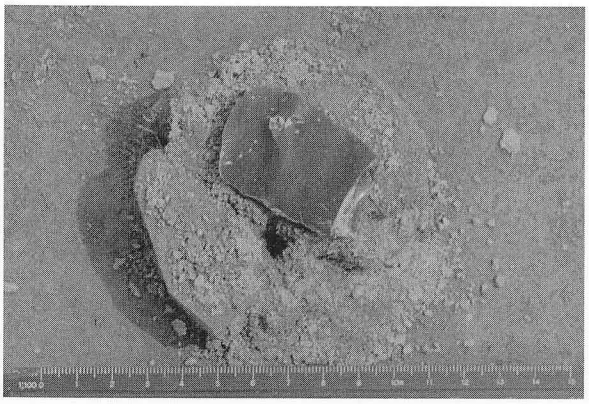
2　石器ブロック1・細石刃



3　石器ブロック1・細石刃

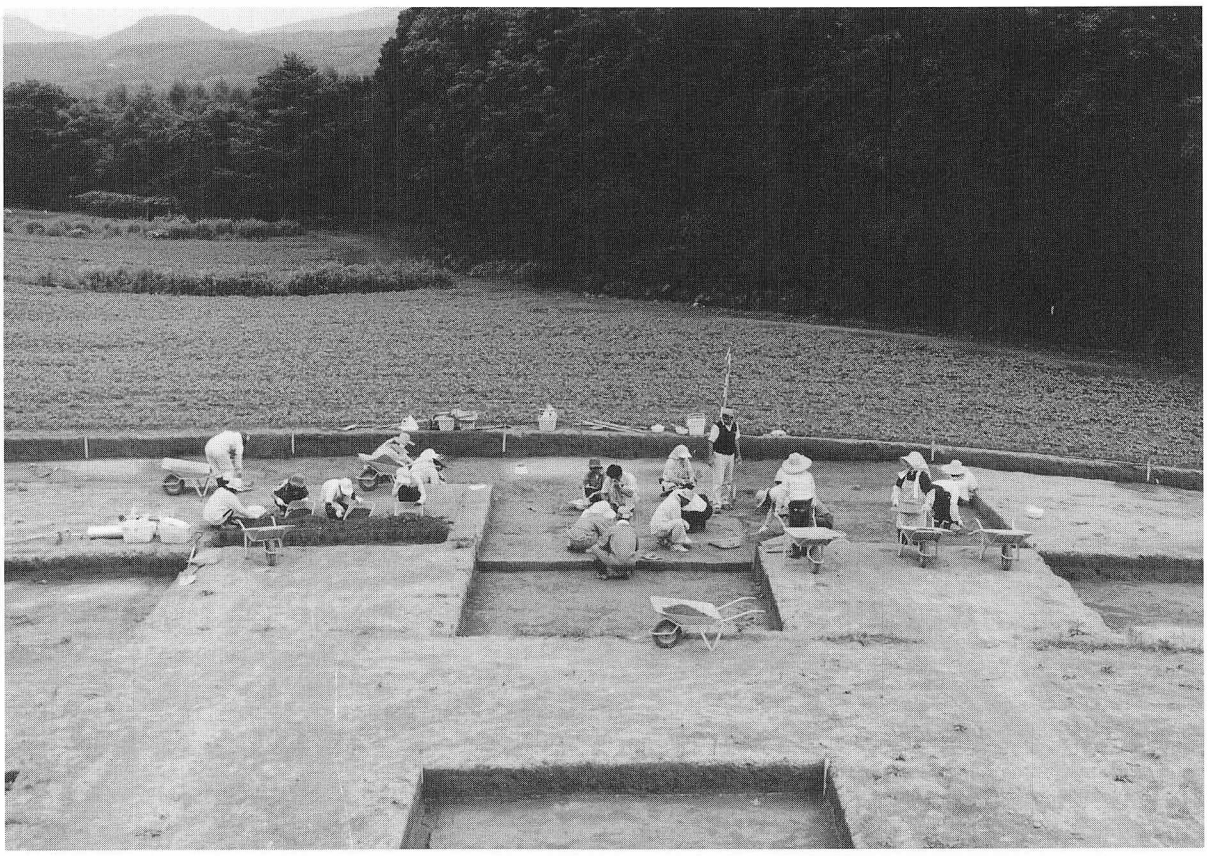


4　石器ブロック1・掻器

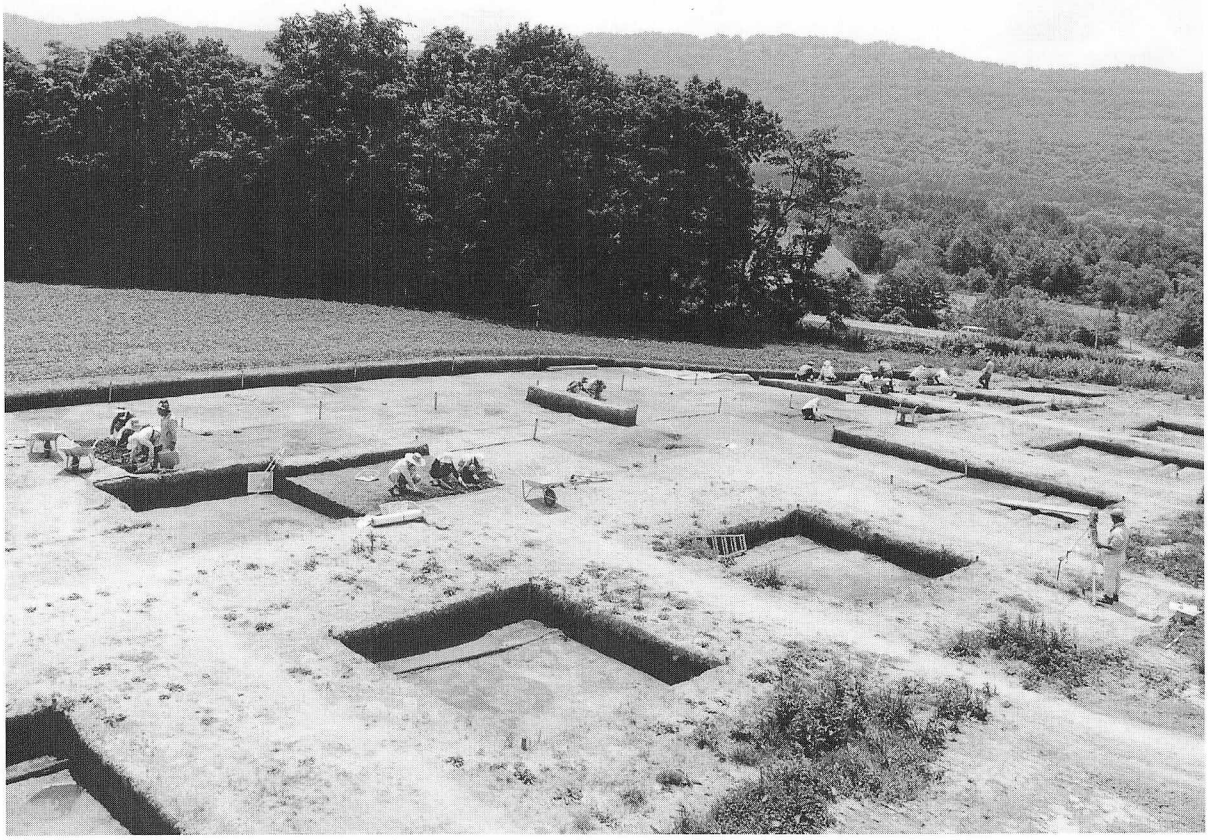


5　石器ブロック1・掻器

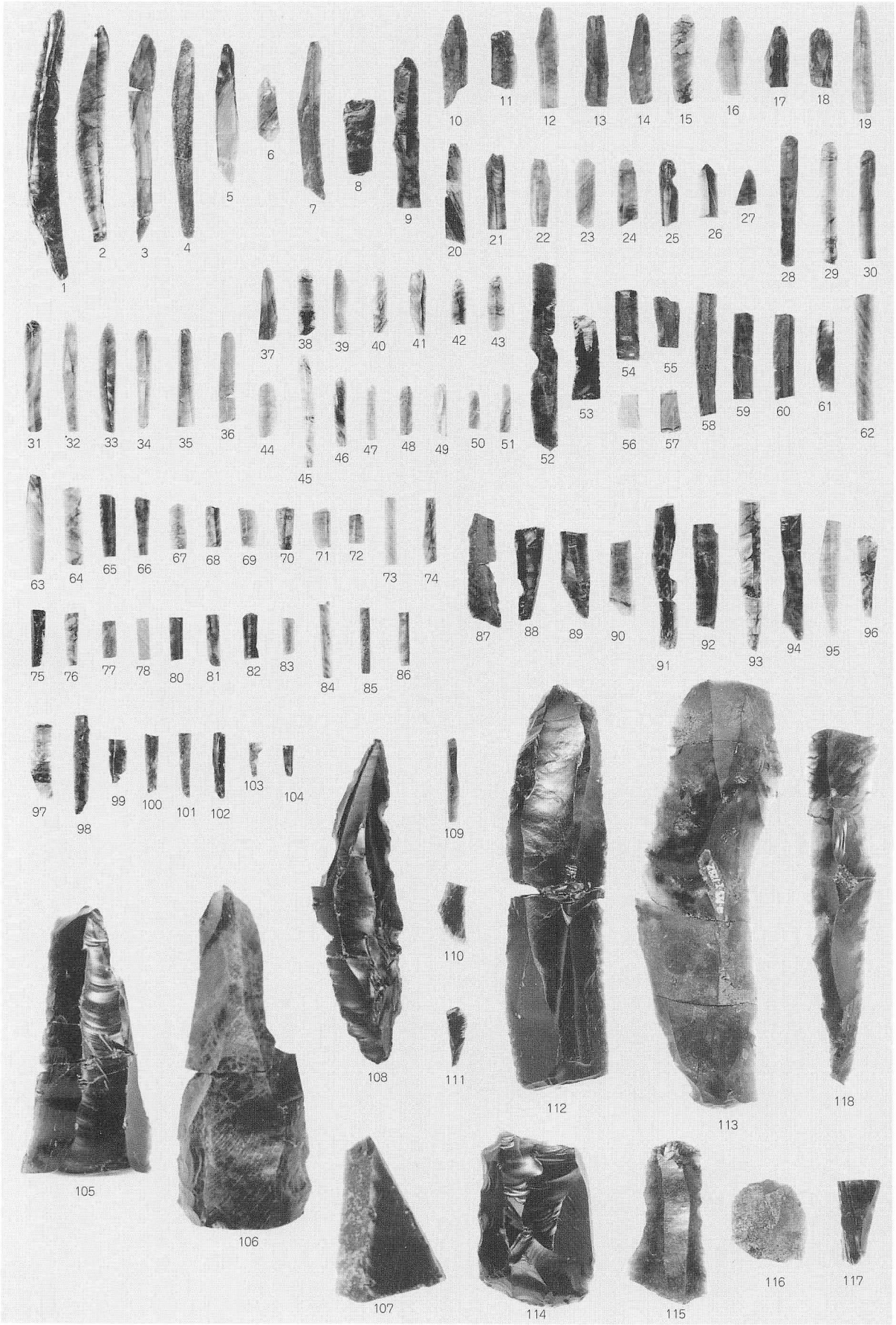
図版６　調査状況



1　包含層調査（P－25付近、北から）

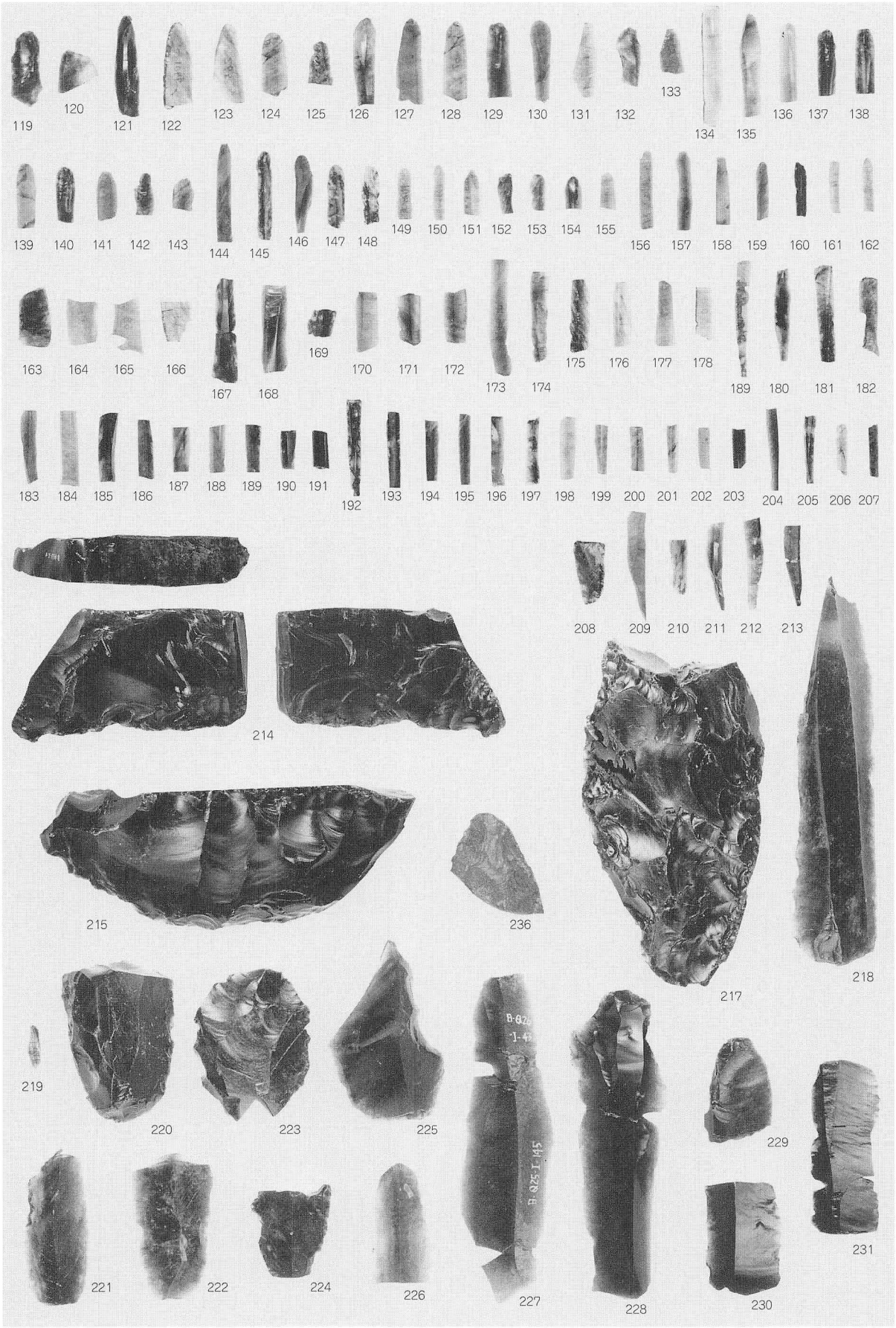


2　包含層調査（北東から）

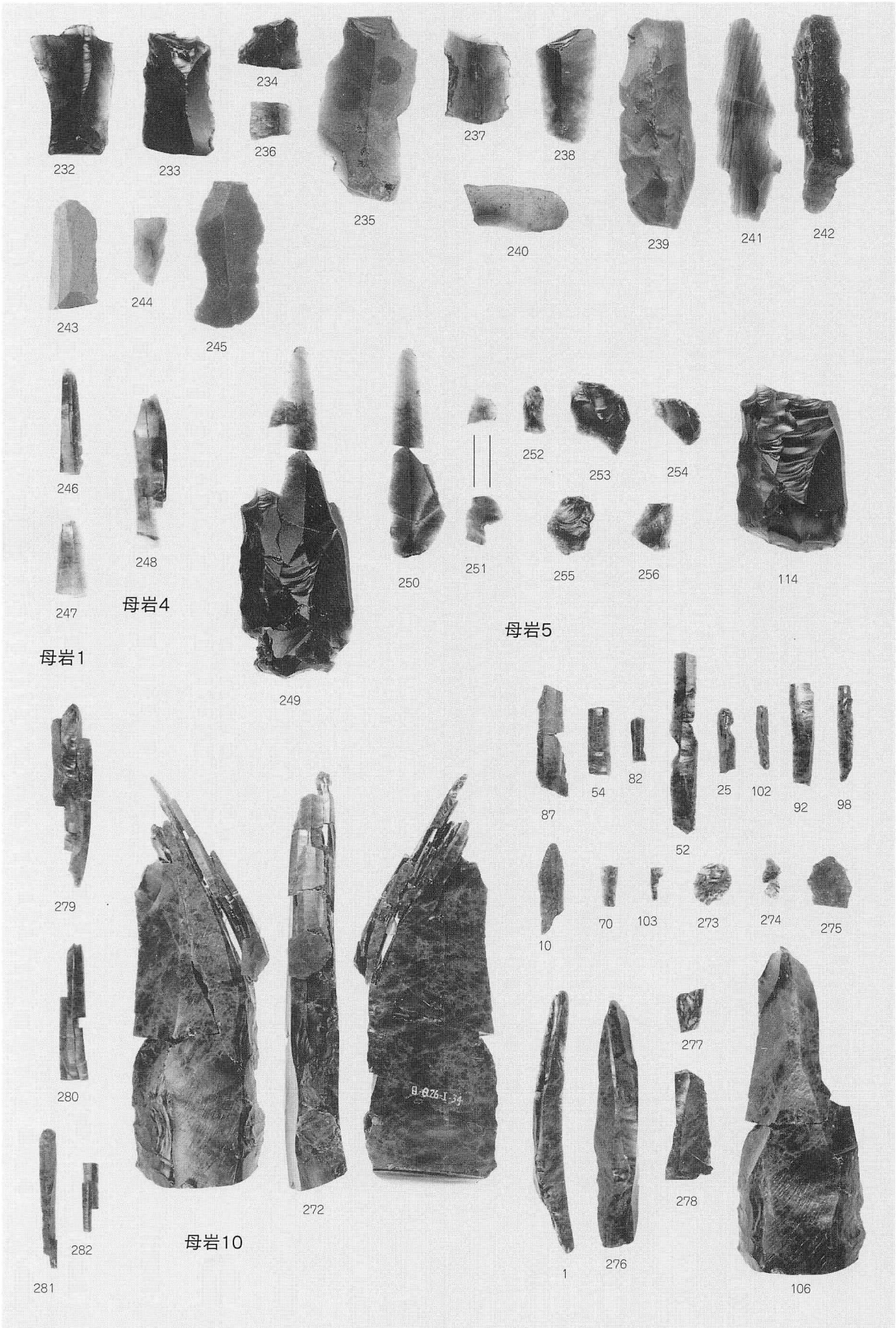


1　Ⅱ層出土の石器（2/3）

図版８　出土遺物（2）

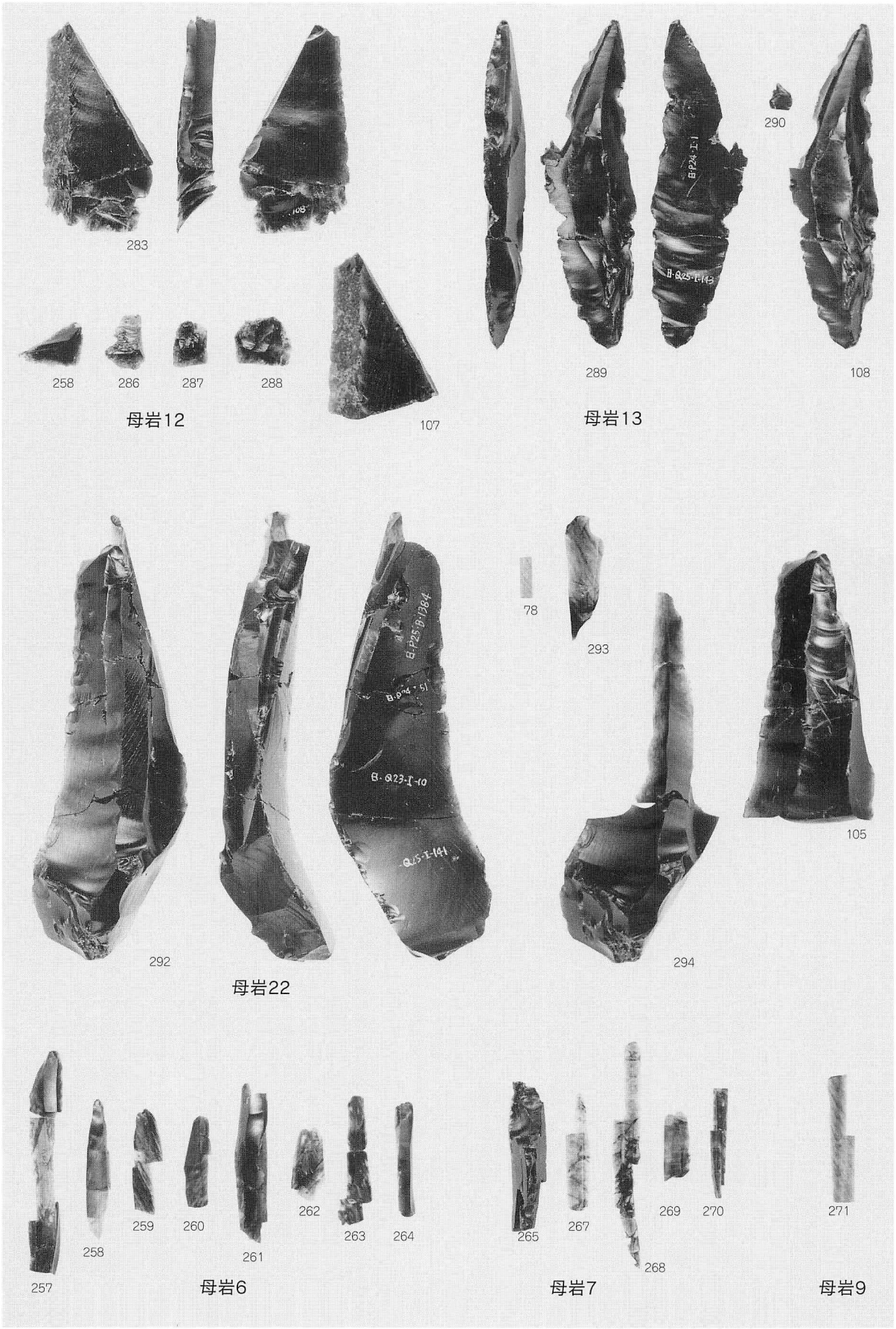


1　Ⅰ層出土の石器（1）(2/3)

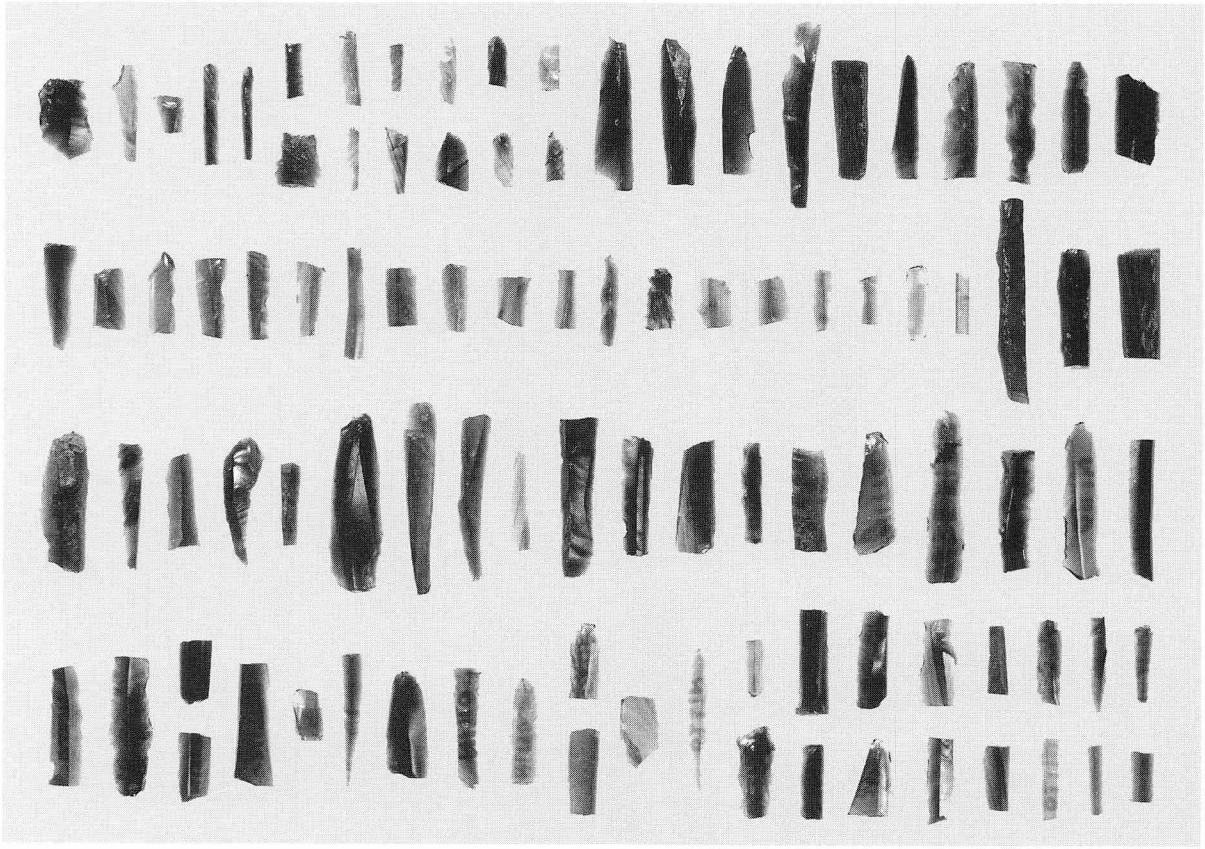


1　Ⅰ層出土の石器（2）・母岩別資料（1）（2/3）

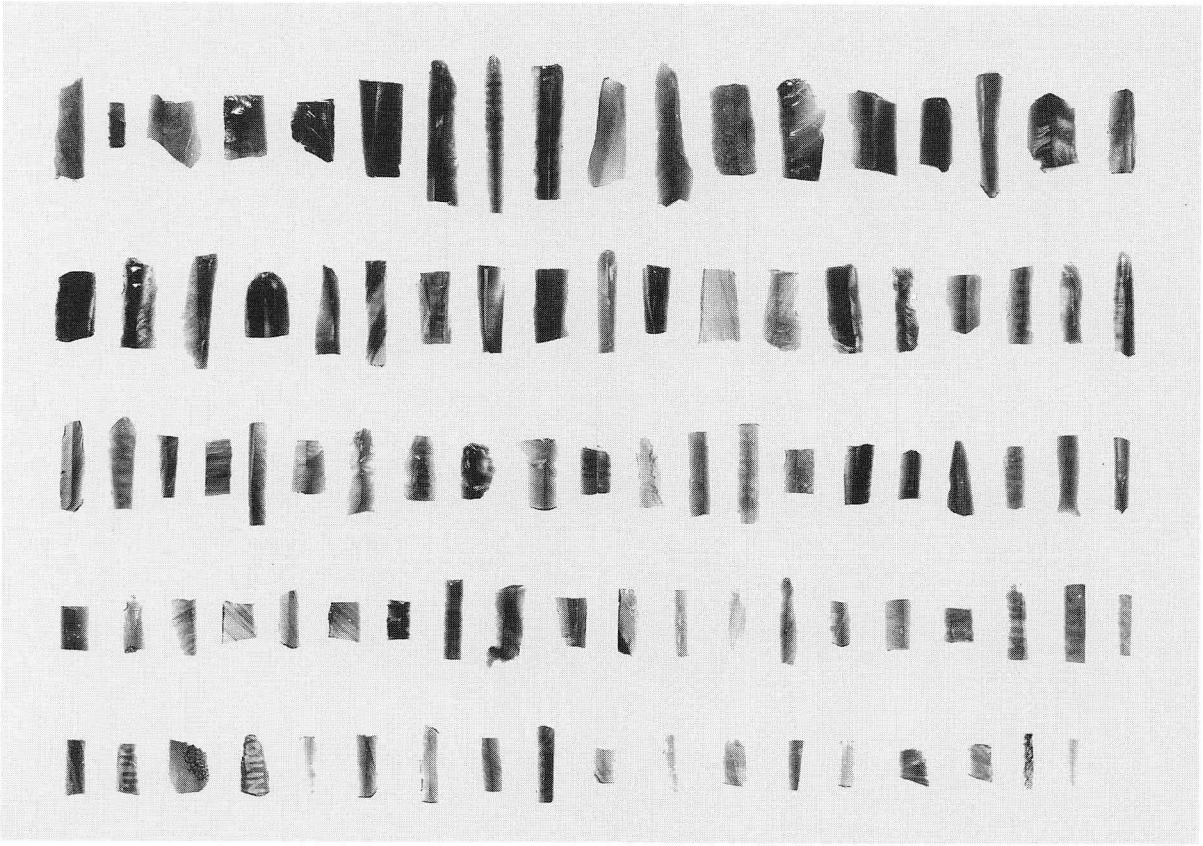
図版10　出土遺物（4）



1　母岩別資料（2）（2/3）

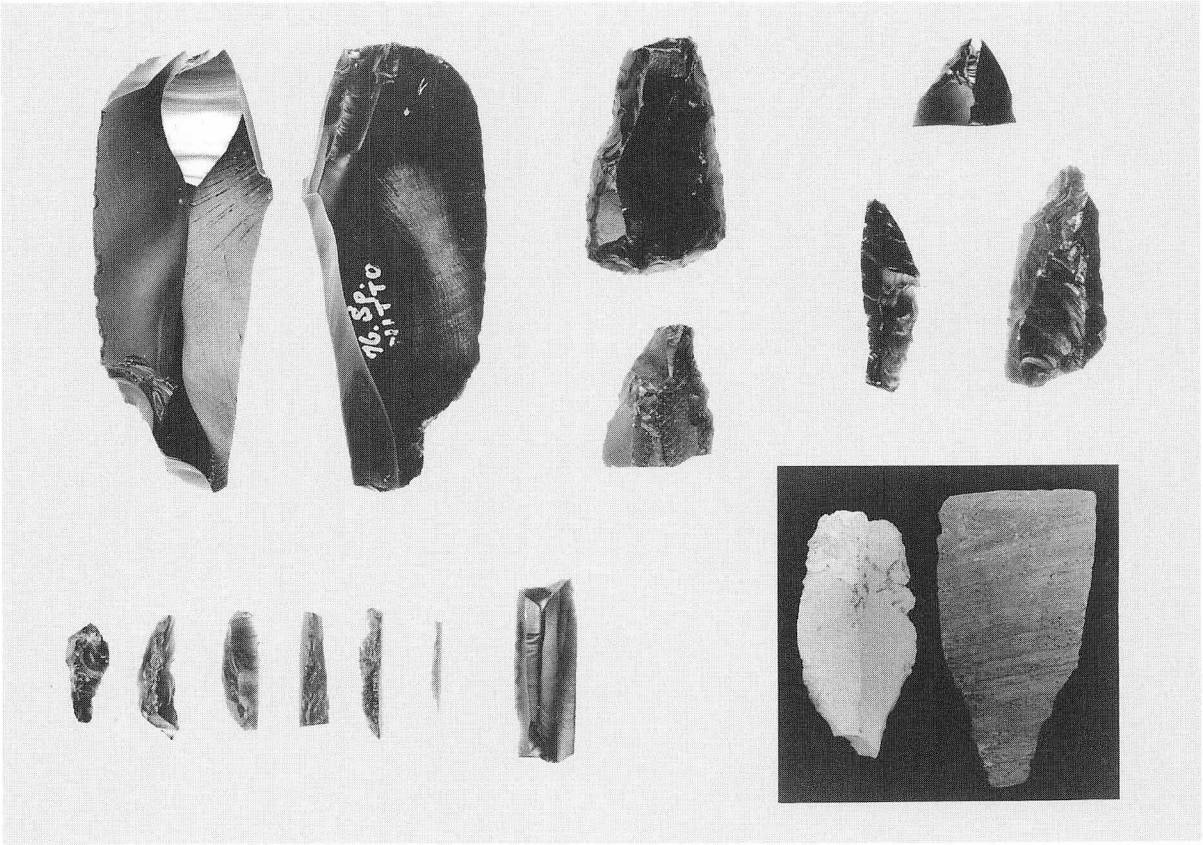


1　細石刃（1）(2/3)

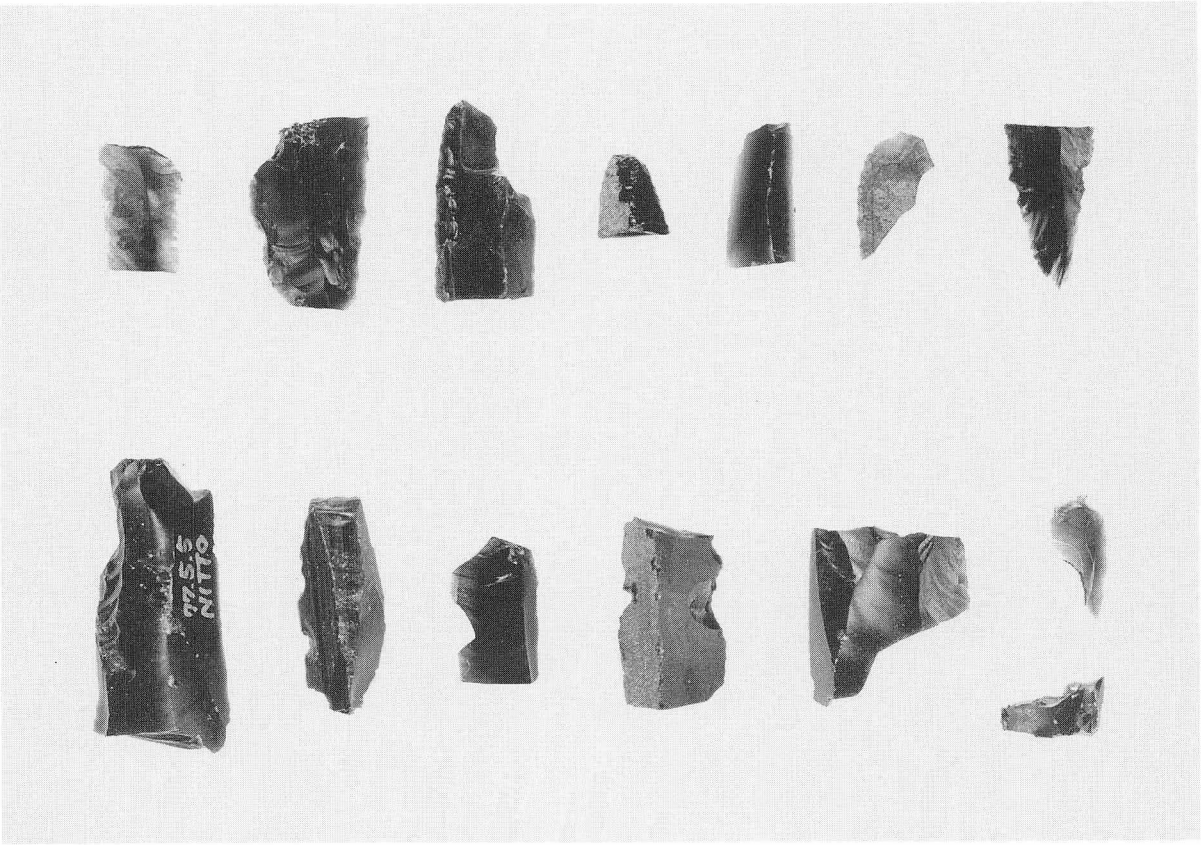


2　細石刃（2）(2/3)

図版12　中谷資料（2）



1　細石刃核・彫器・掻器ほか（2/3）



2　削器・石刃（2/3）

報告書抄録

ふりがな	にっとういせき
書名	日東遺跡
副書名	一般国道450号上川町上川上越道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第141集
編著者名	長沼孝・越田雅司・佐藤剛
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069－0832 北海道江別市西野685－1 TEL.011－386－3231
発行年月日	2000年3月24

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
日東遺跡（にっとういせき）	北海道（ほっかいどう） 上川郡（かみかわぐん） 上川町（かみかわちょう） 字日東（あざにっとう）78	01457	F－10－3	43° 50′ 12″	142° 47′ 37″	19990607～ 19990728	1,126㎡	道路建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日東遺跡	遺物包含地	旧石器時代	炭化木片ブロック 2カ所	細石刃・細石刃核・掻器・削器・彫器・尖頭器・石刃など （総点数2,708点）	石器ブロック 1カ所 射的山型（広郷型）細石刃核

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第141集

上川町

日　東　遺　跡

一般国道450号上川町上川上越道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成12年 3 月24日

編集・発行　財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685－1
TEL(011)386－3231　FAX(011)386－3238

印　　刷　柏楊印刷株式会社
〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号
TEL(011)789－2377　FAX(011)789－2376